安曇野市の埋蔵文化財第 24 集

令和 2 年度
安曇野市埋蔵文化財調査報告書

2022. 3

安曇野市教育委員会

安曇野市の埋蔵文化財第 24 集

Annual Report of
Buried Cultural Property
in Azumino City
April, 2020 - March, 2021

令和 2 年度
安曇野市埋蔵文化財調査報告書

2022. 3
安曇野市教育委員会

表紙写真　明科遺跡群本町遺跡出土土師器壺

裏表紙写真　明科遺跡群本町遺跡出土短刀

例言

1　本書は、長野県安曇野市（ながのけんあづみの）で令和２年度（2020年４月１日～2021年３月31日）に実施した埋蔵文化財保護事業及び長野県史跡多田加助宅跡の現状変更等にかかる調査の報告書である。

2　本書の編集は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が行った。執筆は土屋和章・臼居直之が担当し、中谷高志が統括した。

3　本書で使用した主な引用・参考文献は、巻末に一括して掲載した。

4　本書掲載の調査に関する出土遺物及び事務書類、記録類は安曇野市教育委員会が保管している。

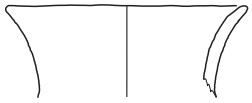
凡例

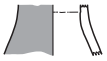
1　遺物の法量表示について、観察表中では次のように記載した。

口径等の「実／復」欄　　実：残存箇所を計測した場合　　復：図上復元した場合

器高の「完／残」欄　　完：完形資料を計測した場合　　残：残存高を計測した場合

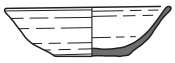
2　本書実測図で、遺物は次の基準で表現した。また、縮尺は各図に示した。



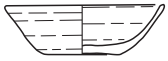


弥生土器赤彩　灰色（40%）

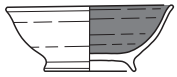
須恵器　断面黒



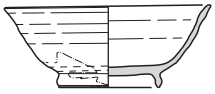
軟質須恵器　断面灰色（70%）



縄文土器・弥生土器・土師器
断面無地



黒色土器　灰色（60%）



施釉陶器　断面灰色（18%）

3　土器の記載では、器形について「形土器」の表記を省略した。

例　甕形土器：甕　　高坏形土器：高坏

4　土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』に準じた。

5　本書では、平成17年（2005）10月１日の町村合併より前の旧郡名・旧町村名について「旧」を省略し、「東筑摩郡」、「明科町」のように表記した。

6　本書掲載の地形図は個別の記載のない場合、安曇野市都市計画基本図（１/2,500）を基図とし、調製したものである。

7　文献引用等に際し、各機関の名称を以下のように省略した。

教育委員会：教委　　編纂委員会：編纂委

目次

例言・凡例
目次・挿図目次・挿表目次
第１章　令和２年度埋蔵文化財保護事業 …… 1
　1　埋蔵文化財保護事業の概要 …… 1
第２章　試掘調査 …… 13
　1　明科遺跡群県町遺跡 …… 13
　2　等々力町巾上巾下遺跡 …… 16
　3　明科遺跡群本町遺跡・明科遺跡群龍門淵遺跡 …… 18
　4　明科遺跡群栄町遺跡 …… 21
　5　明科遺跡群明科廃寺 …… 24
　6　明科遺跡群県町遺跡 …… 28
　7　南松原遺跡 …… 31
　8　潮遺跡群潮神明宮前遺跡 …… 34
　9　潮遺跡群潮神明宮前遺跡 …… 38
　10　八ツ口遺跡 …… 41
　11　三枚橋遺跡 …… 45
第３章　工事立会 …… 48
　1　追堀遺跡 …… 48
　2　明科遺跡群本町遺跡 …… 52
第４章　史跡の現状変更等 …… 59
　1　長野県史跡　多田加助宅跡 …… 59
引用・参考文献 …… 66
調査報告書抄録

挿図目次

第１図　発掘調査等位置図（北部）…… 2
第２図　発掘調査等位置図（南部）…… 4
第３図　発掘調査等位置図（穂高駅周辺）…… 6
第４図　発掘調査等位置図（明科駅周辺）…… 7
第５図　県町遺跡試掘位置図 …… 13
第６図　県町遺跡試掘トレンチ配置図 …… 14
第７図　県町遺跡試掘土層概念図 …… 14
第８図　等々力町巾上巾下遺跡試掘位置図 …… 16
第９図　等々力町巾上巾下遺跡試掘
　　調査区配置図 …… 17
第10図　等々力町巾上巾下遺跡試掘
　　土層概念図 …… 17
第11図　本町遺跡・龍門淵遺跡試掘位置図 …… 18
第12図　本町遺跡･龍門淵遺跡試掘
　　トレンチ配置図 …… 19
第13図　本町遺跡・龍門淵遺跡試掘
　　土層概念図 …… 19
第14図　栄町遺跡試掘位置図 …… 21
第15図　栄町遺跡試掘トレンチ配置図 …… 22
第16図　栄町遺跡試掘土層概念図 …… 22
第17図　明科廃寺試掘位置図 …… 24
第18図　明科廃寺推定区画図 …… 25
第19図　明科廃寺試掘トレンチ配置図 …… 25
第20図　明科廃寺試掘概要図 …… 26
第21図　県町遺跡試掘位置図 …… 28
第22図　県町遺跡試掘トレンチ配置図 …… 29
第23図　県町遺跡試掘土層概念図 …… 29
第24図　南松原遺跡試掘位置図 …… 31
第25図　南松原遺跡試掘トレンチ配置図 …… 32
第26図　南松原遺跡試掘土層概念図 …… 32
第27図　潮神明宮前遺跡試掘位置図 …… 34
第28図　潮神明宮前遺跡試掘トレンチ配置図 …… 35
第29図　潮神明宮前遺跡試掘セクション図 …… 35
第30図　潮神明宮前遺跡試掘出土遺物 …… 36
第31図　潮神明宮前遺跡試掘出土遺物写真 …… 36
第32図　潮神明宮前遺跡試掘位置図 …… 38
第33図　潮神明宮前遺跡試掘トレンチ配置図 …… 39
第34図　潮神明宮前遺跡試掘セクション図 …… 39
第35図　潮神明宮前遺跡試掘出土土器 …… 40
第36図　潮神明宮前遺跡試掘出土土器写真 …… 40
第37図　八ツ口遺跡試掘位置図 …… 41
第38図　八ツ口遺跡試掘トレンチ配置図 …… 42
第39図　八ツ口遺跡試掘土層断面図 …… 42
第40図　八ツ口遺跡試掘出土遺物 …… 43
第41図　八ツ口遺跡試掘出土遺物写真 …… 43
第42図　三枚橋遺跡試掘位置図 …… 45
第43図　三枚橋遺跡試掘トレンチ配置図 …… 46
第44図　三枚橋遺跡試掘土層概念図 …… 46
第45図　追堀遺跡工事立会位置図 …… 48
第46図　追堀遺跡工事立会土層概念図 …… 49
第47図　追堀遺跡工事立会出土土器 …… 49
第48図　追堀遺跡工事立会出土土器写真 …… 50
第49図　本町遺跡工事立会位置図 …… 52
第50図　本町遺跡工事立会概要図 …… 53
第51図　本町遺跡工事立会出土遺物１ …… 53
第52図　本町遺跡工事立会出土遺物２ …… 54
第53図　本町遺跡工事立会出土遺物写真 …… 55
第54図　多田加助宅跡調査位置図 …… 59
第55図　堀の規模の比較 …… 60
第56図　①上水道管敷設にかかる調査概要図 …… 61
第57図　②切株撤去にかかる調査平面図 …… 63
第58図　切株撤去にかかる調査セクション図 …… 64

挿表目次

第 1 表　発掘調査等一覧 …… 8
第 2 表　潮神明宮前遺跡試掘出土遺物観察表 … 36
第 3 表　潮神明宮前遺跡試掘出土土器観察表 … 40
第 4 表　八ツ口遺跡試掘出土遺物観察表 …… 44
第 5 表　追堀遺跡工事立会出土土器観察表 …… 50
第 6 表　本町遺跡工事立会出土遺物観察表 …… 56

第１章　令和２年度埋蔵文化財保護事業

１　埋蔵文化財保護事業の概要

（１）事務局の体制

令和２年度の安曇野市における埋蔵文化財保護事業は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が担当した。体制は次のとおりである。

事務局　安曇野市教育委員会教育部　文化課　文化財保護係

文化課長	山下泰永
文化財保護係長	中谷高志
文化財保護係	土屋和章、横山幸子、佐藤眞弓、臼居直之、田多井智恵、望月裕子、宮下智美

（２）地理的環境と遺跡の立地

安曇野市は平成17年（2005）10月１日に豊科町（とよしなまち）、穂高町（ほたかまち）、三郷村（みさとむら）、堀金村（ほりがねむら）、明科町（あかしなまち）の５町村が合併して誕生した市で、長野県のほぼ中央部に位置し、北は大町市（おおまちし）、松川村（まつかわむら）、池田町（いけだまち）、生坂村（いくさかむら）、筑北村（ちくほくむら）、南は松本市（まつもとし）に隣接する。地形的には松本盆地の中ほどにあり、西は飛騨（ひだ）山脈、東は筑摩（ちくま）山地に囲まれる。松本盆地は、縁辺部から流れる複数の河川が運搬した堆積物が形成している。

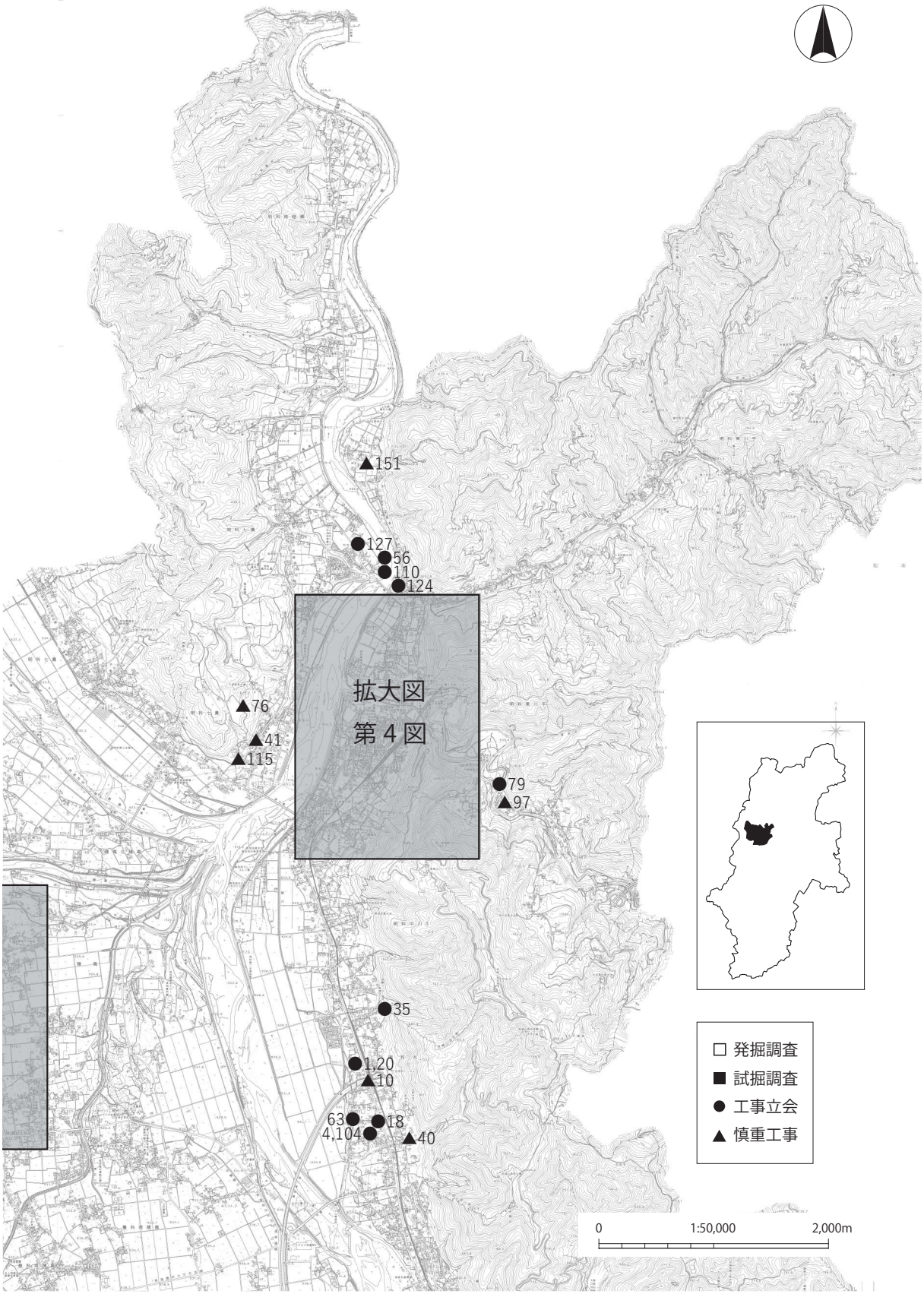
安曇野市内に所在する遺跡は、現在398か所が周知の埋蔵文化財包蔵地となっており、縄文時代早期から現代にわたる。縄文時代の遺跡は、飛騨山脈山麓及び犀川（さいがわ）以東の河岸段丘上に多く立地しており、過去の調査から、縄文時代中期に隆盛を極めたことがわかる。弥生時代になると遺跡数は減少し、集落の立地も扇状地扇央及び扇端へ移る。生業形態の変化によって集落の立地が変化した可能性があり、この集落立地は基本的に現代まで踏襲されている。安曇野市では、前・中期の古墳は現在までに確認されておらず、後期の群集墳が飛騨山脈山麓や明科地域に分布する。奈良時代以降は、前時代までの立地を踏襲するように犀川以西の扇端と犀川以東の河岸段丘上に集落が営まれるなか、明科地域では明科遺跡群明科廃寺（あかしなはいじ）と呼ばれる古代寺院の存在が確認されている。また、豊科田沢（たざわ）の山間部一帯から隣接する松本市域にかけては須恵器窯群が築かれている。

（３）令和２年度の概要

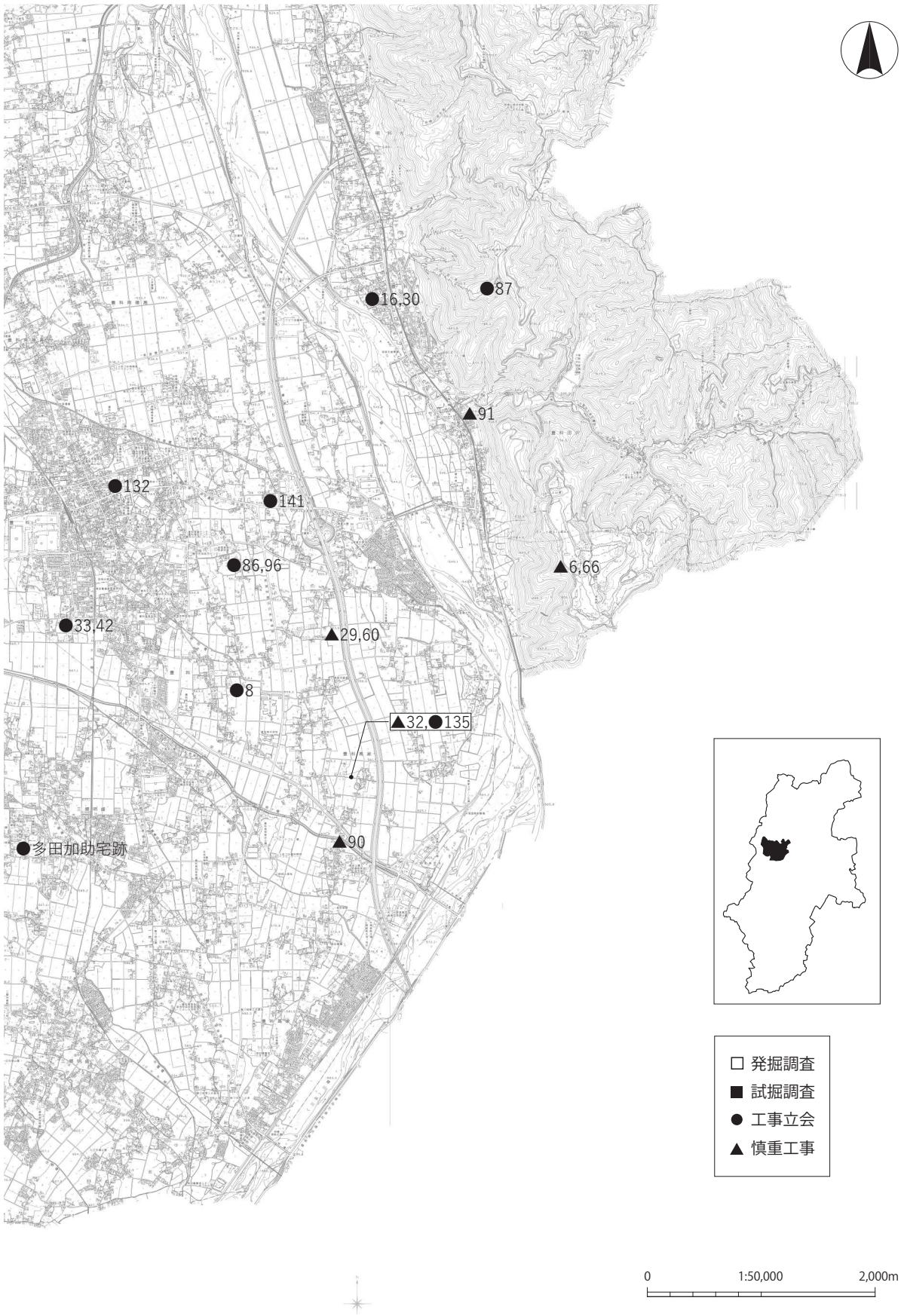
令和２年度の安曇野市内における発掘調査等の総数は全157件であった（第１表）。このうち安曇野市教育委員会が主体となって実施した発掘調査等は合計157件である。内訳は、発掘調査２件、試掘11件、工事立会88件、慎重工事56件となっている。それぞれの位置を第１～４図に示す。試掘調査の詳細は第２章に、工事立会の詳細は第３章に記載した。

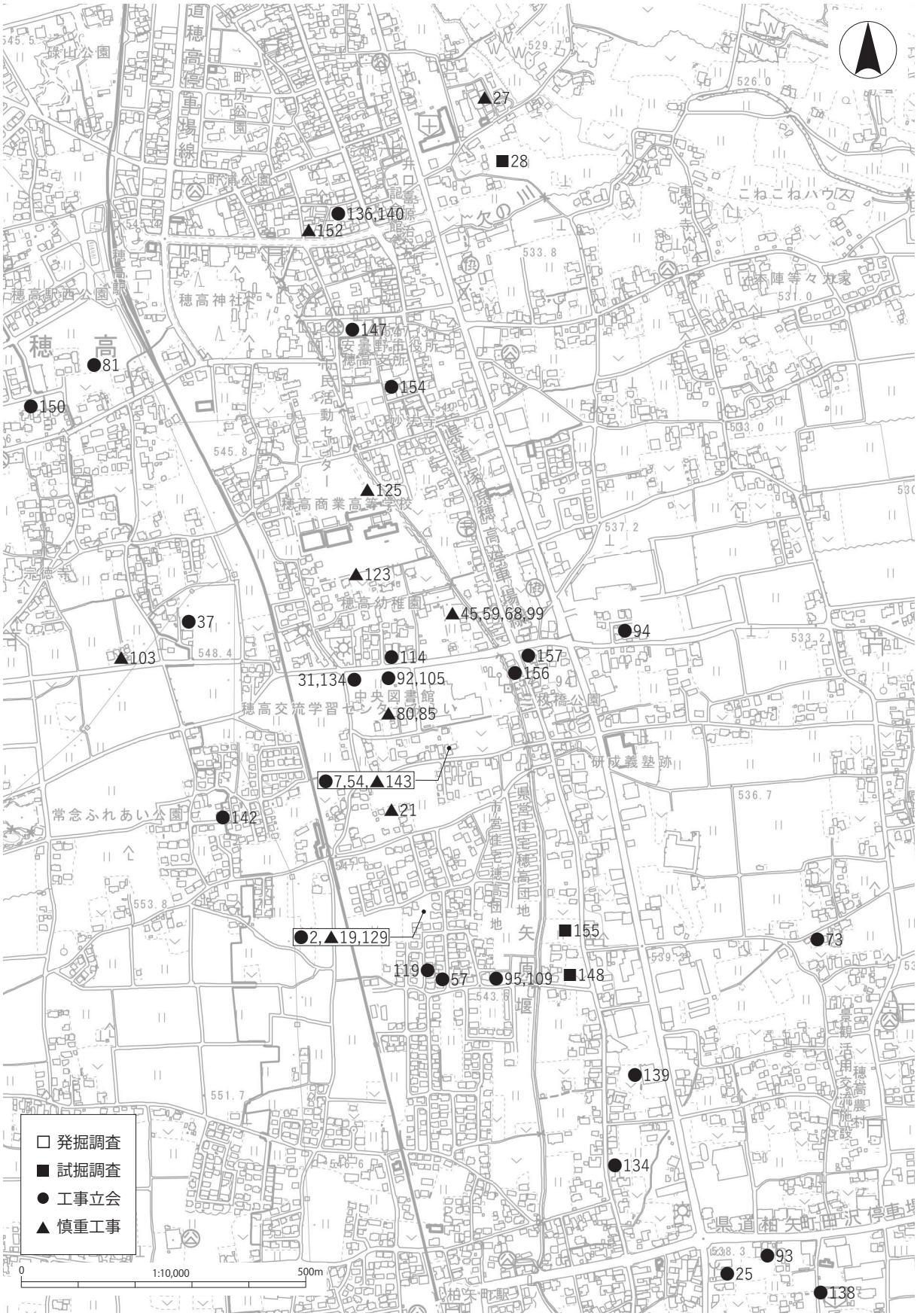
令和２年度は、國學院大學文学部考古学研究室による穂高古墳群Ｆ９号墳の学術調査は実施しなかった。

第１図　発掘調査等位置図（北部）

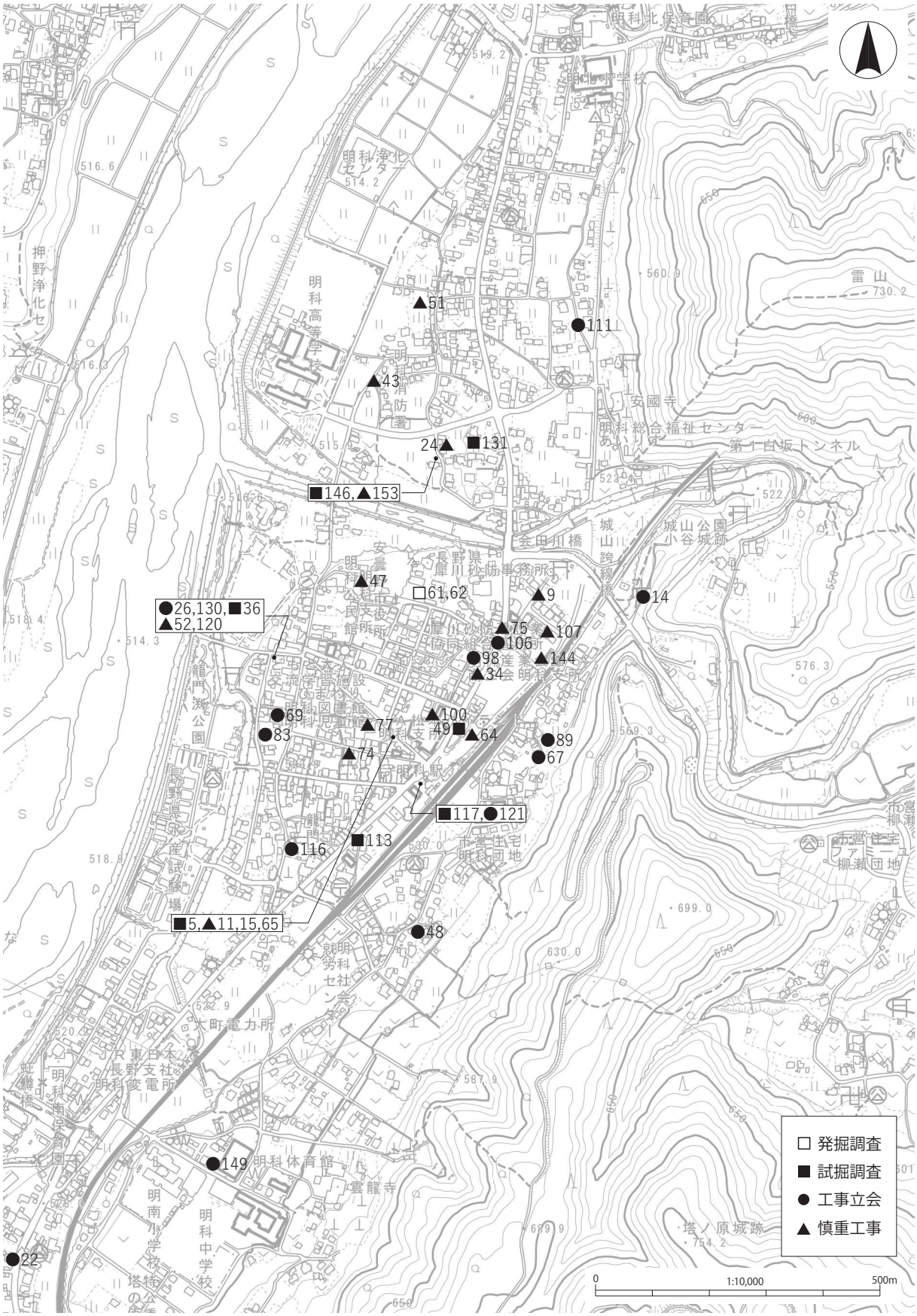

151
127
56
110
124
拡大図
第４図
76
41
115
79
97
35
1,20
10
63
4,104
18
40
□ 発掘調査
■ 試掘調査
● 工事立会
▲ 慎重工事
0
1:50,000
2,000m

第２図　発掘調査等位置図（南部）


●16,30
●87
▲91
●132
●141
●86,96
▲6,66
●33,42
▲29,60
●8
▲32,●135
●多田加助宅跡
▲90
□ 発掘調査
■ 試掘調査
● 工事立会
▲ 慎重工事
0
1:50,000
2,000m



第３図　発掘調査等位置図（穂高駅周辺）



第４図　発掘調査等位置図（明科駅周辺）

第１表　発掘調査等一覧

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日＿自	調査日＿至	調査主体
●１	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光183番２外２筆	個人住宅	20200401	20200401	市教委
●２	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1672番11外１筆	ガス・水道・電気等	20200403	20200403	市教委
●３	工事立会	穂高古墳群Ｆ１号墳ほか	穂高柏原2257番16外	その他開発	20200406	20200406	市教委
●４	工事立会	光遺跡群中条遺跡	明科光857番１外２筆	個人住宅	20200407	20200407	市教委
■５	試掘	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3739番３	道路	20200408	20200408	市教委
▲６	慎重工事	上ノ山窯跡群ほか	豊科田沢8141番473外	その他開発	20200409	20200409	市教委
●７	工事立会	追堀遺跡	穂高6750番１	宅地造成	20200423	20200423	市教委
●８	工事立会	吉野町遺跡	豊科3038番外	個人住宅	20200424	20200424	市教委
▲９	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4135番４	道路	20200427	20200427	市教委
▲10	慎重工事	光遺跡群北村遺跡	明科光432番６	道路	20200427	20200427	市教委
▲11	慎重工事	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3739番１	その他開発	20200427	20200427	市教委
●12	工事立会	神谷遺跡	穂高牧920番	ガス・水道・電気等	20200501	20200501	市教委
●13	工事立会	上総屋敷遺跡	三郷温2058番１外２筆	個人住宅	20200507	20200507	市教委
●14	工事立会	こや城	明科中川手4619番１外１筆	ガス・水道・電気等	20200507	20200507	市教委
▲15	慎重工事	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3739番１の内	店舗	20200507	20200507	市教委
●16	工事立会	光遺跡	豊科光1588番５外１筆	個人住宅	20200508	20200508	市教委
●17	工事立会	空保木城跡	穂高牧1110番５外	工場	20200408	20200508	市教委
●18	工事立会	光遺跡群中条遺跡	明科光775番１外１筆	個人住宅	20200512	20200512	市教委
▲19	慎重工事	追堀遺跡	穂高柏原1672番12	個人住宅	20200512	20200512	市教委
●20	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光185番２外２筆	個人住宅	20200513	20200513	市教委
▲21	慎重工事	追堀遺跡	穂高柏原1700番41	個人住宅	20200514	20200514	市教委
●22	工事立会	町屋敷遺跡	明科中川手2504番２の一部	個人住宅	20200515	20200515	市教委
▲23	慎重工事	他谷遺跡	穂高牧1041番５	ガス・水道・電気等	20200518	20200518	市教委
▲24	慎重工事	潮遺跡群潮神明宮前遺跡	明科東川手510番１	その他開発	20200525	20200525	市教委
●25	工事立会	馬場街道遺跡	穂高786番１外２筆	その他の建物	20200527	20200527	市教委
●26	工事立会	明科遺跡群龍門淵遺跡ほか	明科中川手3929番２外１筆	その他開発	20200519	20200528	市教委
▲27	慎重工事	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4620番１	工場	20200529	20200529	市教委
■28	試掘	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4284番１外１筆	その他開発	20200605	20200605	市教委
▲29	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科高家3969番16	個人住宅	20200605	20200605	市教委
●30	工事立会	光遺跡	豊科光1590番３	ガス・水道・電気等	20200610	20200610	市教委
●31	工事立会	藤塚遺跡	穂高6780番５	個人住宅	20200611	20200611	市教委
▲32	慎重工事	小海渡遺跡	豊科高家3100番７	道路	20200611	20200611	市教委
●33	工事立会	成相氏館跡	豊科1909番６外１筆	個人住宅	20200615	20200615	市教委
▲34	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手6833番11	個人住宅	20200616	20200616	市教委
●35	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光１番５の一部	個人住宅	20200617	20200617	市教委
■36	試掘	明科遺跡群本町遺跡ほか	明科中川手3929番４外１筆	道路	20200618	20200618	市教委
●37	工事立会	南原遺跡	穂高6905番４	個人住宅	20200619	20200619	市教委

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日＿自	調査日＿至	調査主体
●38	工事立会	空保木城跡	穂高牧1086番外２筆	その他開発	20200622	20200622	市教委
●39	工事立会	下堀道南遺跡	堀金烏川4888番１	その他の建物	20200624	20200624	市教委
▲40	慎重工事	光遺跡群北村遺跡ほか	明科光736番５先外	ガス・水道・電気等	20200625	20200625	市教委
▲41	慎重工事	上野遺跡ほか	明科七貴6234番１先	道路	20200625	20200625	市教委
●42	工事立会	成相氏館跡	豊科1909番２外１筆	ガス・水道・電気等	20200626	20200626	市教委
▲43	慎重工事	潮遺跡群潮神明宮前遺跡	明科東川手13番付近	道路	20200629	20200629	市教委
▲44	慎重工事	貝梅道上遺跡	穂高5033番12外	個人住宅	20200629	20200629	市教委
▲45	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6806番８	個人住宅	20200702	20200702	市教委
●46	工事立会	宗徳寺遺跡	穂高6442番６外１筆	個人住宅	20200707	20200707	市教委
▲47	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4249番11付近	ガス・水道・電気等	20200707	20200707	市教委
●48	工事立会	明科遺跡群上郷遺跡	明科中川手3586番４	その他開発	20200714	20200714	市教委
■49	試掘	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手3727番１	道路	20200715	20200715	市教委
▲50	慎重工事	宗徳寺遺跡	穂高6427番１先	道路	20200716	20200716	市教委
▲51	慎重工事	潮遺跡群古屋敷遺跡	明科東川手328番10	個人住宅	20200716	20200716	市教委
▲52	慎重工事	明科遺跡群本町遺跡	明科中川手3929番１付近	ガス・水道・電気等	20200716	20200716	市教委
●53	工事立会	青原寺大門遺跡	穂高有明3636番４の一部外４筆	個人住宅	20200722	20200722	市教委
●54	工事立会	追堀遺跡	穂高6750番１	個人住宅	20200727	20200727	市教委
●55	工事立会	東小倉遺跡	三郷小倉2513番１	道路	20200729	20200729	市教委
●56	工事立会	伊勢宮遺跡	明科七貴8951番１付近	ガス・水道・電気等	20200731	20200731	市教委
●57	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1649番９	個人住宅	20200803	20200803	市教委
▲58	慎重工事	空保木城跡	穂高牧1110番付近	ガス・水道・電気等	20200803	20200803	市教委
▲59	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6806番11	個人住宅	20200803	20200803	市教委
▲60	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科高家3969番19	個人住宅	20200803	20200803	市教委
□61	発掘調査	明科遺跡群古殿屋敷	明科中川手4232番１	その他の建物	20200605	20200804	市教委
□62	発掘調査	明科遺跡群古殿屋敷	明科中川手4232番１のうち	その他の建物	20200605	20200804	市教委
●63	工事立会	光遺跡群下里館	明科光840番５外１筆	その他開発	20200824	20200824	市教委
▲64	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4043番11外	道路	20200825	20200825	市教委
▲65	慎重工事	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3739番３	道路	20200825	20200825	市教委
▲66	慎重工事	上ノ山窯跡群ほか	豊科田沢8141番473外	その他開発	20200831	20200831	市教委
●67	工事立会	明科遺跡群上郷遺跡	明科中川手4059番４外１筆	個人住宅	20200901	20200901	市教委
▲68	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6806番10	個人住宅	20200901	20200901	市教委
●69	工事立会	明科遺跡群本町遺跡	明科中川手3828番７	個人住宅	20200902	20200902	市教委
●70	工事立会	貝梅道上遺跡	穂高5033番13	ガス・水道・電気等	20200908	20200908	市教委
●71	工事立会	龍峰寺跡	三郷温5628番１外２筆	個人住宅	20200909	20200909	市教委
●72	工事立会	堰下遺跡	穂高牧2315番６	ガス・水道・電気等	20200910	20200910	市教委
●73	工事立会	八ツ口遺跡	穂高1403番外１筆	個人住宅	20200911	20200911	市教委
▲74	慎重工事	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3789番６先	ガス・水道・電気等	20200917	20200917	市教委
▲75	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手6833番60外	道路	20200924	20200924	市教委

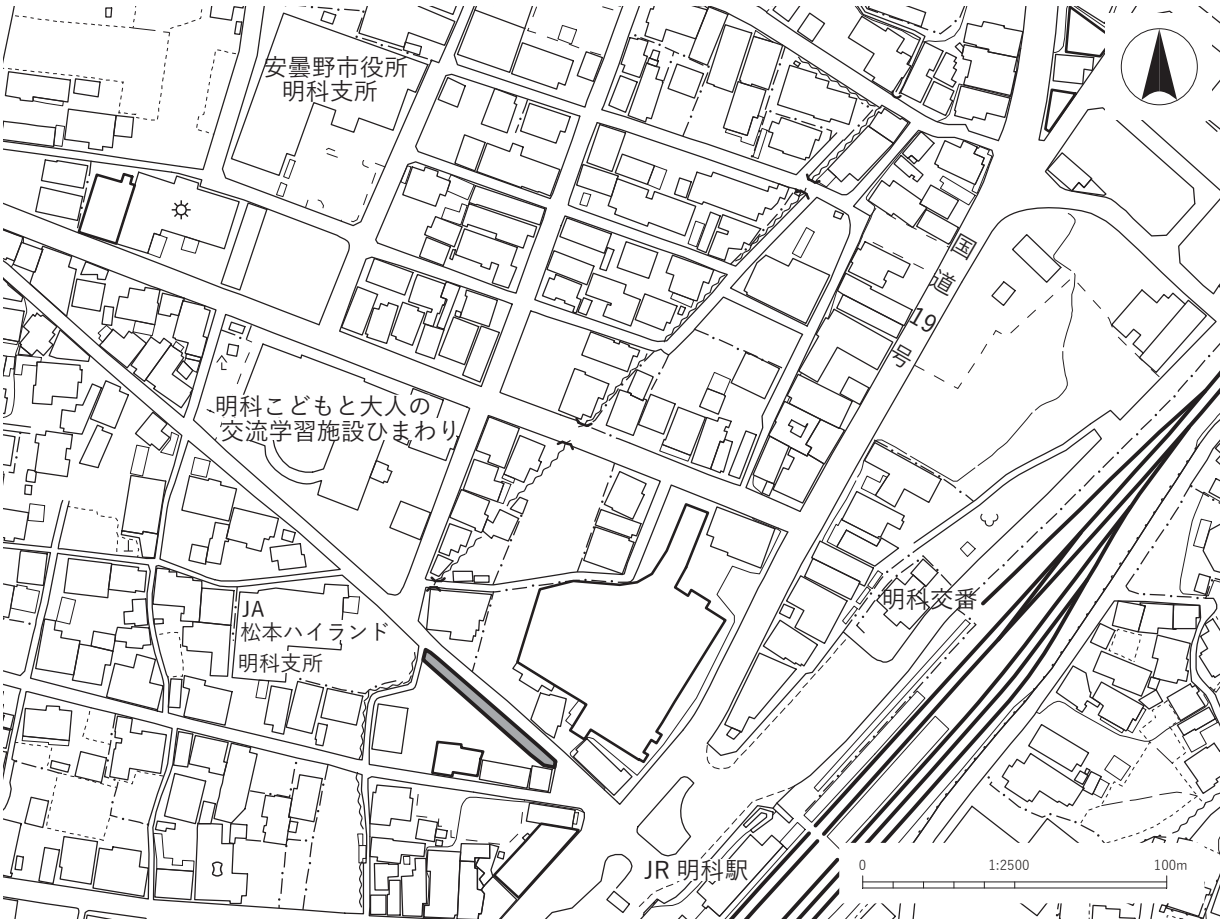
No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日＿自	調査日＿至	調査主体
▲76	慎重工事	押野城	明科七貴6459番２外	道路	20200925	20200925	市教委
▲77	慎重工事	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3791番３付近外	ガス・水道・電気等	20200925	20200925	市教委
●78	工事立会	荒神堂遺跡	穂高牧819番１	個人住宅	20200928	20200928	市教委
●79	工事立会	平上ノ段館	明科中川手5225番	河川	20200929	20200929	市教委
▲80	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6762番11外１筆	個人住宅	20200929	20200929	市教委
●81	工事立会	宮脇遺跡	穂高6571番外９筆	その他の建物	20200303	20201001	市教委
●82	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉5830番23外２筆	河川	20201001	20201001	市教委
●83	工事立会	明科遺跡群本町遺跡	明科中川手3832番１	ガス・水道・電気等	20201001	20201001	市教委
●84	工事立会	遺跡外	穂高北穂高3120番	個人住宅	20201002	20201002	市教委
▲85	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6762番13	個人住宅	20201005	20201005	市教委
●86	工事立会	梶海渡遺跡	豊科3796番１外１筆	宅地造成	20201006	20201006	市教委
●87	工事立会	光城跡	豊科光2194番イ－１－３	その他開発	20201007	20201016	市教委
▲88	慎重工事	青原寺大門遺跡	穂高有明3613番32先	ガス・水道・電気等	20201019	20201019	市教委
●89	工事立会	明科遺跡群上郷遺跡	明科中川手4074番	ガス・水道・電気等	20201020	20201020	市教委
▲90	慎重工事	宮前遺跡	豊科高家768番付近	道路	20201020	20201020	市教委
▲91	慎重工事	円満寺跡	豊科田沢4917番１	その他開発	20201020	20201020	市教委
●92	工事立会	藤塚遺跡	穂高6764番16	個人住宅	20201026	20201026	市教委
●93	工事立会	馬場街道遺跡	穂高775番２	個人住宅	20201027	20201027	市教委
●94	工事立会	藤塚遺跡	穂高2452番９	個人住宅	20201029	20201029	市教委
●95	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1656番１	宅地造成	20201029	20201029	市教委
●96	工事立会	梶海渡遺跡	豊科3796番１付近	ガス・水道・電気等	20201103	20201103	市教委
▲97	慎重工事	平上ノ段館	明科中川手6756番１先	ガス・水道・電気等	20201109	20201109	市教委
●98	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手6836番９外３筆	個人住宅兼工場又は店舗	20201110	20201110	市教委
▲99	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6806番７	個人住宅	20201112	20201112	市教委
▲100	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手6818番45先	道路	20201113	20201113	市教委
●101	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉6425番１外３筆	個人住宅	20201117	20201117	市教委
▲102	慎重工事	龍峰寺跡	三郷温5632番11外	道路	20201124	20201124	市教委
▲103	慎重工事	南原遺跡	穂高6952番６外	その他の建物	20201125	20201125	市教委
●104	工事立会	光遺跡群中条遺跡	明科光857番１外２筆	個人住宅	20201125	20201125	市教委
●105	工事立会	藤塚遺跡	穂高6764番18外１筆	個人住宅	20201126	20201126	市教委
●106	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4004番１の一部外２筆	個人住宅	20201124	20201201	市教委
▲107	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4138番11	個人住宅	20201202	20201202	市教委
▲108	慎重工事	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明1867番３	その他の建物	20201202	20201202	市教委
●109	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1656番１	個人住宅	20201207	20201207	市教委
●110	工事立会	伊勢宮遺跡	明科七貴8939番１外	道路	20201207	20201207	市教委
●111	工事立会	潮遺跡群新屋遺跡	明科東川手908番先	道路	20201208	20201208	市教委
●112	工事立会	宗徳寺遺跡	穂高6438番１	個人住宅	20201209	20201209	市教委
■113	試掘	明科遺跡群明科廃寺	明科中川手3531番５外３筆	道路、個人住宅	20201125	20201214	市教委

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日 _ 自	調査日 _ 至	調査主体
●114	工事立会	藤塚遺跡	穂高6797番10先	ガス・水道・電気等	20201217	20201222	市教委
▲115	慎重工事	やしき遺跡	明科七貴6219番１先	道路	20201224	20201224	市教委
●116	工事立会	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3509番２外１筆	個人住宅	20201225	20201225	市教委
■117	試掘	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3749番２	道路	20210106	20210106	市教委
●118	工事立会	一本松遺跡	三郷小倉506番１の内外１筆	その他の建物	20210108	20210108	市教委
●119	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1648番６付近	ガス・水道・電気等	20210108	20210108	市教委
●120	工事立会	明科遺跡群本町遺跡	明科中川手3929番４外	ガス・水道・電気等	20210108	20210108	市教委
●121	工事立会	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3749番２	道路	20210118	20210118	市教委
▲122	慎重工事	堰下遺跡	穂高牧2305番	ガス・水道・電気等	20210119	20210119	市教委
▲123	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6814番６付近	河川	20210128	20210128	市教委
●124	工事立会	木戸橋ノ爪遺跡	明科東川手13351番４先	ガス・水道・電気等	20210129	20210129	市教委
▲125	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6839番	その他開発	20210202	20210202	市教委
▲126	慎重工事	三柱神社東遺跡	三郷明盛4712番９外１筆	ガス・水道・電気等	20210202	20210202	市教委
●127	工事立会	荒井遺跡	明科七貴8865番６	その他開発	20210203	20210203	市教委
■128	試掘	南松原遺跡	三郷小倉6412番１	工場	20210204	20210204	市教委
▲129	慎重工事	追堀遺跡	穂高柏原1672番13	個人住宅	20210204	20210204	市教委
●130	工事立会	明科遺跡群本町遺跡	明科中川手3929番１	個人住宅	20210107	20210204	市教委
■131	試掘	潮遺跡群潮神明宮前遺跡	明科東川手528番６外１筆	その他開発	20210210	20210210	市教委
●132	工事立会	法蔵寺館跡ほか	豊科4780番１南先外	その他の建物	20210209	20210212	市教委
●133	工事立会	藤塚遺跡	穂高6760番５	個人住宅	20210213	20210213	市教委
●134	工事立会	矢原権現池遺跡	穂高993番22先	道路	20210217	20210217	市教委
●135	工事立会	小海渡遺跡	豊科高家3168番	ガス・水道・電気等	20210219	20210219	市教委
●136	工事立会	穂高神社境内遺跡	穂高6035番４	個人住宅	20210222	20210222	市教委
●137	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明3056番２	その他開発	20210222	20210222	市教委
●138	工事立会	中在地遺跡	穂高618番	ガス・水道・電気等	20210224	20210224	市教委
●139	工事立会	矢原権現池遺跡	穂高1006番付近	河川	20210226	20210226	市教委
●140	工事立会	穂高神社境内遺跡	穂高6035番４	ガス・水道・電気等	20210304	20210304	市教委
●141	工事立会	上手木戸遺跡	豊科南穂高135番１	個人住宅	20210309	20210309	市教委
●142	工事立会	大坪沢遺跡	穂高柏原1830番９	その他の建物	20210310	20210310	市教委
▲143	慎重工事	追堀遺跡	穂高6750番３	個人住宅	20210316	20210316	市教委
▲144	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4174番	ガス・水道・電気等	20210316	20210316	市教委
●145	工事立会	有明南原遺跡近接地	穂高有明7610番１	その他開発	20210319	20210319	市教委
■146	試掘	潮遺跡群潮神明宮前遺跡	明科東川手263番１	その他の建物	20210322	20210322	市教委
●147	工事立会	穂高神社境内遺跡ほか	穂高6658番外	その他の建物	20210322	20210322	市教委
■148	試掘	八ツ口遺跡	穂高柏原960番１の一部	個人住宅	20210323	20210323	市教委
●149	工事立会	上手屋敷遺跡	明科中川手3169番１	その他の建物	20210324	20210324	市教委
●150	工事立会	宮脇遺跡	穂高10105番５外１筆	個人住宅	20210324	20210324	市教委
▲151	慎重工事	上生野遺跡	明科東川手13811番４	個人住宅	20210325	20210325	市教委

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日 _ 自	調査日 _ 至	調査主体
▲152	慎重工事	穂高神社境内遺跡	穂高5976番２	その他の建物	20210325	20210325	市教委
▲153	慎重工事	潮遺跡群潮神明宮前遺跡	明科東川手263番１の一部	その他の建物	20210325	20210325	市教委
●154	工事立会	北才の神遺跡	穂高6668番１	その他開発	20210327	20210327	市教委
■155	試掘	三枚橋遺跡	穂高柏原962番５外２筆	宅地造成	20210329	20210329	市教委
●156	工事立会	藤塚遺跡	穂高6725番１	その他開発	20210329	20210329	市教委
●157	工事立会	藤塚遺跡	穂高1835番２外２筆	店舗	20210331	20210331	市教委

第２章　試掘調査

１　明科遺跡群県町（あがたまち）遺跡（第１表■５）



第５図　県町遺跡試掘位置図

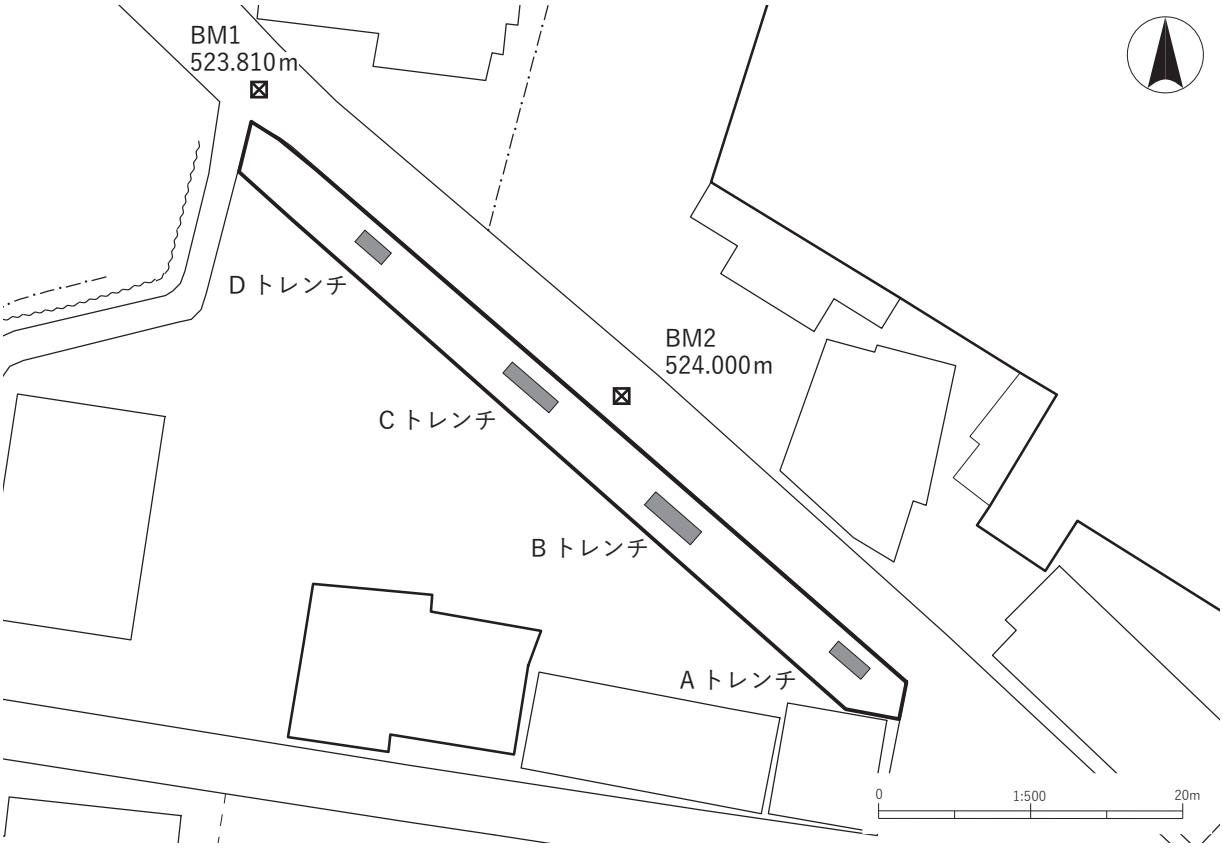
所在地	安曇野市明科中川手3739番３	調査面積	12㎡
調査期間	令和２年（2020）４月８日	調査契機	道路
調査参加者	土屋和章、横山幸子、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

（１）概要

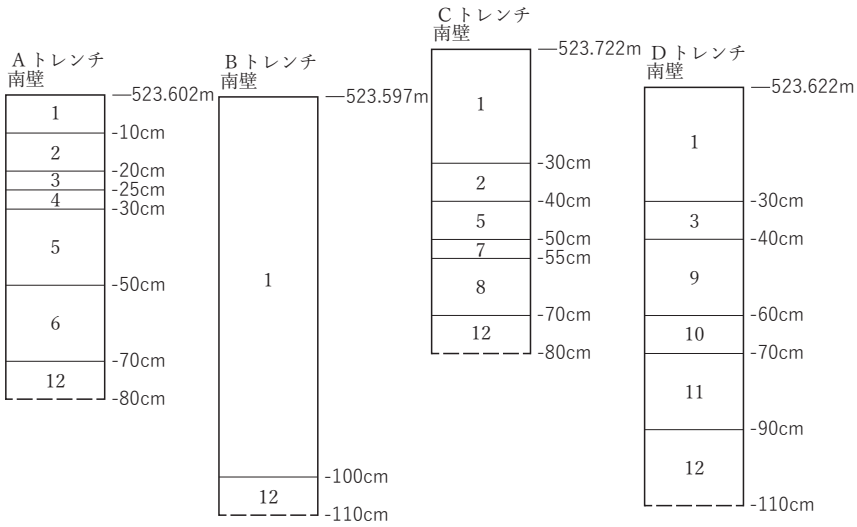
明科遺跡群県町遺跡（以下、「県町遺跡」とする。）は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに発掘調査を実施した記録はない。

今回、市道拡幅に際し４か所のトレンチ（A～D トレンチ）を設定し、本調査の要否を判断するための試掘調査を実施した。調査の結果、地表下80～110cm の掘削で、A・C・D トレンチにおいて造成土の下位にシルト・粘土層を確認した。B トレンチでは、地表下100cm まで土層は撹乱を受けていた。地表下70～110cm 以深では、A～D トレンチに共通して礫層が存在していた。第２・５～９層には炭化物が含まれていたが、遺物は出土しなかった。いずれの層からも、遺構は検出できなかった。

上記の結果から、今回の工事での本調査は不要と判断した。



第６図　県町遺跡試掘トレンチ配置図

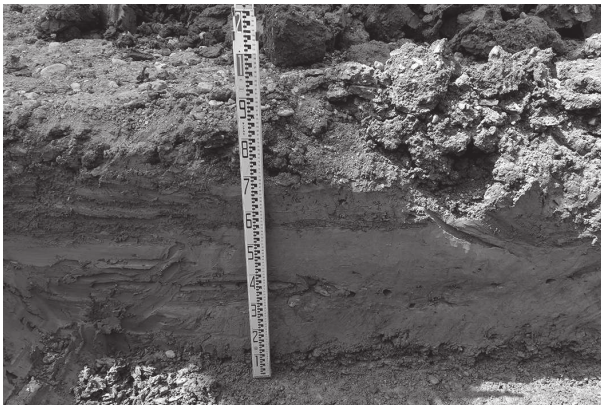


1,造成土、埋め土
2,10YR4/2灰黄褐色粘土
　しまり強、粘性強
　酸化鉄が粒状に混じる
　炭化物、径2cm程度の円礫を微量含む
3,10YR5/3にぶい黄褐色粘土
　しまり強、粘性強
　径1cm以下の風化礫を微量含む
　Dトレンチでは径3cm程度の円礫を含む
4,10YR3/4暗褐色粘土
　しまり強、粘性強
　径1cm以下の風化礫を微量含む
5,10YR4/2灰黄褐色粘土
　しまり強、粘性強
　粒状の10YR5/4にぶい黄褐色粘土を
　多く含む
　炭化物を少量含む
　下部に径5cm程度の円礫を多く含む
6,10YR5/4にぶい黄褐色粘土
　しまり強、粘性強
　10YR5/6黄褐色粘土の粒子を含む
　炭化物を微量含む
7,10YR3/2黒褐色粘土
　しまり強、粘性強
　下位の第8層由来とみられる、
　黄褐色シルトのブロックを含む
　炭化物を含む
8,10YR4/3にぶい黄褐色シルト
　しまり強、粘性強
　炭化物、径2cm程度の円礫を含む
9,10YR3/3暗褐色シルト
　しまり強、粘性強
　炭化物、径1cm程度の円礫を含む
10,10YR2/2黒褐色粘土
　しまり強、粘性強
　下部に径5cm程度の円礫を含む
11,10YR2/2黒褐色粘土
　しまり強、粘性強
　レンズ状の10YR4/4褐色極細粒砂を挟む
　径3cm程度の円礫が混じる
12,10YR4/1褐灰色礫
　しまり弱、粘性弱
　最大径10cm、平均径1cmの円礫からなる
　基質は中粒砂で、基質支持

第７図　県町遺跡試掘土層概念図

1　調査前（西から）

2　Ａトレンチ完掘（東から）

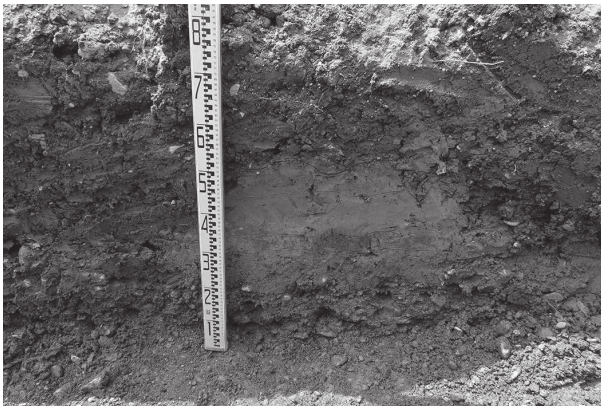


3　Ａトレンチ南壁

4　Ｂトレンチ完掘（南から）

5　Ｂトレンチ南壁

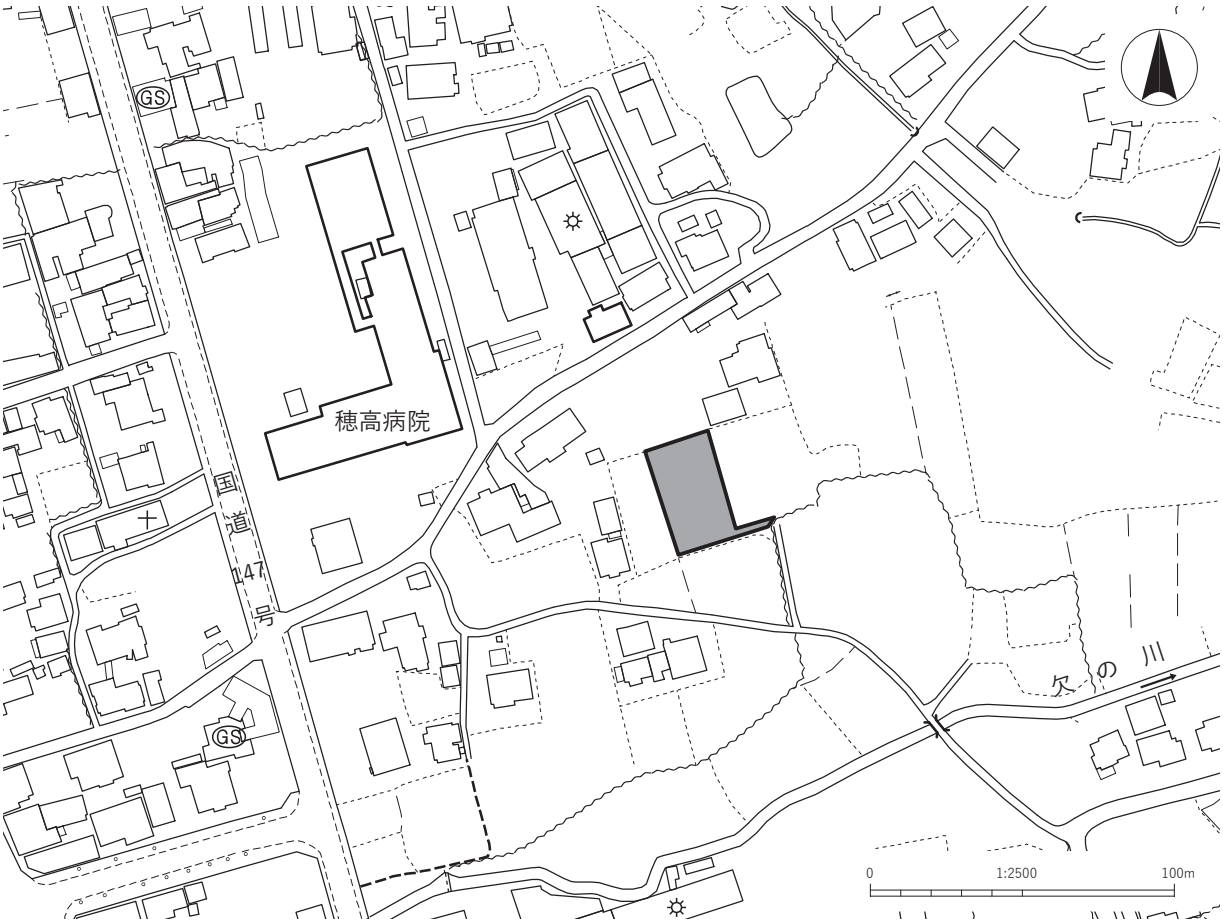
6　Ｃトレンチ完掘（西から）



7　Ｃトレンチ南壁

8　Ｄトレンチ南壁

2　等々力町巾上巾下遺跡（第１表■28）



第８図　等々力町巾上巾下遺跡試掘位置図

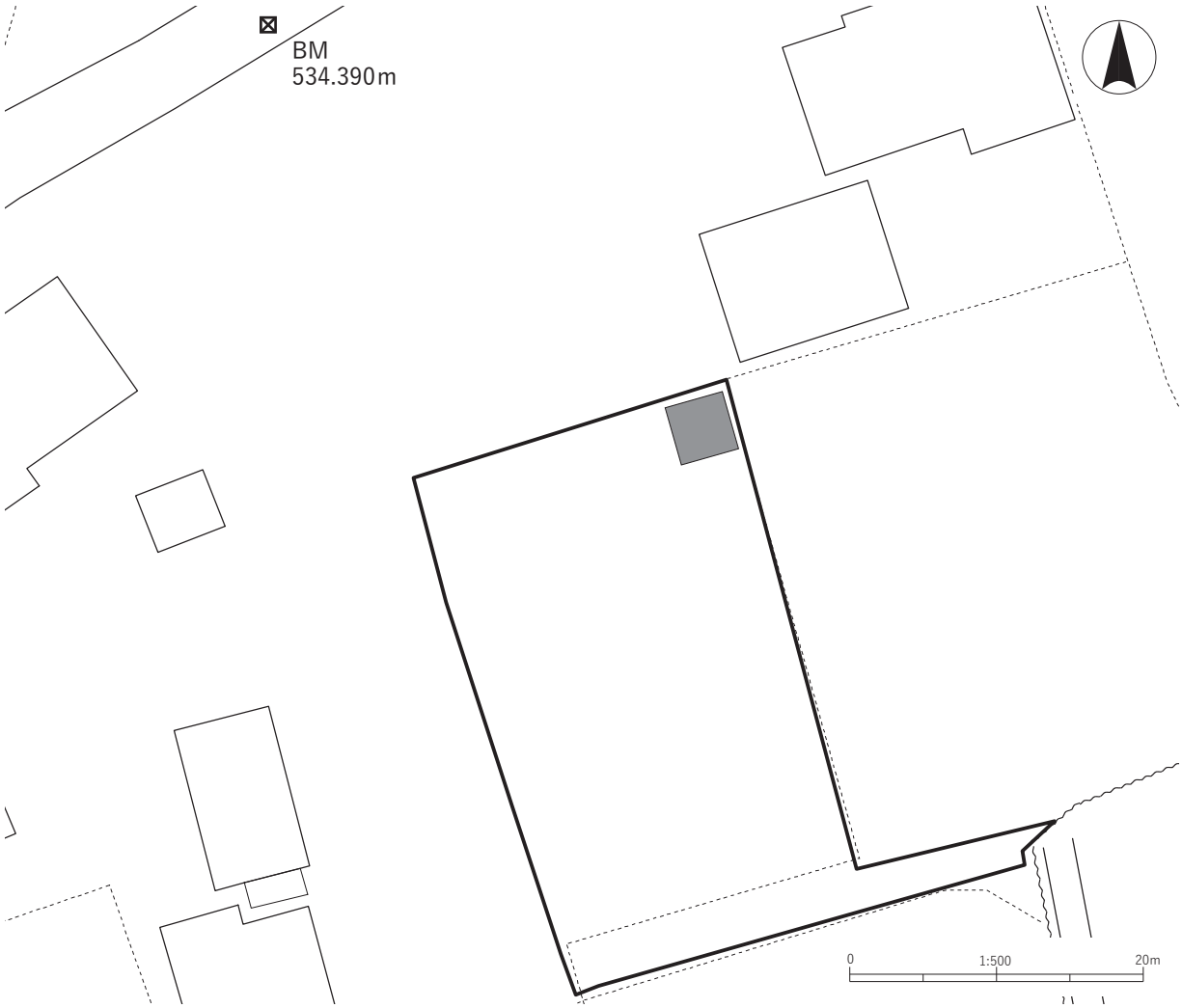
所在地	安曇野市穂高4284番１外１筆	調査面積	17㎡
調査期間	令和２年（2020）６月５日	調査契機	その他開発（駐車場整備）
調査参加者	横山幸子、田多井智恵		

（１）概要

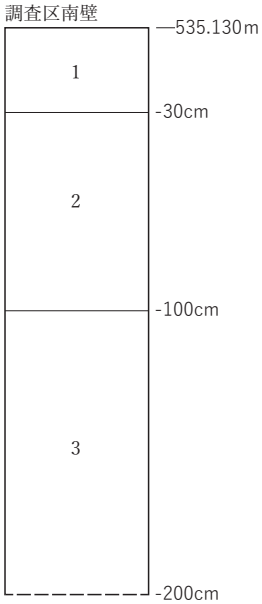
等々力町巾上巾下遺跡は、烏川扇状地扇央～扇端にかけて所在する縄文・弥生時代及び平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに２次にわたる発掘調査を実施している。平成28年（2016）度の第２次発掘調査では、覆土に内耳土器破片を含む竪穴状遺構、覆土に弥生土器を含む竪穴建物跡を検出したほか、遺構外から弥生土器片が出土した（安曇野市教委2018）。

今回は駐車場整備に際し、本調査の要否を判断するため浸透桝設置箇所で試掘調査を実施した。掘削が深度200cm に及ぶため、土層観察は地上から行った。現代の撹乱の下位に、酸化鉄を含むシルト層としまりの弱い礫層を確認した。遺構は検出できず、遺物は出土しなかった。

上記の結果から、今回の工事での本調査は不要と判断した。



第９図　等々力町巾上巾下遺跡試掘調査区配置図



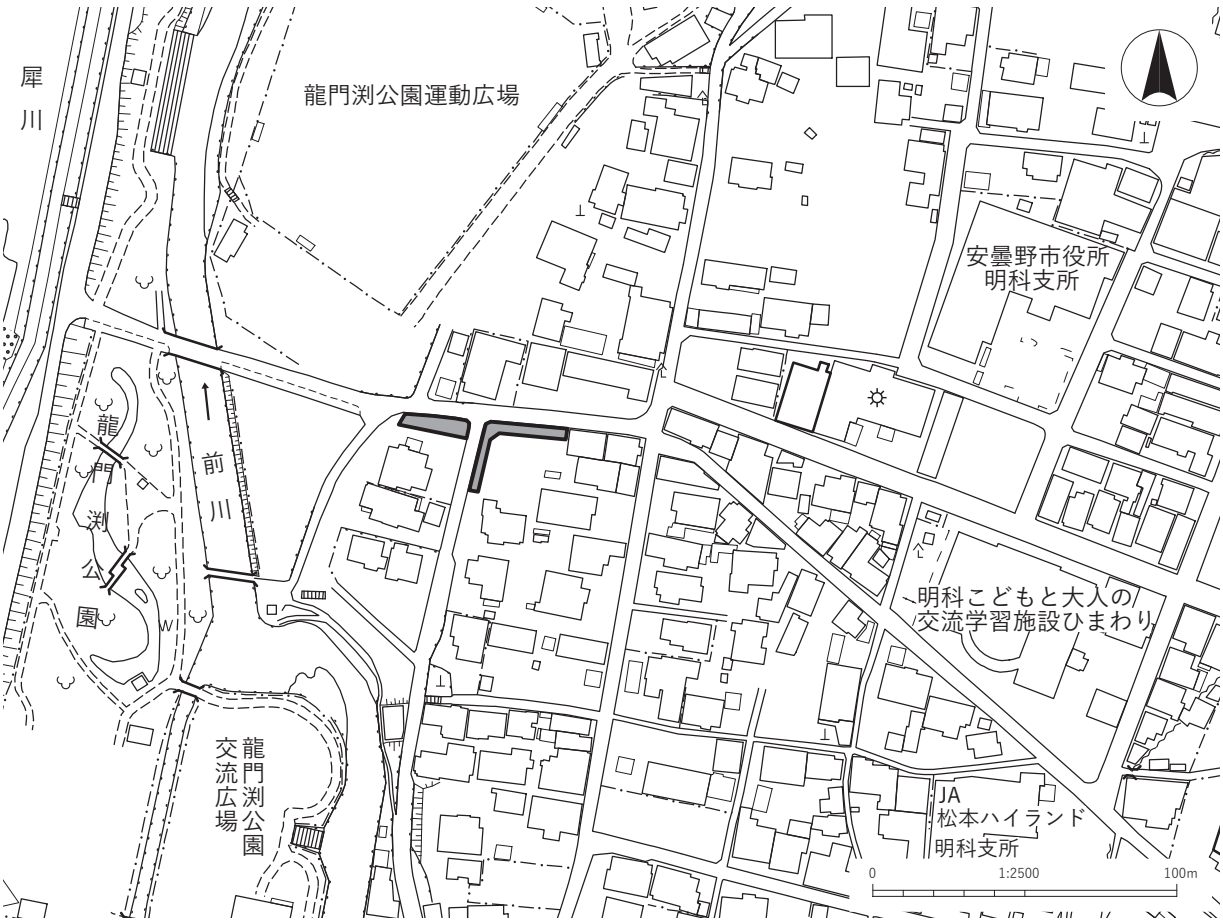
1,撹乱
2,黄褐色シルト
　しまり中、酸化鉄を含む
3,礫
　しまり弱、最大径約20cm、平均径約2cmの亜円礫からなる

※掘削深度が深いため、第3層は地上からの観察による

調査地近景（南西から）

第10図　等々力町巾上巾下遺跡試掘土層概念図

3　明科遺跡群本町遺跡・明科遺跡群龍門淵遺跡（第１表■36）



第11図　本町遺跡・龍門淵遺跡試掘位置図

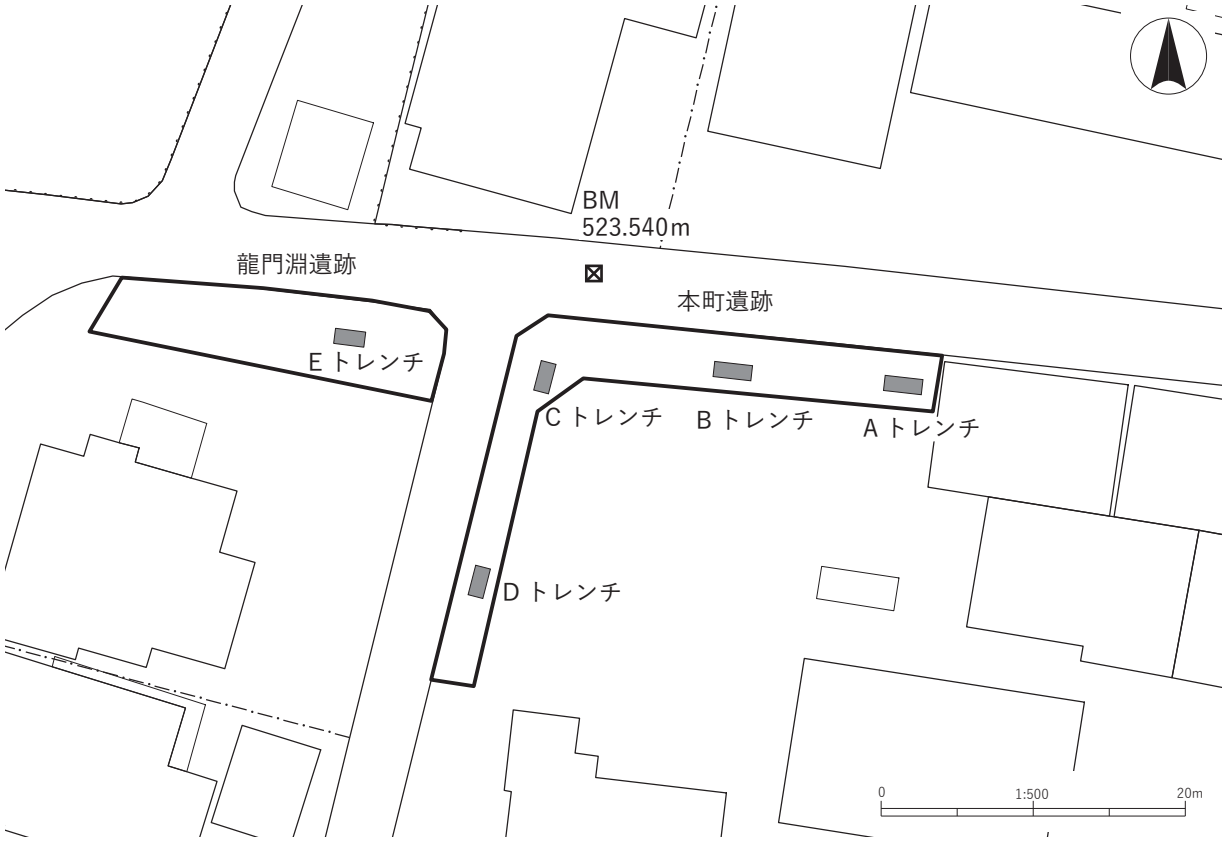
所在地	安曇野市明科中川手3929番４外１筆	調査面積	11㎡
調査期間	令和２年（2020）６月18日	調査契機	道路
調査参加者	土屋和章、横山幸子、田多井智恵		

（1）概要

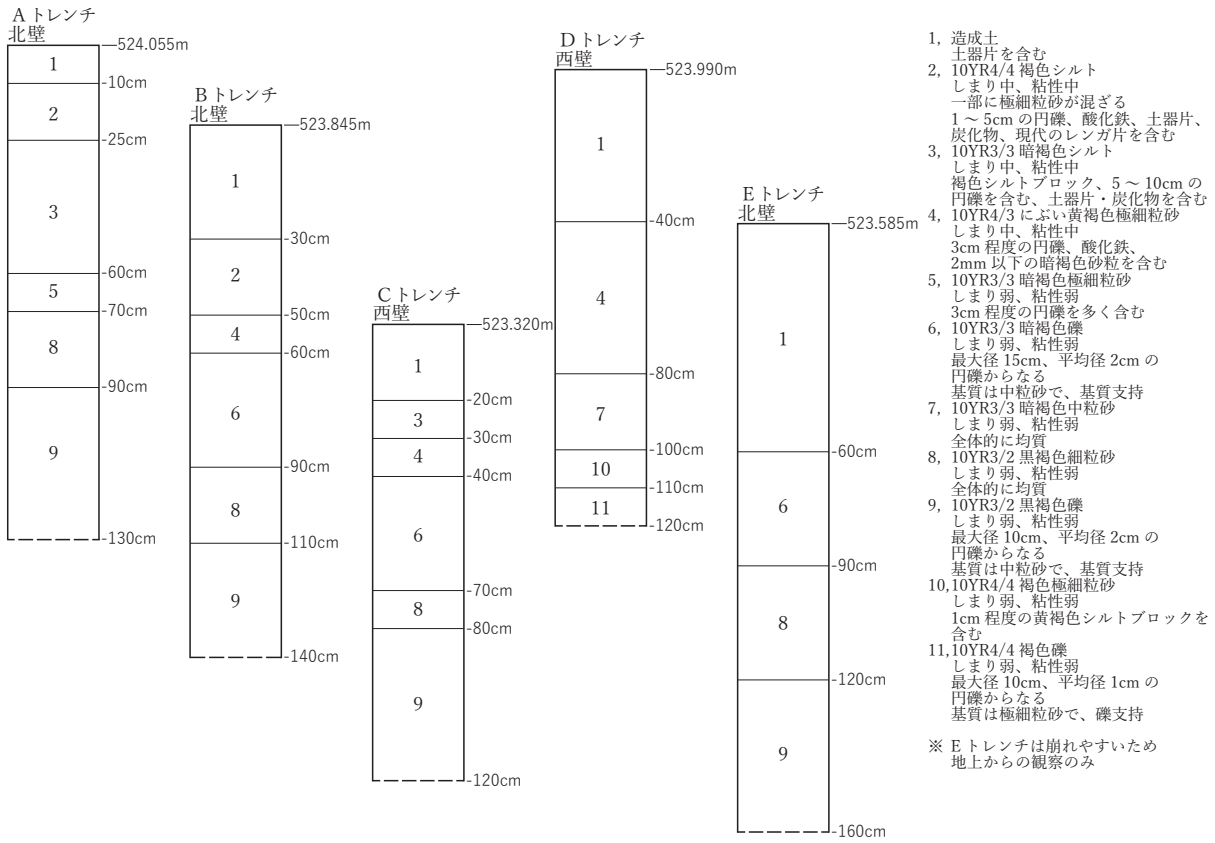
明科遺跡群本町遺跡（以下、「本町遺跡」とする。）は、犀川右岸の段丘上に所在する弥生～平安時代の集落跡である。明科遺跡群龍門淵遺跡（以下、「龍門淵遺跡」とする。）は、本町遺跡の西に接する弥生・古墳時代の祭祀跡である。昭和56年（1981）の土取りの際に、弥生土器、古墳～平安時代の土器が出土している（明科町史編纂会編1984）。

今回、市道拡幅に先立ち５か所のトレンチ（A～E トレンチ）を設定し、本調査の要否を判断するための試掘調査を実施した。レンガ片等が混ざる現代の造成土（第１・２層）には、土器片が混入していた。A トレンチでは、造成土の下位の撹乱を受けたシルト層（第３層）から土器片が出土した。撹乱を受けた時期は不明である。第１～３層の下位は砂礫層であった。A トレンチ及び調査地の地表では、土師器片を採取した。遺構はどのトレンチからも検出できなかった。

上記の結果から、今回の調査地に遺構は存在しないが、付近には存在する可能性があると考えられる。



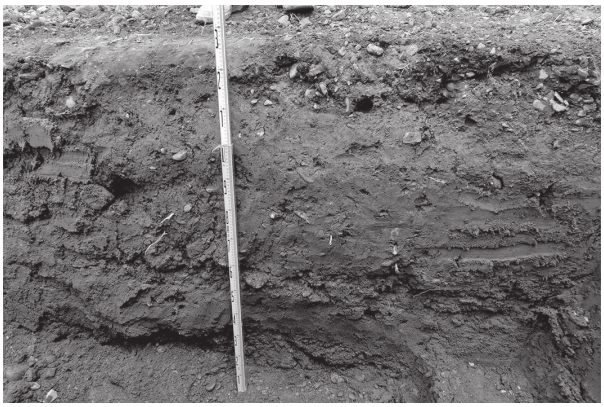
第12図　本町遺跡・龍門淵遺跡試掘トレンチ配置図



第13図　本町遺跡・龍門淵遺跡試掘土層概念図

1　A・B トレンチ調査前（東から）

2　C・D トレンチ調査前（北から）



3　A トレンチ北壁

4　B トレンチ北壁

5　C トレンチ西壁

6　D トレンチ西壁

7　E トレンチ北壁

8　本町遺跡試掘出土土器

4　明科遺跡群栄町（さかえちょう）遺跡（第１表■49）

第14図　栄町遺跡試掘位置図

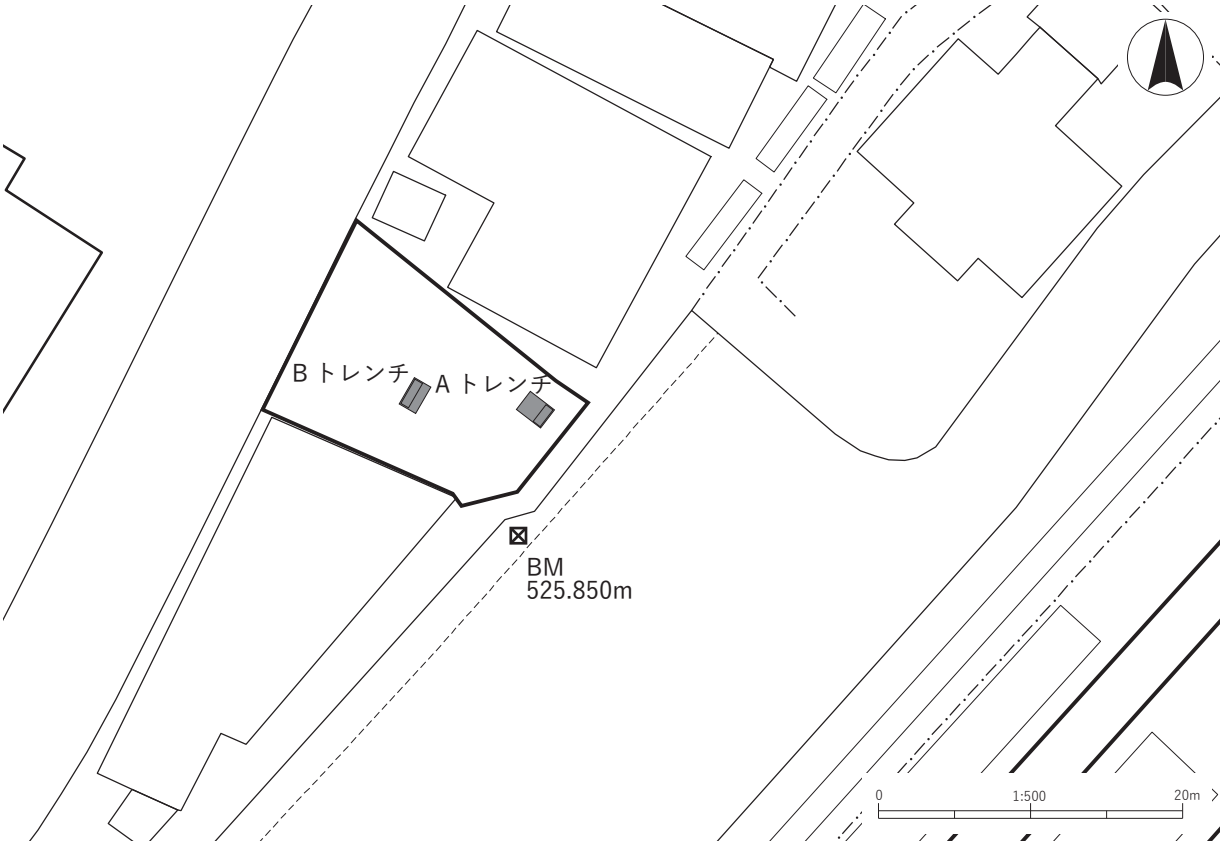
所在地	安曇野市明科中川手3727番１	調査面積	５㎡
調査期間	令和２年（2020）７月15日	調査契機	道路
調査参加者	土屋和章、横山幸子、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

（１）概要

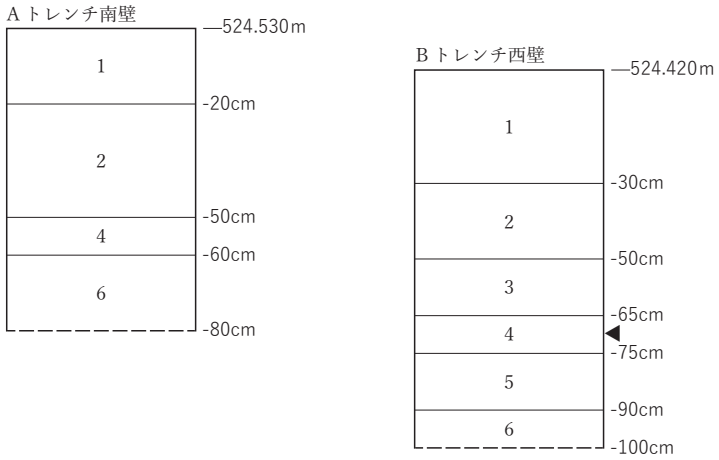
明科遺跡群栄町遺跡（以下、「栄町遺跡」とする。）は、犀川右岸の段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに安曇野市役所明科支所周辺で４次の発掘調査を実施しており、古墳時代後期の集落跡を確認している。

今回、明科駅前整備に伴う市道拡幅に際し２か所のトレンチ（A・B トレンチ）を設定し、本調査の要否を判断するための試掘調査を実施した。A トレンチにおいて、地表下80cm の掘削で確認できたのは、近現代の撹乱（第１・２層）と、シルト・砂層（第４・６層）であった。B トレンチでは、地表下100cm までの掘削により近現代の撹乱の下位に粘土・シルト・砂層（第３～６層）の自然堆積層を確認した。炭化物を含む粘土層（第４層）から土師器片が１点出土したが、１cm 程度の小破片であり、風化しているため、流入したものと判断した。遺構はいずれのトレンチからも検出できなかった。

上記の結果から、今回の工事での本調査は不要と判断した。



第15図　栄町遺跡試掘トレンチ配置図



1, 現代の造成土
陶器、ガラス片を含む
2, 撹乱
礫、木片を多数含む、近現代の撹乱か
3, 7.5Y4/1灰色粘土
しまり強、粘性強
1.5～2cmの円礫、炭化物を含む
4, 5B4/1暗青灰色シルト
しまり中、粘性中
全体的に均質
Bトレンチでは、炭化物を微量に含む
1cm程度の土器片を1点含む
5, 10Y5/1灰色シルト
しまり中、粘性強
全体的に均質
第4層より細粒
6, 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂
しまり弱、粘性弱
全体的に均質
水が染み出る

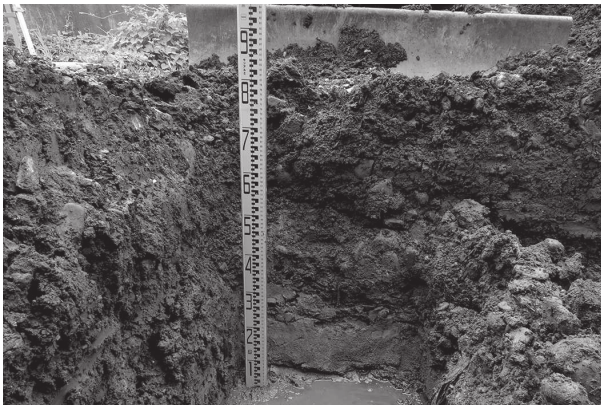
※◀は遺物確認位置

第16図　栄町遺跡試掘土層概念図

1　調査前（北西から）

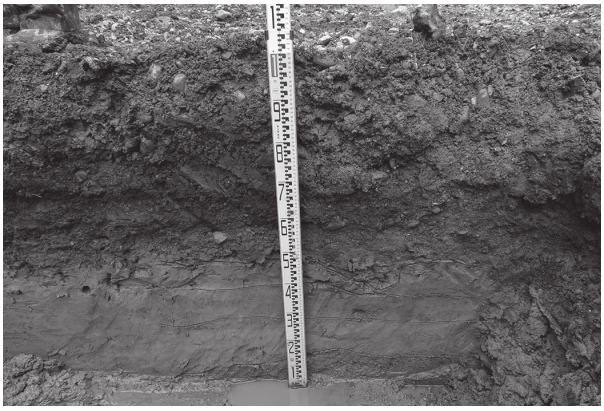
2　調査前（南東から）

3　Ａトレンチ完掘（北から）



4　Ａトレンチ南壁

5　Ｂトレンチ完掘（北から）

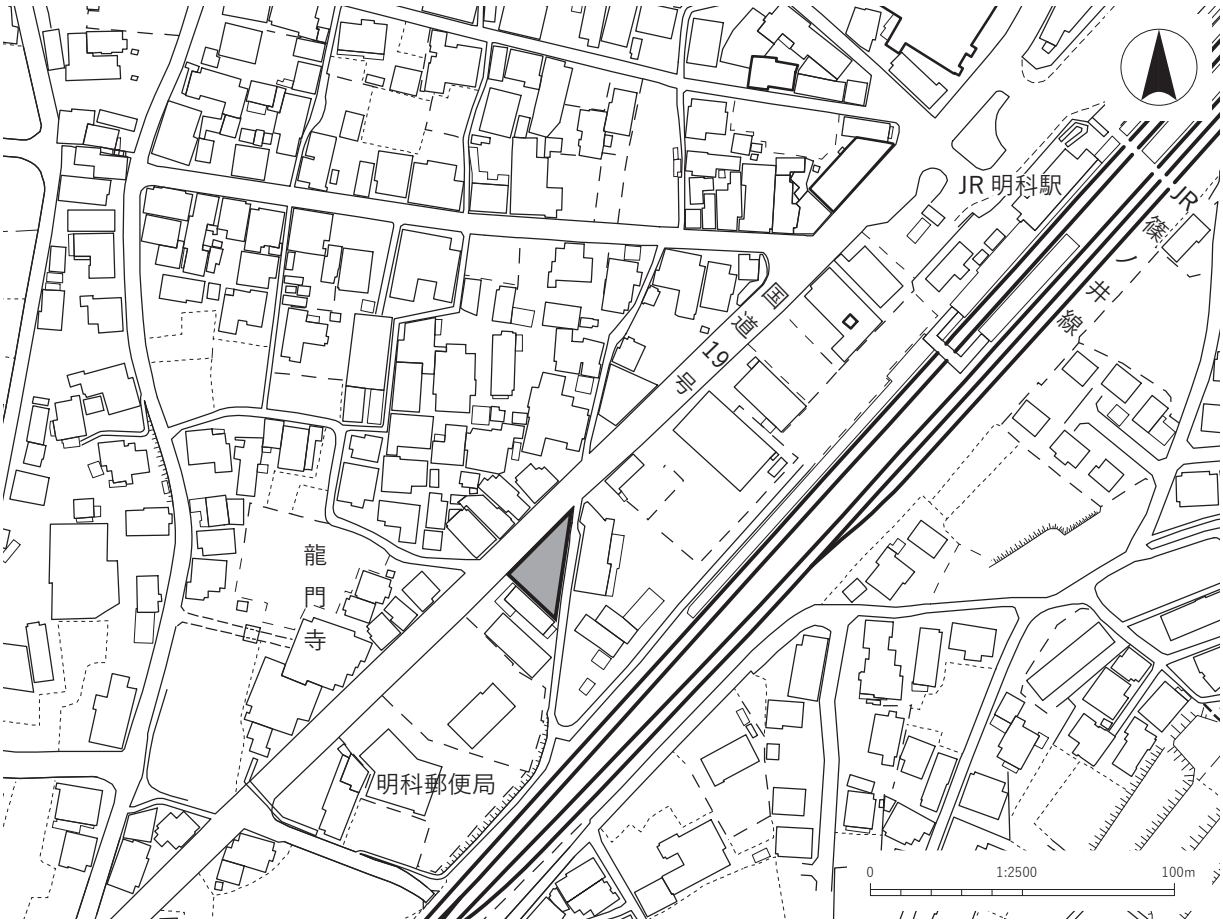


6　Ｂトレンチ西壁

7　埋戻し後（南西から）

8　栄町遺跡試掘出土土器

5　明科遺跡群明科廃寺（第１表■113）



第17図　明科廃寺試掘位置図

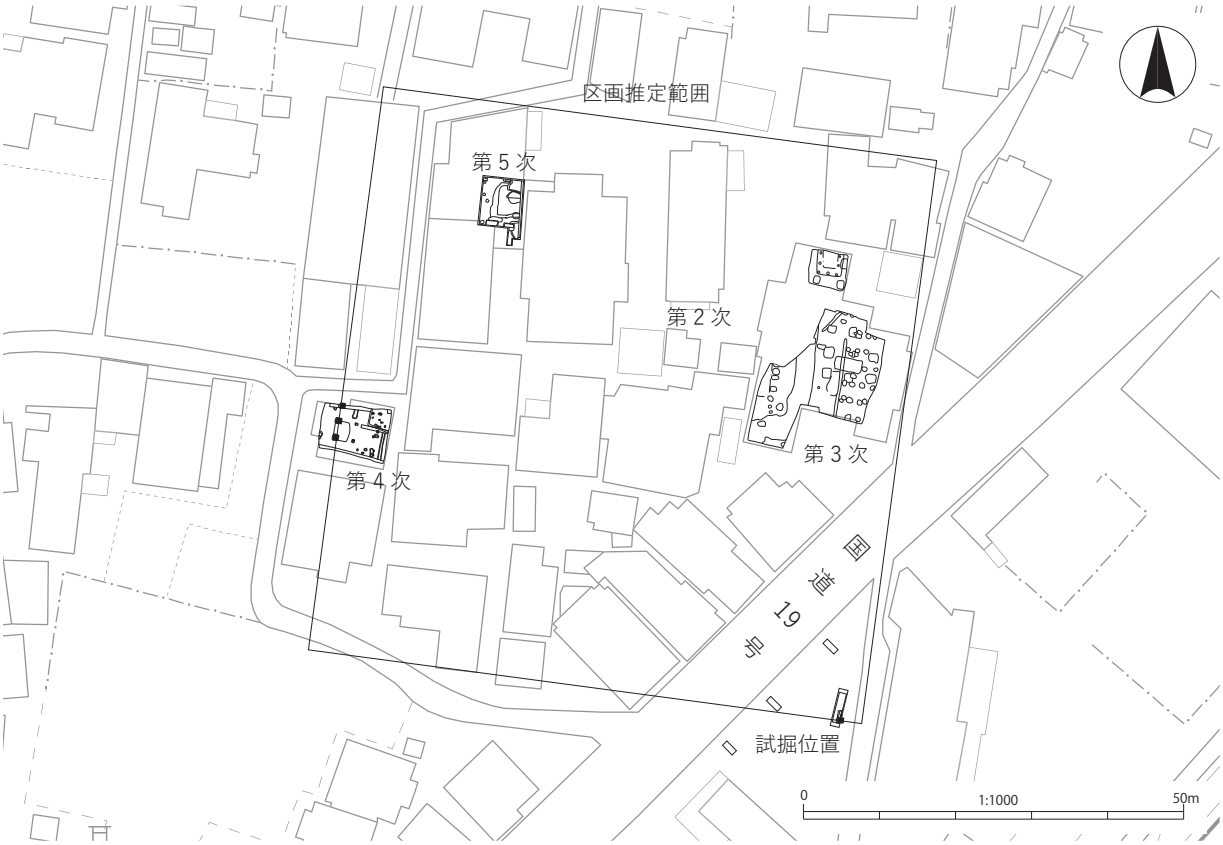
所在地	安曇野市明科中川手3531番５外３筆	調査面積	10㎡
調査期間	令和２年（2020）11月25日～令和２年（2020）12月14日	調査契機	道路、個人住宅
調査参加者	土屋和章、横山幸子、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

（１）概要

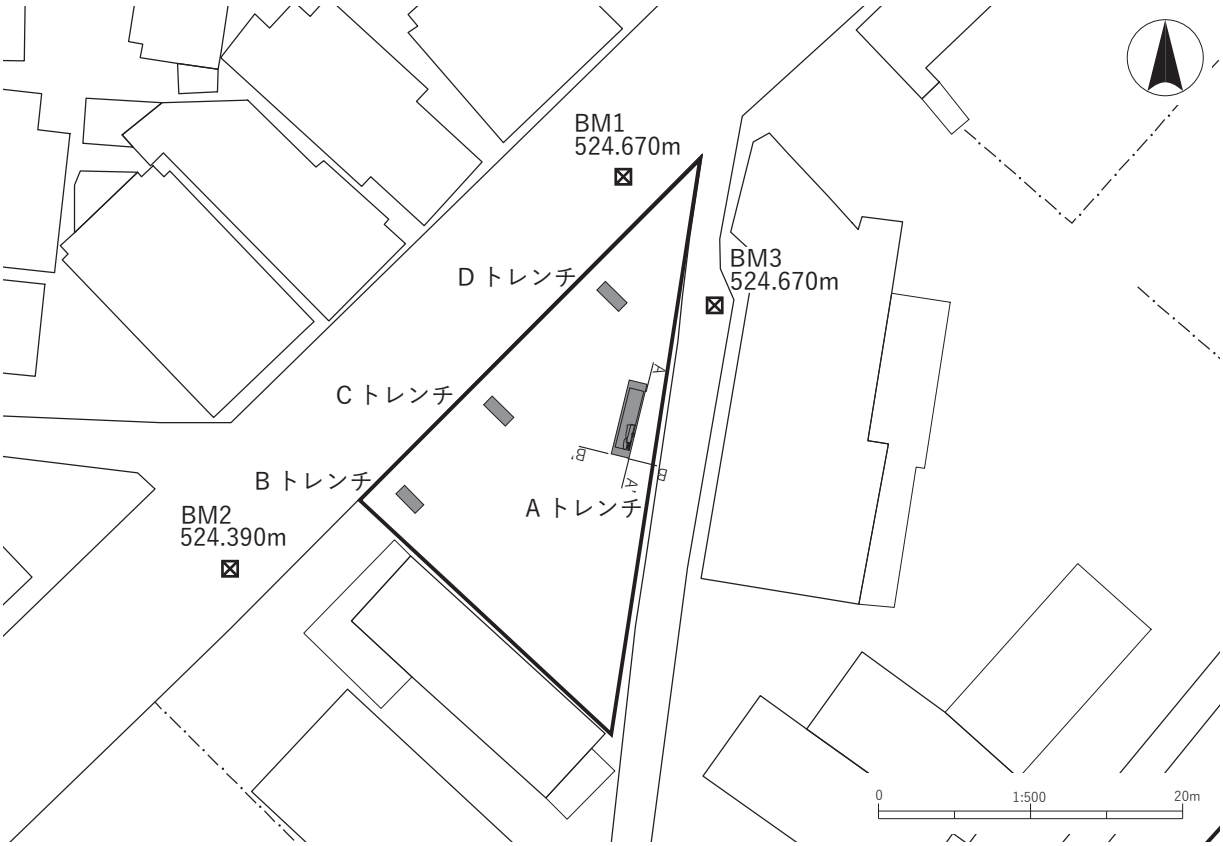
明科遺跡群明科廃寺は、犀川右岸の段丘上に所在する古代の寺院跡である。この遺跡ではこれまでに５次にわたる発掘調査が実施され、掘立柱建物跡や区画施設と考えられる掘立柱柵列が見つかっているが、主要建物は未確認であり伽藍配置も不明である（安曇野市教委2017・2021）。

今回は、個人住宅建設及び国道19号拡幅に際して試掘調査を実施した。調査地は、推定される明科廃寺外郭の南東隅付近に位置するため、外郭施設の検出を念頭に４か所のトレンチ（A～D トレンチ）調査を実施した。A トレンチで、地表下約80cm の古代の堆積層から一辺80cm 以上のピットを検出したが、近代以降の木柱（電柱か）を伴う掘り込みに切られ、全体像は不明であった（第20図 SP１）。また、国道用地の B～D トレンチでは、遺構・遺物は存在しなかったが、古代の堆積層が良好に残存していた。

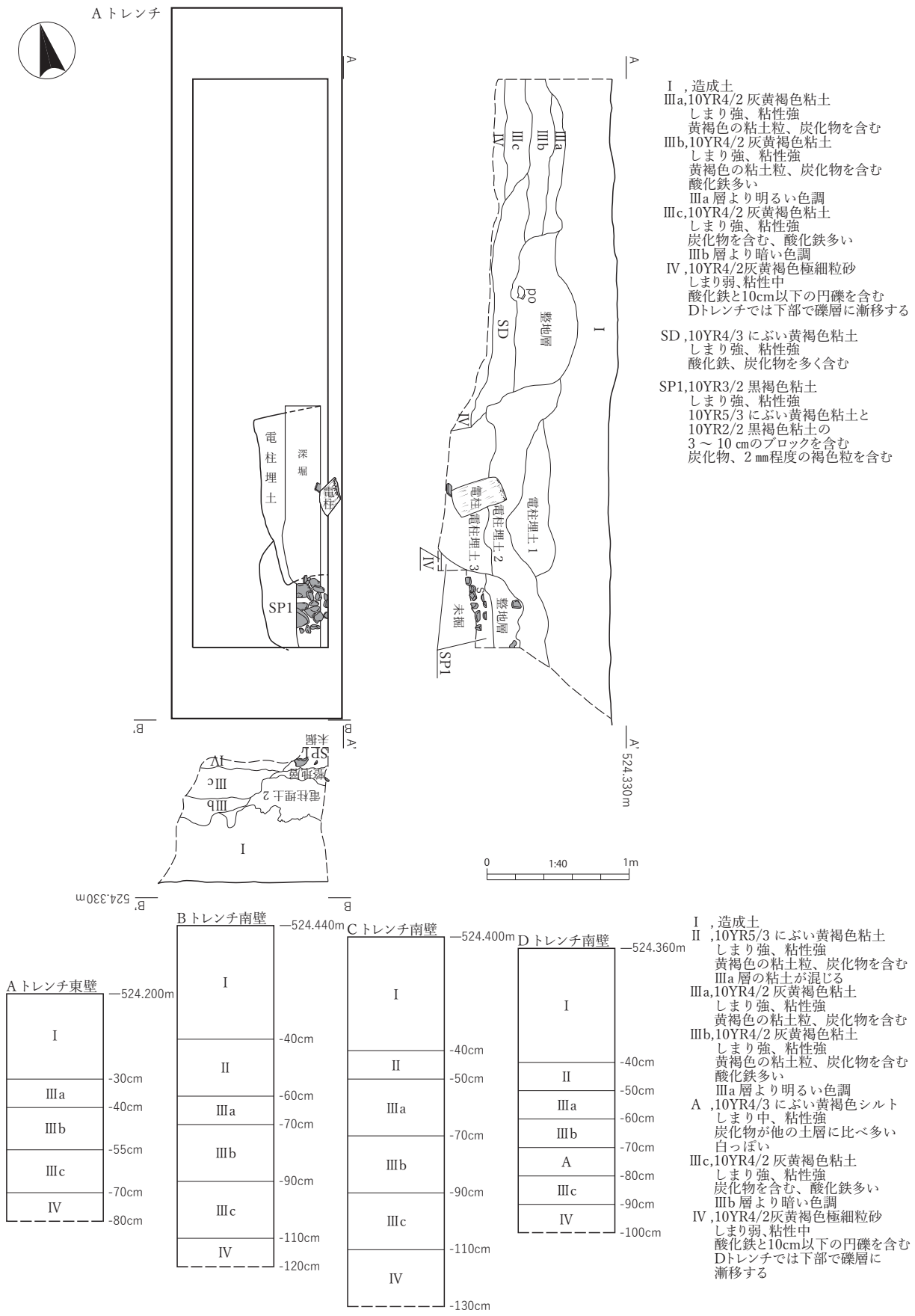
この結果から、住宅建設では埋蔵文化財に影響を与えることはないと考えられた。



第18図　明科廃寺推定区画図



第19図　明科廃寺試掘トレンチ配置図



第20図　明科廃寺試掘概要図

1　調査地近景（北から）

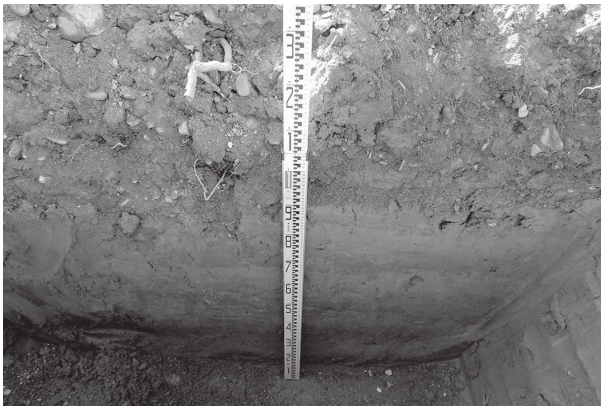
2　調査区全体（上が北）

3　Ａトレンチ東壁

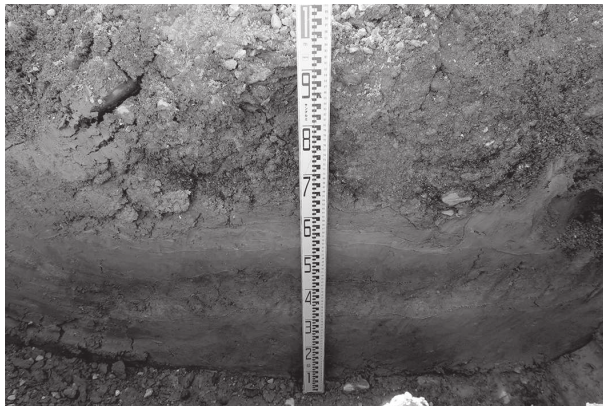
4　Ａトレンチピット検出（上が西）

5　Ａトレンチ東壁電柱

6　Ｂトレンチ南壁

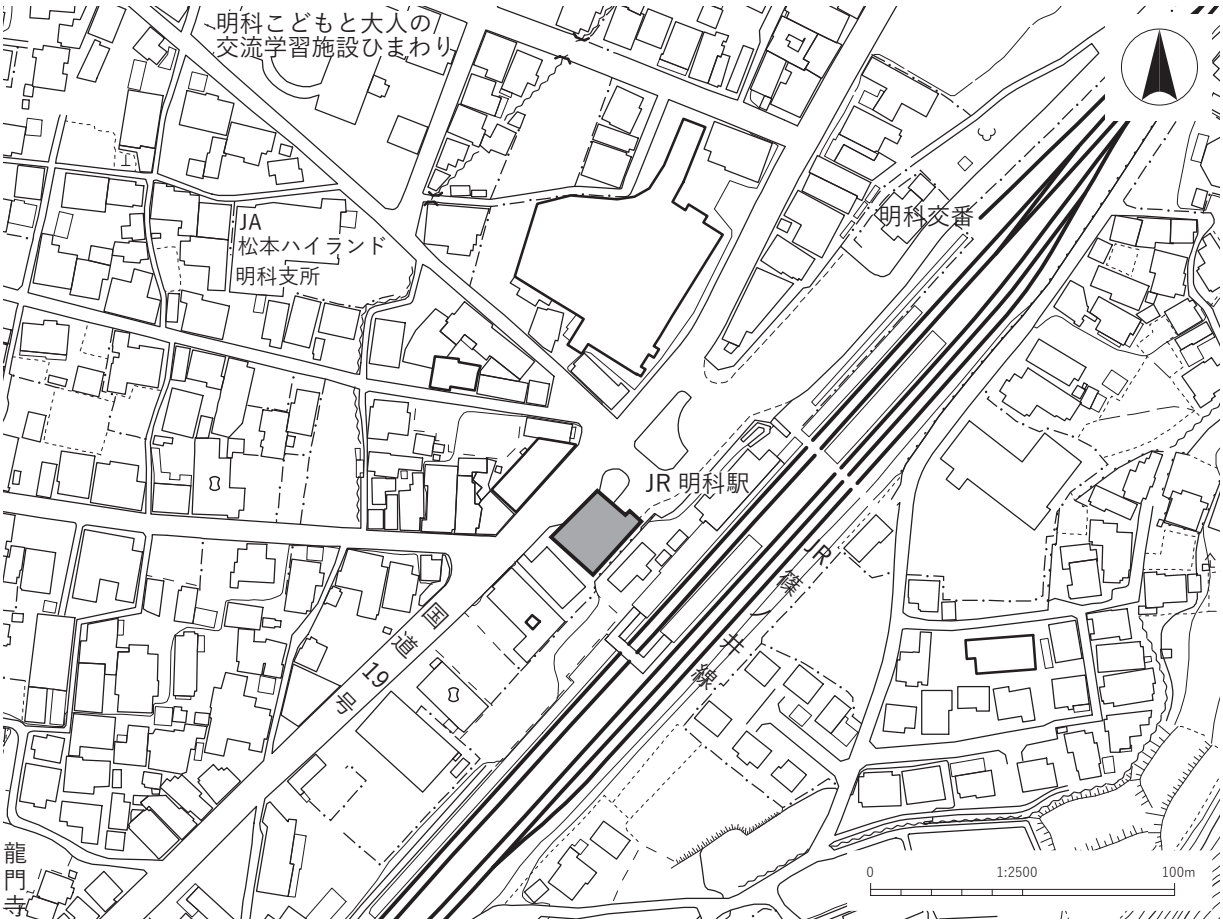


7　Ｃトレンチ南壁



8　Ｄトレンチ南壁

6　明科遺跡群県町遺跡（第１表■117）



第21図　県町遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市明科中川手3749番２	調査面積	14㎡
調査期間	令和３年（2021）１月６日	調査契機	道路
調査参加者	土屋和章、横山幸子、臼居直之、田多井智恵		

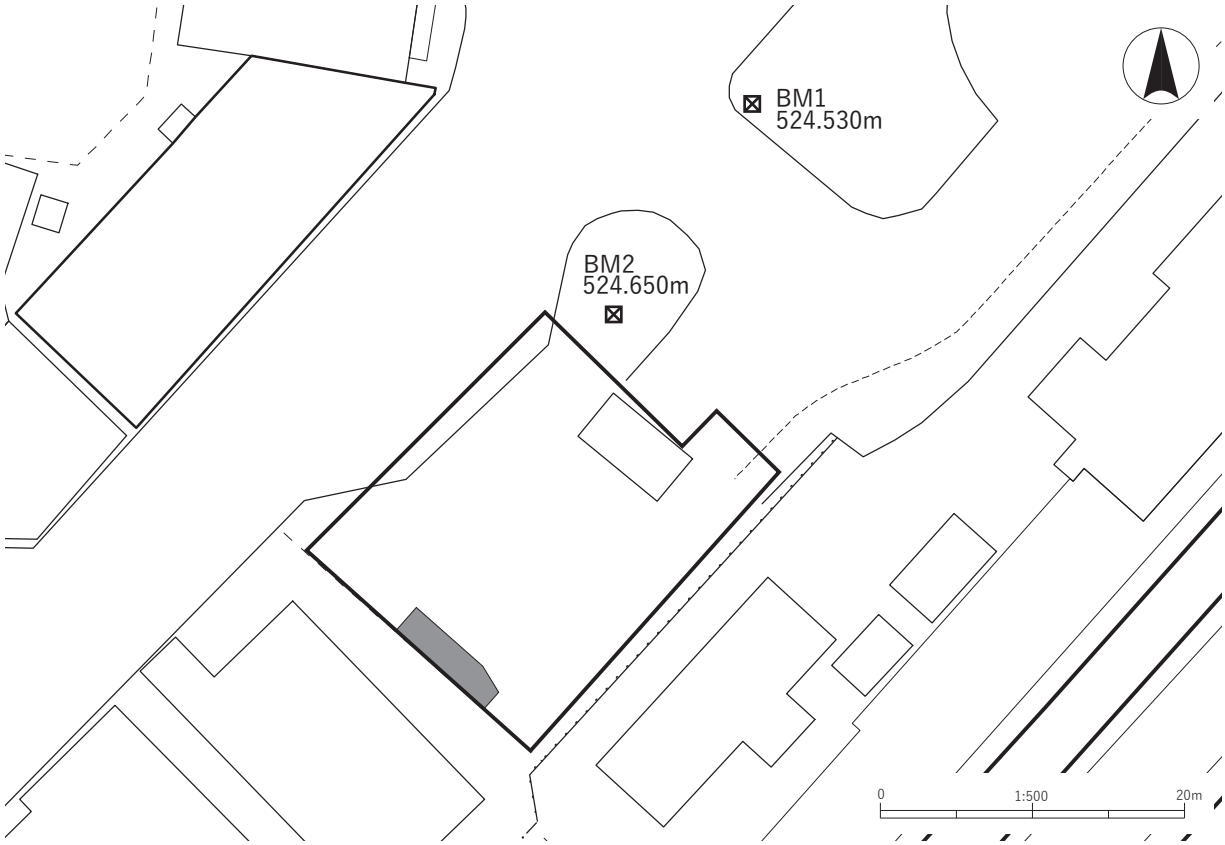
（１）概要

明科遺跡群県町遺跡は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡は、これまでに発掘調査を実施した記録がない。

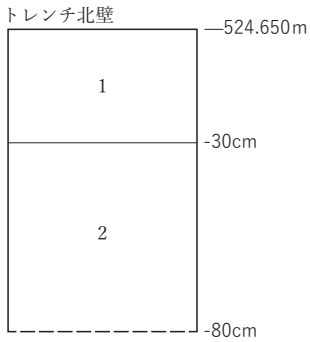
今回、駅前公園の駐車場整備に際し本調査の要否を判断するための試掘調査を実施した。なお、調査地は、インターロッキングにより舗装されていた。１か所のトレンチを設定し、地表下約80cm まで掘削したところ、地表下30cm までの造成土と、アース線やガラス片を含む近現代の撹乱を受けた土層を確認した。自然堆積層は残存していなかった。中世以前の遺物は出土せず、遺構は検出できなかった。

上記の結果から、今回の調査地に明確な埋蔵文化財は存在せず、本調査は不要と判断した。

また調査地では、試掘調査後の土木工事に際し工事立会を実施した。電線地中化のための深度約130cm の掘削で確認できたのは、試掘調査と同様に撹乱を受けた土層のみで、レンガ片や針金のほか、２m 以上の木材が含まれていた。



第22図　県町遺跡試掘トレンチ配置図



1, 造成土
2, 近現代の攪乱
　アース線、ガラス片、陶磁器片を含む

第23図　県町遺跡試掘土層概念図

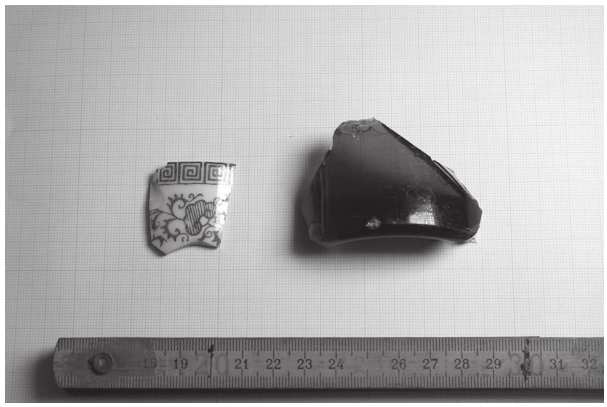
1　調査地近景（北東から）

2　調査地近景（南西から）

3　トレンチ北壁

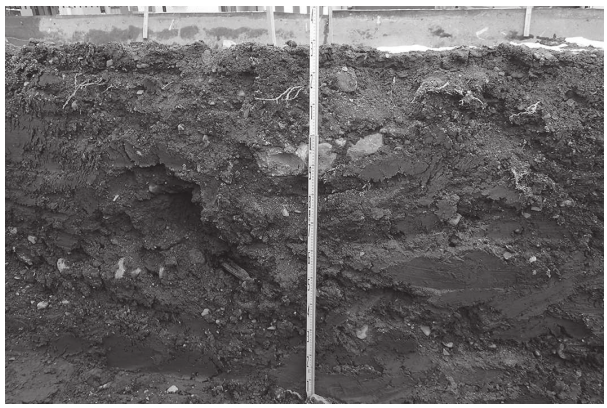
4　トレンチ完掘（西から）

5　トレンチ完掘（東から）



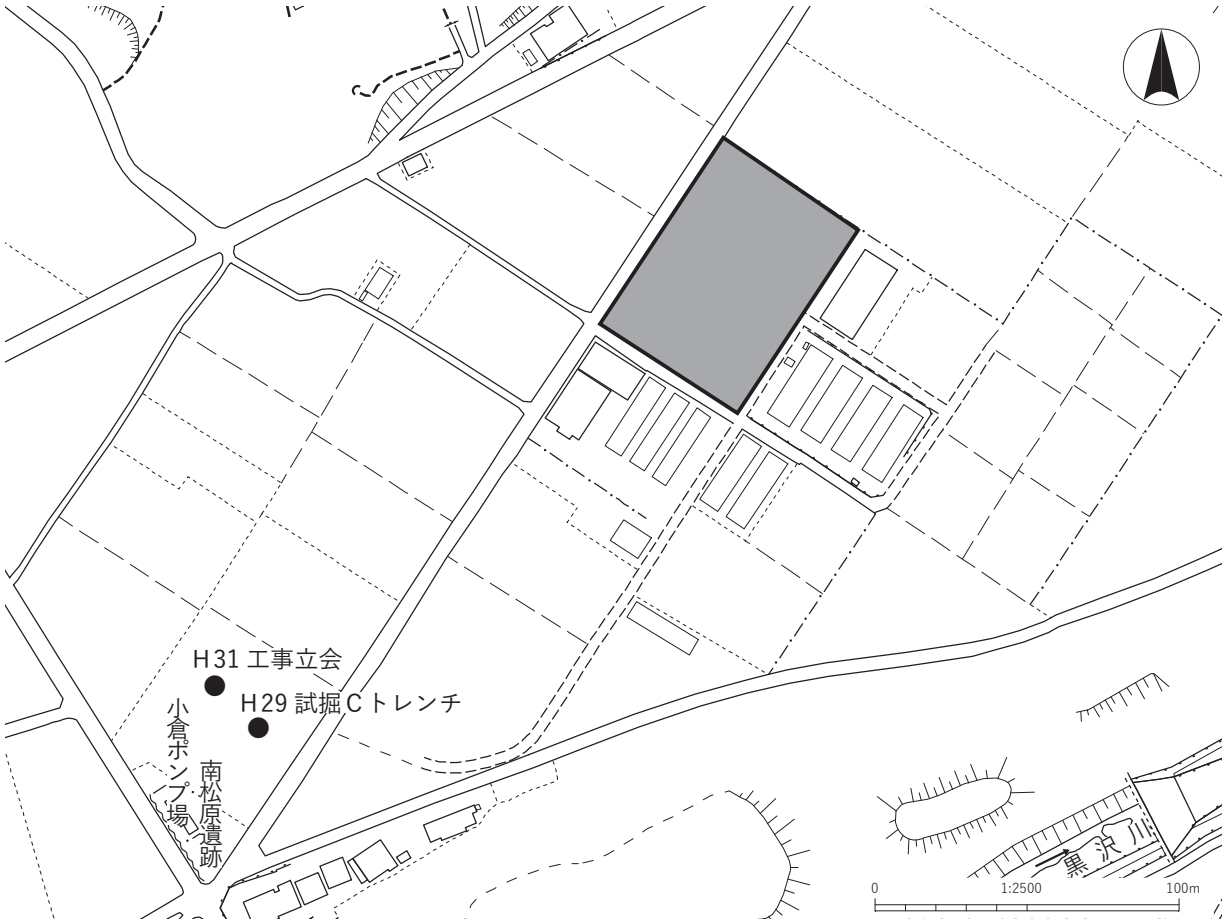
6　現代の陶器片・ガラス片

7　工事立会掘削（北東から）



8　工事立会掘削南壁

7　南松原遺跡（第１表■128）



第24図　南松原遺跡試掘位置図

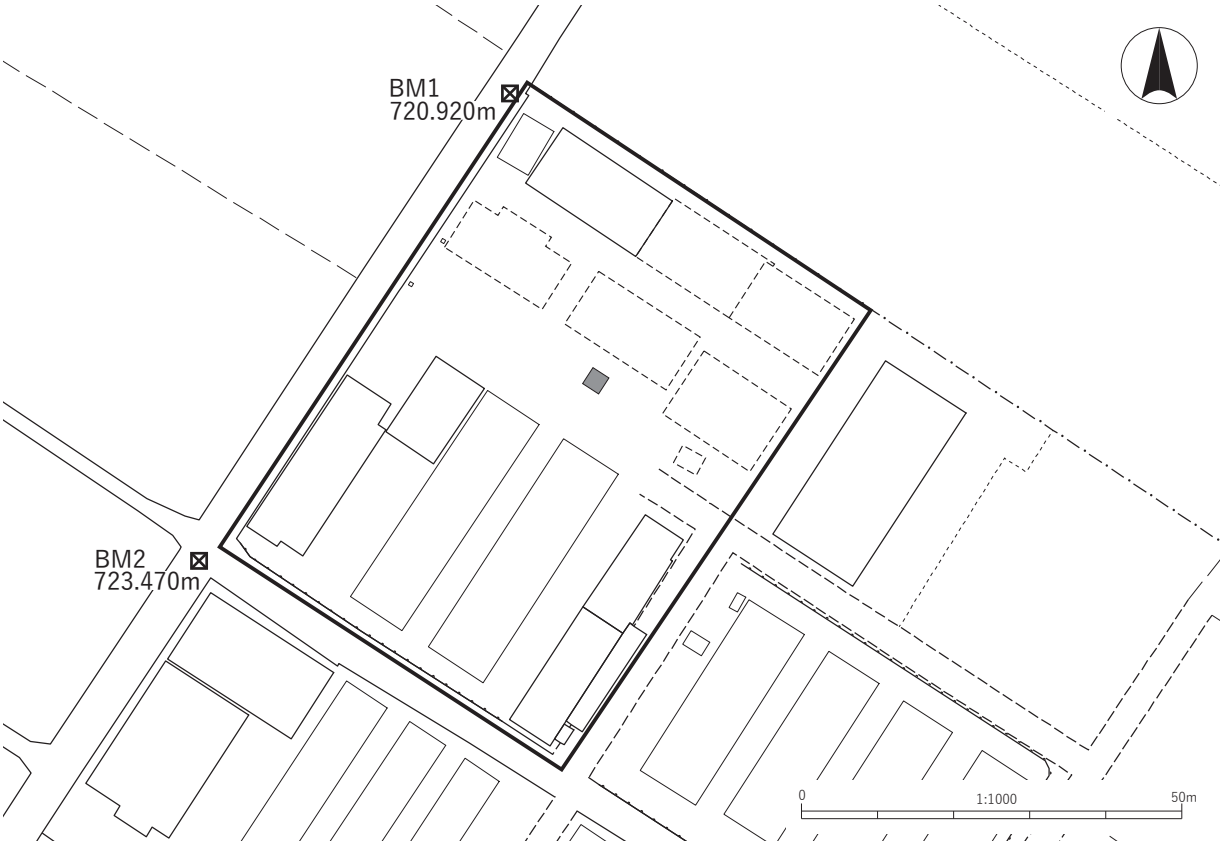
所在地	安曇野市三郷小倉6412番１	調査面積	６㎡
調査期間	令和３年（2021）２月４日	調査契機	工場
調査参加者	横山幸子、臼居直之、田多井智恵		

（１）概要

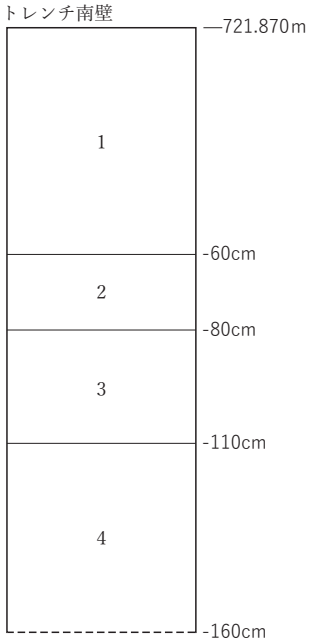
南松原遺跡は、黒沢川左岸の河岸段丘上に所在する縄文時代の集落跡である。この遺跡では、昭和45年（1970）に、三郷村教育委員会が発掘調査を実施し、縄文時代中期の集落跡を確認した（三郷村誌編纂会編1980）。

今回は、工場の作業棟建設に際し予定箇所でトレンチを１か所設定し、試掘調査を実施した。建物基礎の予定掘削深度に合わせ地表下160cm まで掘削したところ、現代の撹乱の下位に自然堆積層が残存していた。このうち、第２層の粘土と第３層のシルトには炭化物が含まれている。第４層の礫層は上方細粒化し、最上部では基質であるシルトのみの層に漸移していた。遺構は検出できず、遺物も出土しなかった。

以上のとおり、調査地には埋蔵文化財は存在しないことから、本調査は不要であると判断した。



第25図　南松原遺跡試掘トレンチ配置図



1,現代の造成土
　上部は駐車場造成の砕石で、下部はビニール紐、レンガ片など含む
　下部にはコンクリートの建物基礎が存在
2,10YR2/2黒褐色粘土
　しまり中、粘性強
　1mm以下の炭化物、褐色粒子を少量含む
3,10YR3/3暗褐色シルト
　しまり中、粘性強
　1cm以下の炭化物を含む
　10YR4/6褐色シルトの不定形のブロックを含む
　1cm以下の亜円礫を少量含む
4,10YR6/6明黄褐色礫
　しまり弱、粘性強
　最大径15cm、平均径3cmの亜円～亜角礫を含む
　基質はシルトで、基質支持
　上方細粒化し、第3層直下では礫をほとんど含まない

第26図　南松原遺跡試掘土層概念図

1　調査地近景（北東から）

2　調査地近景（南西から）

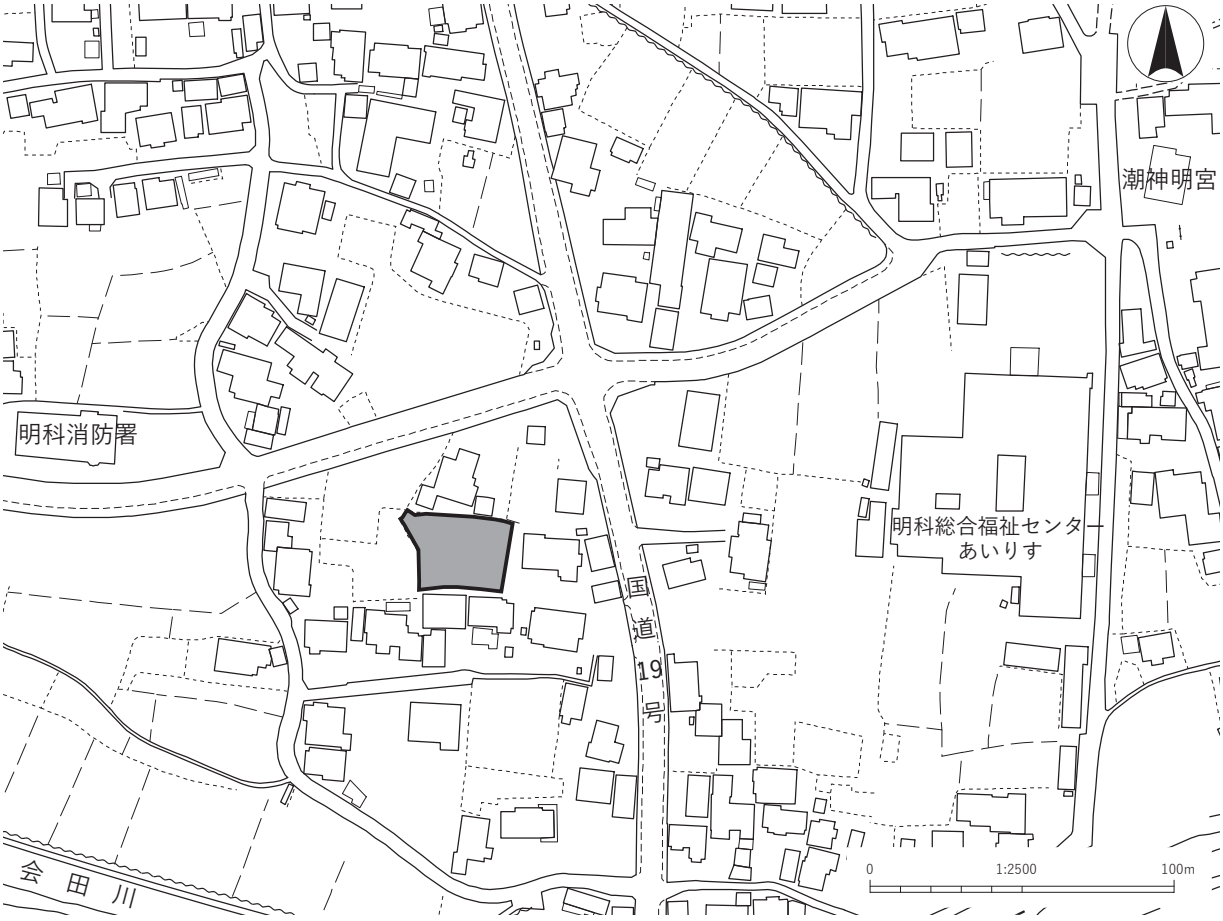
3　トレンチ南壁（白い点は降雪）

4　トレンチ完掘（西から）

5　埋戻し後（北から）

6　埋戻し後（西から）

8　潮遺跡群（うしお）潮神明宮前遺跡（うしおしんめいぐうまえ）（第１表■131）



第27図　潮神明宮前遺跡試掘位置図

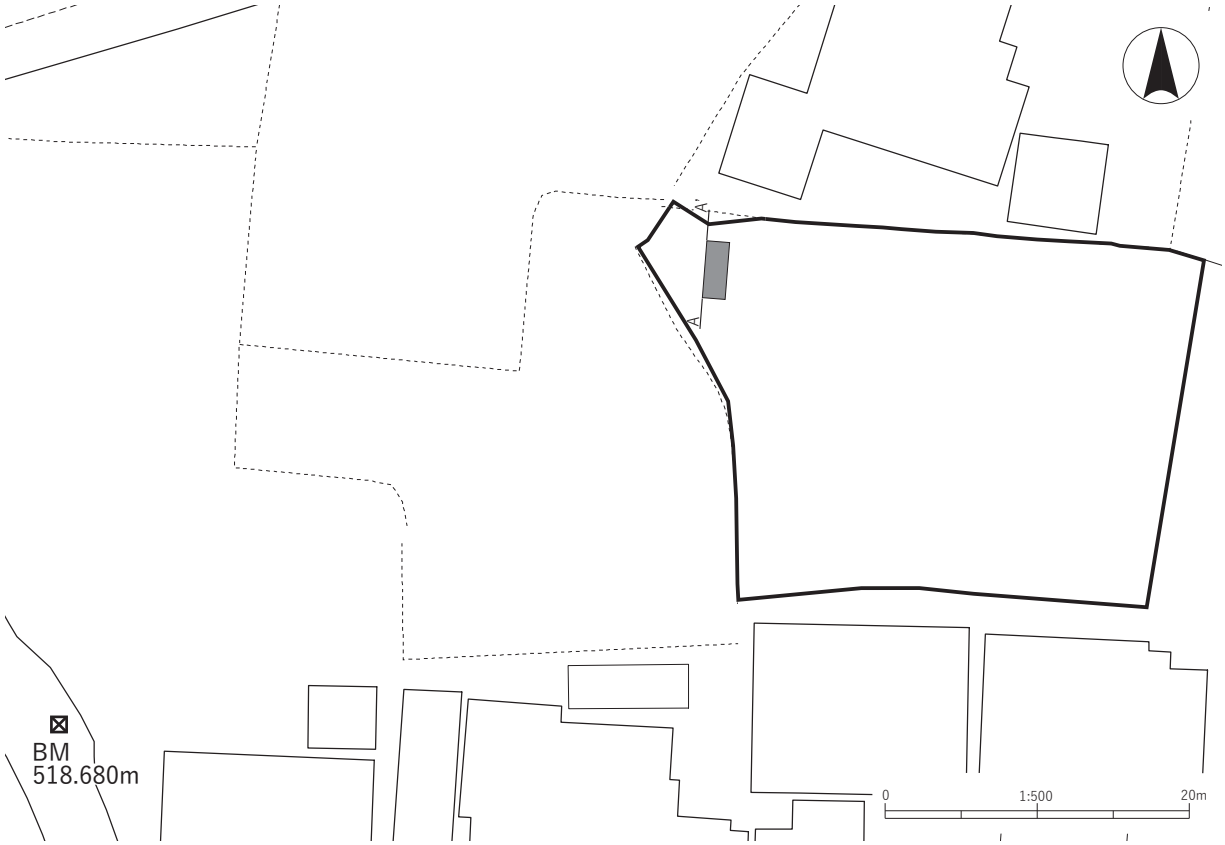
所在地	安曇野市明科東川手528番６外１筆	調査面積	５㎡
調査期間	令和３年（2021）２月10日	調査契機	太陽光発電施設
調査参加者	土屋和章、横山幸子、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

（１）概要

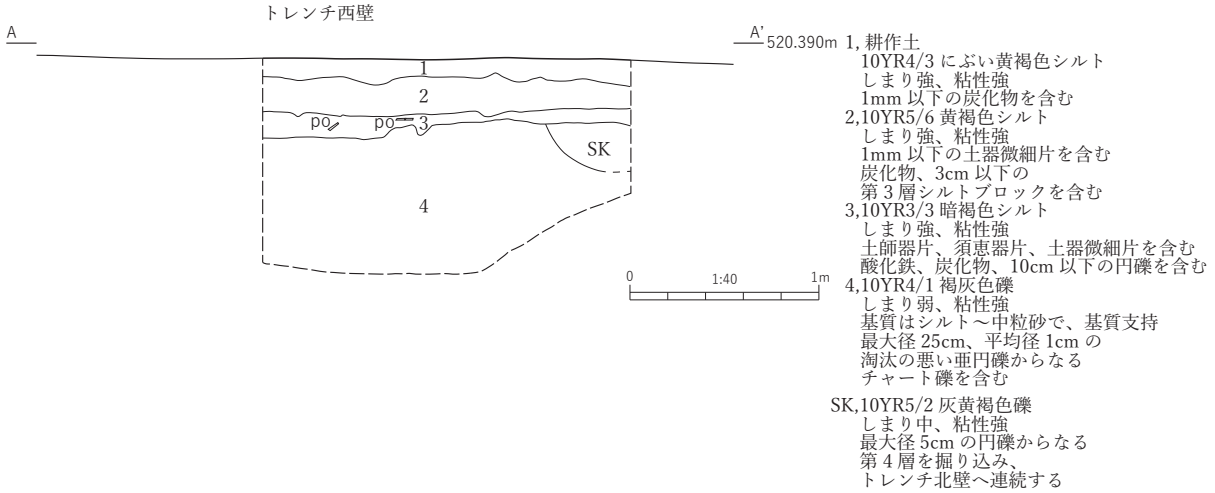
潮遺跡群潮神明宮前遺跡（以下、「潮神明宮前遺跡」とする。）は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに３次の発掘調査を実施し、古墳群及び弥生時代・古墳時代及び平安時代の集落跡を確認している（明科町教委2000・2005、安曇野市教委2019）。

太陽光発電施設建設に伴う浸透施設設置箇所について、記録保存のための発掘調査に先立ち試掘調査を実施した。調査の結果、第３層から土師器、須恵器の破片が出土した。トレンチ西壁で第４層を掘り込み、遺物片を含む土坑の断面を検出した。

上記の結果から、本件施工地内に埋蔵文化財が残存していることを確認したが、本件工事では浸透施設以外に調査可能な掘削はないため、本調査は不要と判断した。

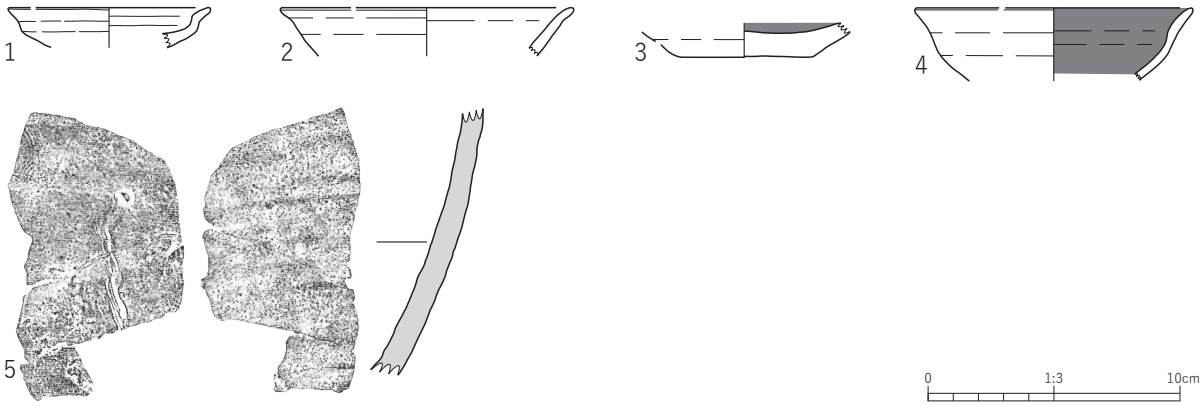


第28図　潮神明宮前遺跡試掘トレンチ配置図

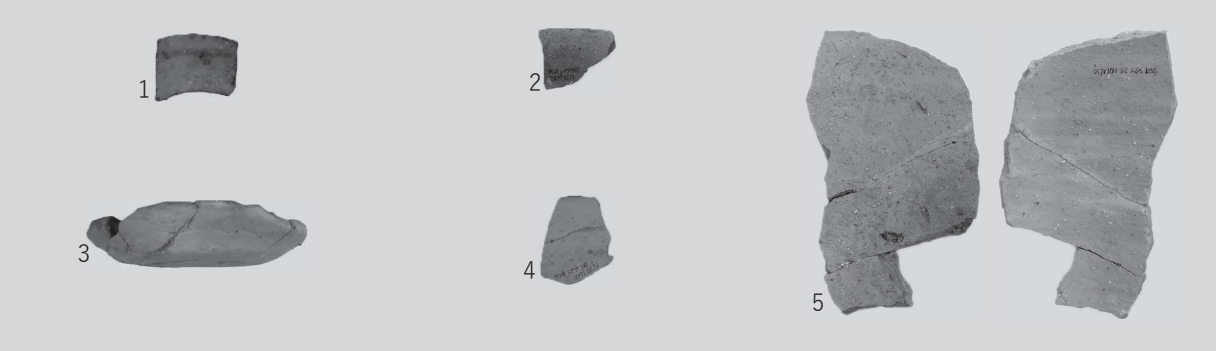


第29図　潮神明宮前遺跡試掘セクション図

（２）遺物



第30図　潮神明宮前遺跡試掘出土遺物



第31図　潮神明宮前遺跡試掘出土遺物写真

第２表　潮神明宮前遺跡試掘出土遺物観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径（cm）		底径（cm）		器高（cm）		技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	不明	第３層	土師器	器台	口縁部～体部上半	8.0	復	不明	—	1.6	残	ナデ	ナデ	不明	
2	不明	第３層	土師器	埦	口縁部～体部上半	11.6	復	不明	—	1.9	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	胎土に砂を多く含む
3	不明	第３層	黒色土器Ａ	坏Ａ	体部下半～底部	不明	—	5.2	完	1.3	残	ロクロナデ	ミガキ？	回転糸切り	底部厚1.0㎝とやや厚い
4	不明	第３層	黒色土器Ａ	埦	口縁部～体部下半	11.0	復	不明	—	2.9	残	ロクロナデ	ミガキ	不明	
5	不明	第３層	陶器	壺	体部下半	不明	—	不明	—	10.6	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	中世以降

試掘で出土した土器のうち、５点を資料化した。１は、古墳時代前期の土師器器台で、口縁部は強く外傾し体部中ほどに明瞭な段を有する。また、器厚は薄く、精選された精緻な胎土である。２は、土師器埦である。口縁部は端部付近で強く外反し、体部は直線的に広がる。３は、黒色土器Ａの坏Ａの底部である。底部厚が1.0cmとやや厚めだが、底径は5.2cmと坏Ａの範疇に収まる。４は、黒色土器Ａの埦である。体部中ほどで弱く屈曲して立ち上がり、口縁部は外反する。５は、中世以降の陶器の体部破片で、ロクロ成形の後で内外面ともにナデを施している。

1　調査地近景（北西から）

2　調査地近景（南西から）

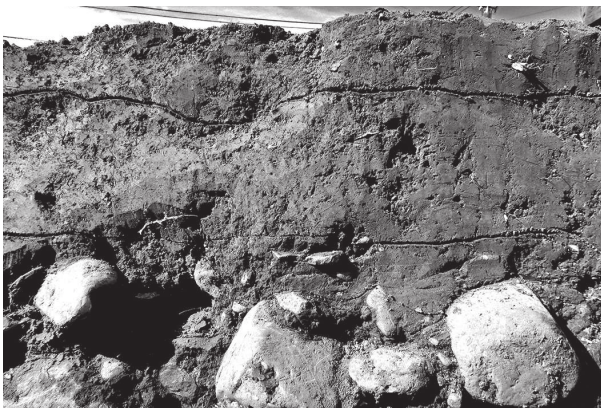
3　調査前（西から）

4　調査前（東から）

5　調査前（南から）

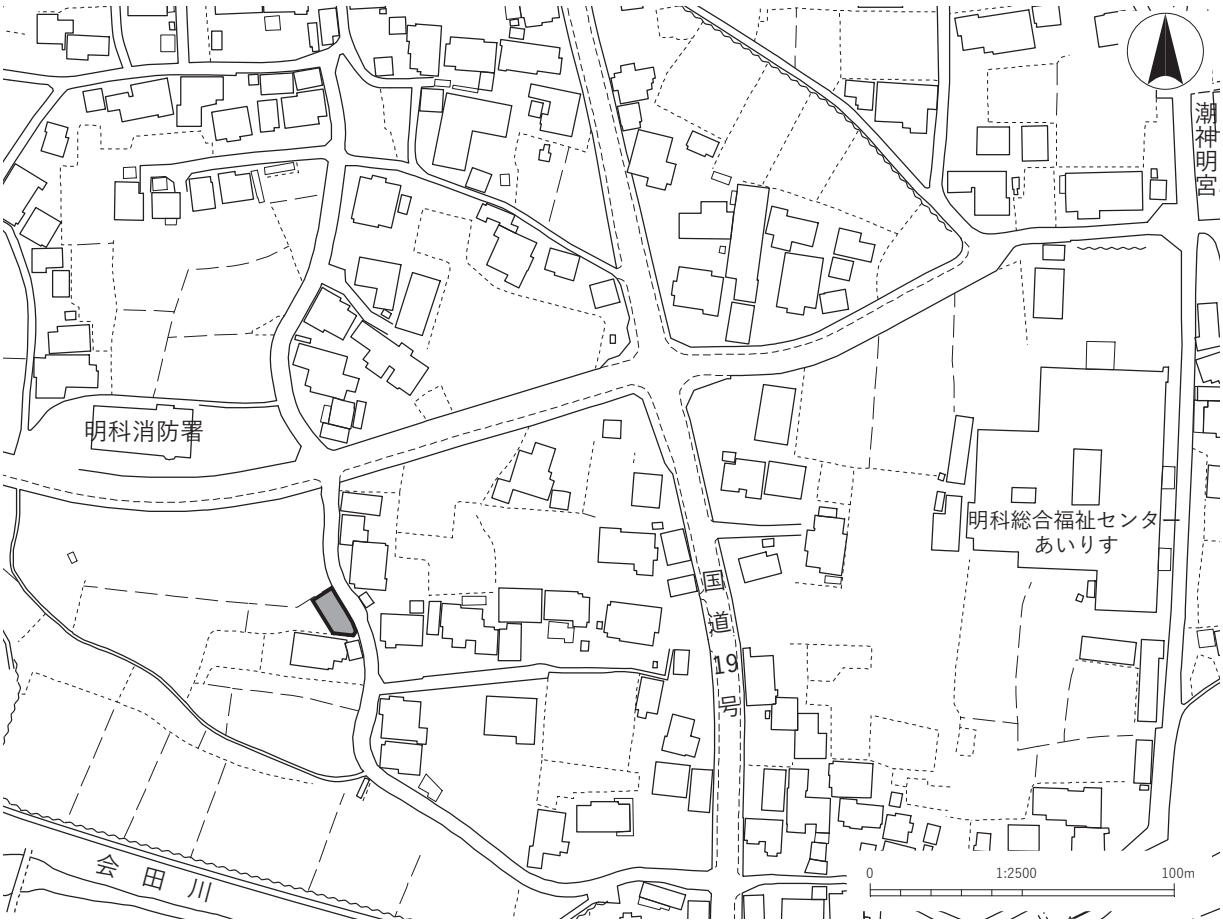
6　トレンチ完掘（西から）

7　トレンチ西壁



8　トレンチ東壁

9　潮遺跡群潮神明宮前遺跡（第１表■146）



第32図　潮神明宮前遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市明科東川手263番１	調査面積	１㎡
調査期間	令和３年（2021）３月22日	調査契機	農業用倉庫
調査参加者	横山幸子、臼居直之、田多井智恵		

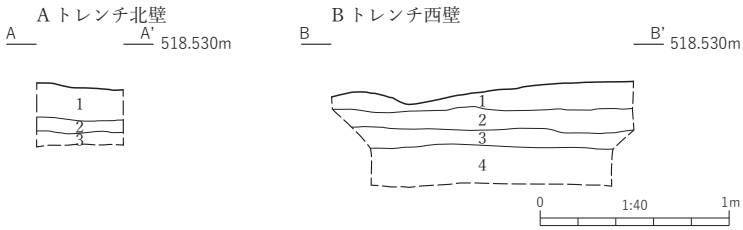
（１）概要

潮神明宮前遺跡は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに３次の発掘調査を実施し、古墳群及び弥生時代・古墳時代及び平安時代の集落跡を確認している（明科町教委2000・2005、安曇野市教委2019）。

事業地内で、トレンチ２か所（A・Bトレンチ）を設定し、試掘調査を実施した。地表下50cmまで掘削したところ、厚さ約15cmの耕作土の下位にシルト層、粘土層、極細粒砂層を確認した。第３層の粘土には、炭化物が含まれていた。遺物は、第１層から土師器・須恵器片を数点検出したが、遺構に関連する状況はなかった。第２層以下は安定した堆積層で遺構は検出できなかった。

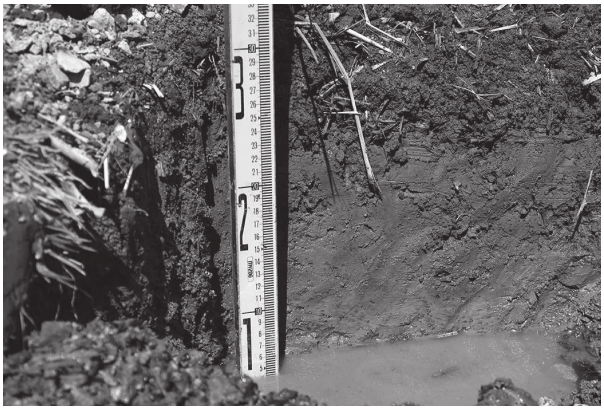
以上のとおり、調査地に遺構が存在しないことから、本調査は不要と判断した。

第33図　潮神明宮前遺跡試掘トレンチ配置図

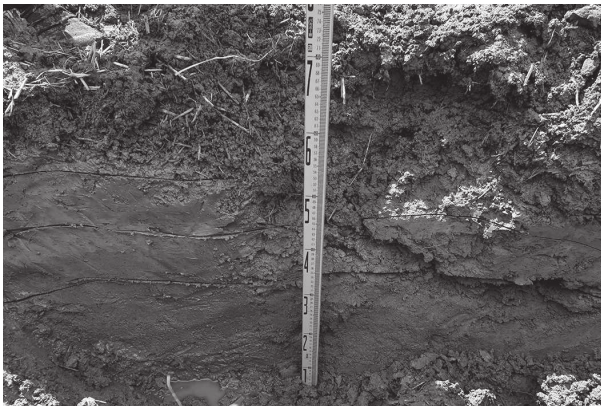


1, 耕作土
2,10YR4/2 灰黄褐色シルト
　しまり中、粘性強
　10cm 程度の青灰色粘土のブロック混入
3,10YR5/4 にぶい黄褐色粘土
　しまり強、粘性強
　炭化物粒、褐色粒を多量混入
　1cm 程度の円礫含む
4,10YR4/4 褐色極細粒砂
　しまり弱、粘性中
　酸化鉄を含む

第34図　潮神明宮前遺跡試掘セクション図

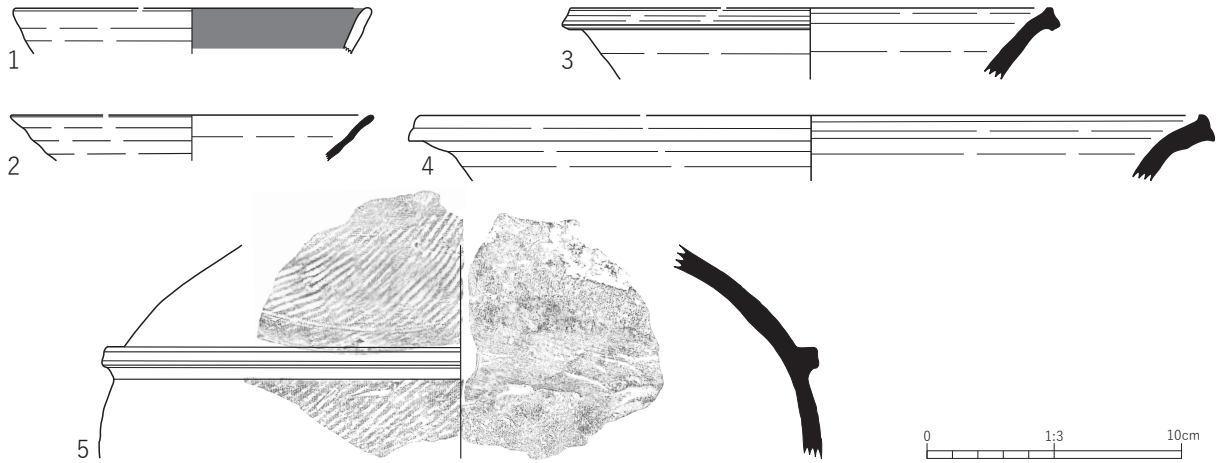


1　A トレンチ北壁

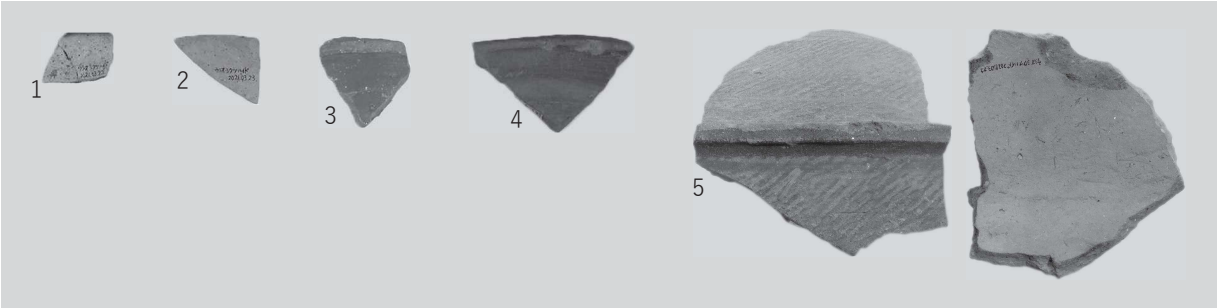


2　B トレンチ西壁

（２）遺物



第35図　潮神明宮前遺跡試掘出土土器



第36図　潮神明宮前遺跡試掘出土土器写真

第３表　潮神明宮前遺跡試掘出土土器観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径（cm）		底径（cm）		器高（cm）		技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	不明	排土	黒色土器Ａ	坏Ａ	口縁部～体部上半	14.0	復	不明	—	1.8	残	ロクロナデ	ミガキ	不明	
2	不明	排土	須恵器	坏Ａ	口縁部～体部上半	14.2	復	不明	—	1.8	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
3	不明	排土	須恵器	壺	口縁部～頚部	19.0	復	不明	—	2.7	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	胎土に長石を若干含む
4	不明	排土	須恵器	甕	口縁部～頚部	30.9	復	不明	—	2.6	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
5	不明	排土	須恵器	甕Ｄ	体部上半～体部下半	不明	—	不明	—	8.3	残	タタキ＋横ナデ	粗いナデ	不明	凸帯断面は四角形

試掘で出土した土器のうち、５点を資料化した。１は、黒色土器Ａの坏Ａの口縁部破片である。黒色土器Ａが食膳具の主体となるのは、松本平古代７・８期以降とされる。２は、須恵器の坏Ａで、器厚は薄く、口縁部が大きく開き気味になる器形である。３・４はいずれも須恵器の口縁部で、３は壷、４は甕である。５は、体部上半に凸帯を有する須恵器甕Ｄである。凸帯の断面形は整った四角形となる。須恵器甕Ｄは、松本平古代５～９期に存在し、断面四角形や台形の凸帯は７～８期に多い傾向にある。

以上の様相から、今回の試掘出土土器は松本平古代７～８期に比定できる。

10　八ツ口（やつくち）遺跡（第１表■148）

第37図　八ツ口遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高柏原960番１の一部	調査面積	46㎡
調査期間	令和３年（2021）３月23日	調査契機	個人住宅
調査参加者	土屋和章、横山幸子、臼居直之、田多井智恵、山下泰永		

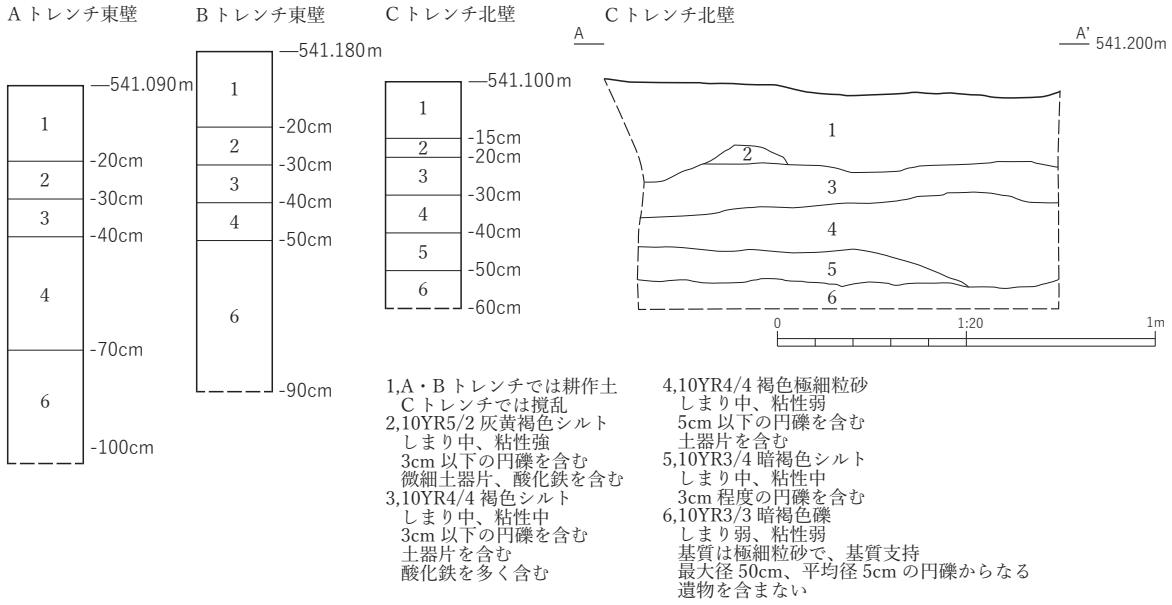
（１）概要

八ツ口遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する奈良時代～中世の集落跡である。この遺跡では、これまでに２次の発掘調査を実施し、当該期の遺構・遺物を確認している（安曇野市教委2010）。

今回は個人住宅建設（表層改良）予定箇所で３か所のトレンチ（A～C トレンチ）を設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、表土下位にはシルトが良好に残存していた。このうち第３層は、摩耗した土器片（平安時代）を少量含むため、トレンチを拡張して遺構の有無を精査したが、遺構の存在は確認できなかった。出土土器は摩耗が激しい小破片であったことから、二次的な堆積土中への混入と判断した。また、深度50～70cm で礫（第６層）となるため、工事深度内で第６層以深に遺構等がないことも確認した。

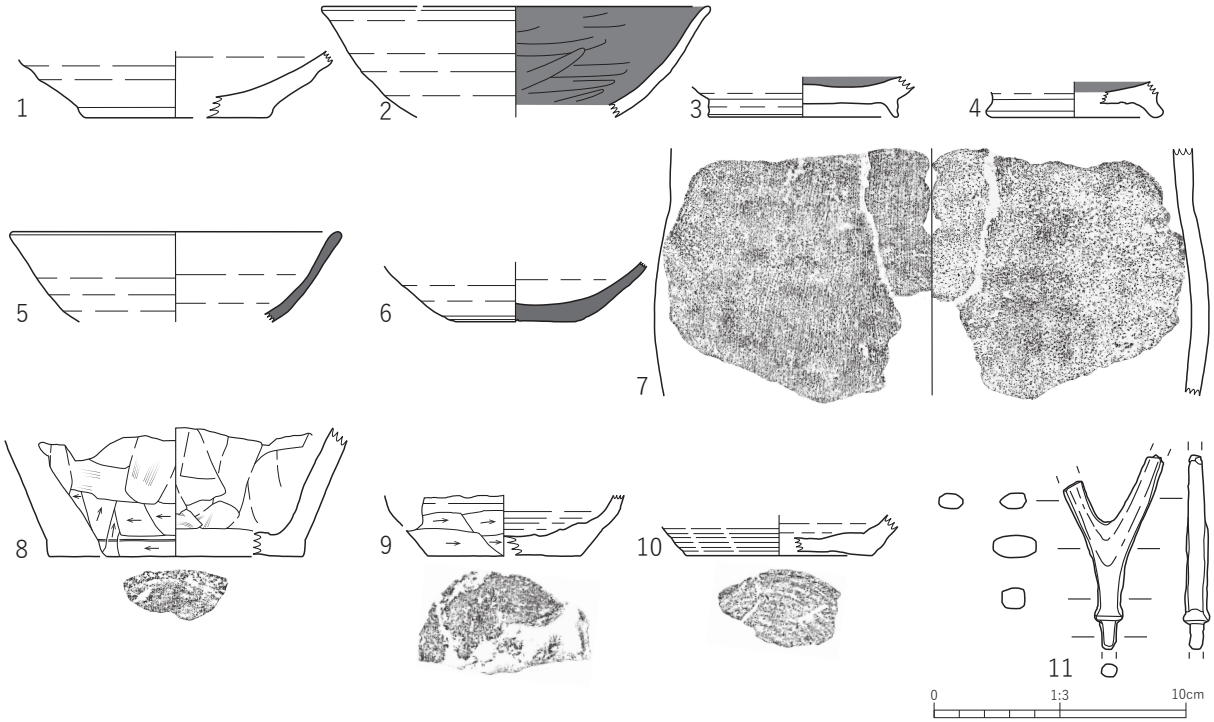
以上の結果から、本件工事に際し本調査は不要と判断した。

第38図　ハツ口遺跡試掘トレンチ配置図

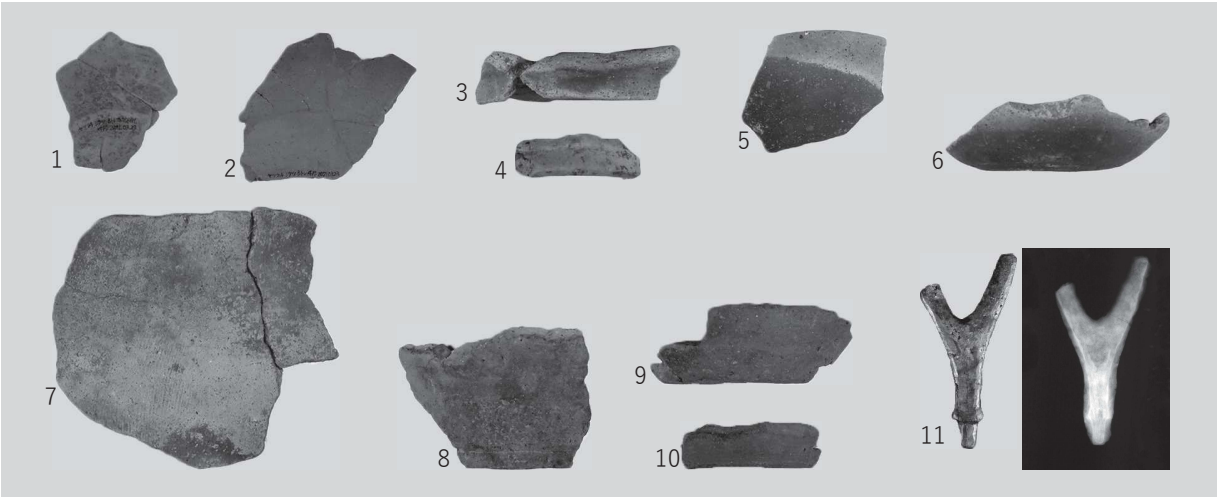


第39図　ハツ口遺跡試掘土層断面図

（２）遺物



第40図　ハツ口遺跡試掘出土遺物



第41図　ハツ口遺跡試掘出土遺物写真

試掘で出土した遺物11点を資料化した。１は、土師器鉢で内面に付着物がある。２～４は、黒色土器Ａで、２は坏Ａ、３・４は埦とした。５・６は、軟質須恵器で内外面ともに黒斑を有する。７・８は、土師器甕である。９・10は、土師器小型甕で、９は外面の底部付近を削る。11は、雁股鏃である。

今回の出土遺物の時期は、黒色土器Ａ坏Ａ・埦と軟質須恵器坏Ａが見られることから、松本平古代８期と考えられる。

第４表　ハツ口遺跡試掘出土遺物観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径（cm）		底径（cm）		器高（cm）		技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	Ｂトレンチ西拡張区	第４層	土師器	鉢	体部下半～底部	不明	—	7.4	復	2.7	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内面に付着物あり
2	Ｂトレンチ	第４層	黒色土器Ａ	坏Ａ	口縁部～体部下半	15.4	復	不明	—	4.5	残	ロクロナデ	ミガキ＋黒色処理	不明	
3	Ｃトレンチ	第４層	黒色土器Ａ	椀	体部下半～底部	不明	—	7.6	復	1.6	残	ロクロナデ	ミガキ＋黒色処理	不明	底部外面の摩擦が激しく調整不明
4	表採	不明	黒色土器Ａ	椀	体部下半～底部	不明	—	7.0	復	1.4	残	ロクロナデ	ミガキ＋黒色処理	回転糸切り	
5	Ｃトレンチ	第４層	軟質須恵器	坏Ａ	口縁部～体部下半	13.1	復	不明	—	3.1	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	内外面とも黒斑あり
6	Ｃトレンチ	第４層	軟質須恵器	坏Ａ	体部下半～底部	不明	—	5.0	復	2.4	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内外面とも黒斑あり
7	Ｃトレンチ	第４層	土師器	甕Ｂ	体部上半～体部下半	不明	—	不明	—	9.8	残	ハケメ	ナデ	不明	
8	表採	不明	土師器	甕	体部下半～底部	不明	—	10.0	復	5.1	残	ケズリ＋ナデ	ナデ	ナデ	
9	Ｂトレンチ西拡張区	第４層	土師器	小型甕Ｃ	体部下半～底部	不明	—	6.0	復	2.4	残	ロクロナデ＋ケズリ	ロクロナデ	ケズリ	
10	表採	不明	土師器	小型甕Ｄ	体部下半～底部	不明	—	7.4	復	1.6	残	カキメ	ロクロナデ	回転糸切り	

No.	遺構	層位	器種	材質	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	備考
11	Ｂトレンチ西拡張区	第４層	鉄鏃	鉄	7.7	4.0	1.1	19.3	雁股鏃

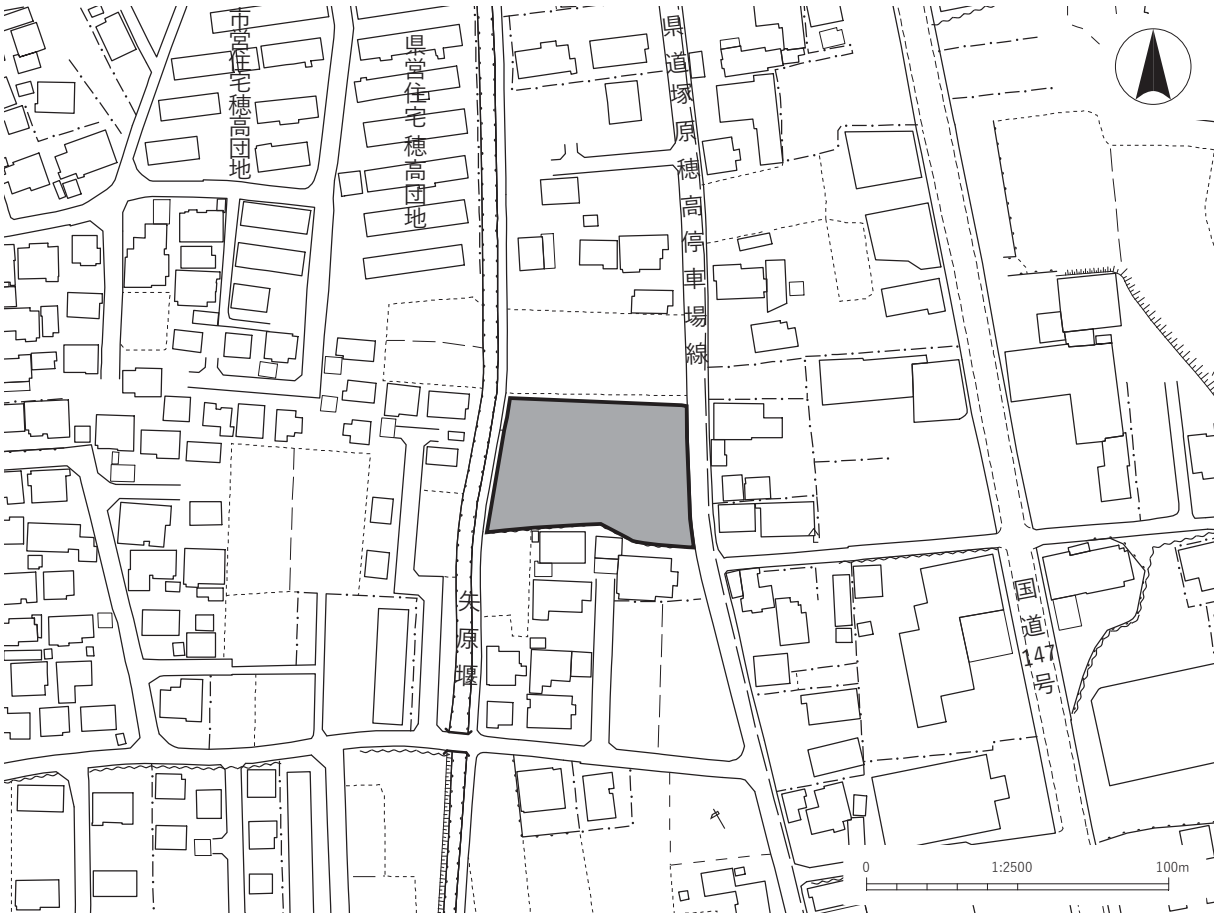
1　調査地近景（北から）

2　Ｃトレンチ完掘（北から）

3　Ｃトレンチ北壁

4　Ａ・Ｂトレンチ間拡張区（西から）

11　三枚橋（さんまいばし）遺跡（第１表■155）



第42図　三枚橋遺跡試掘位置図

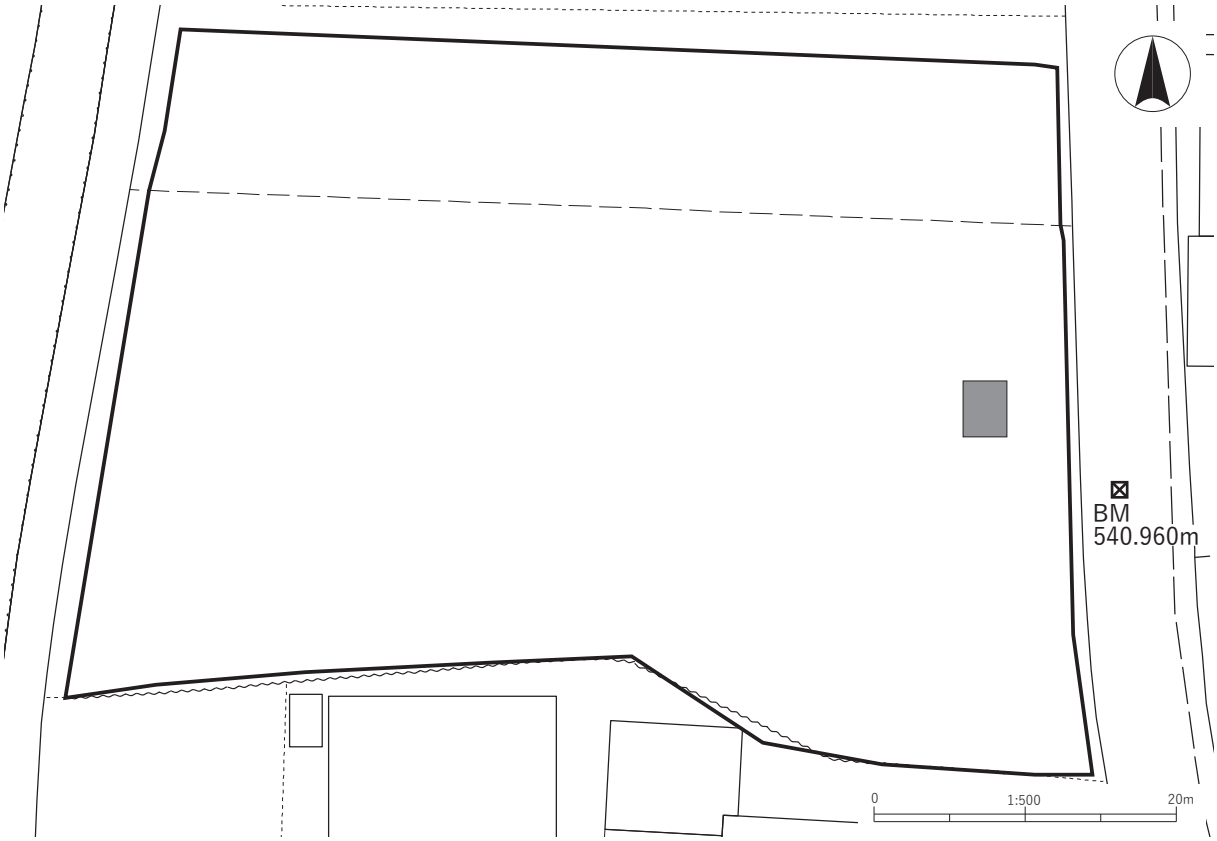
所在地	安曇野市穂高柏原962番５外２筆	調査面積	10㎡
調査期間	令和３年（2021）３月29日	調査契機	宅地造成
調査参加者	土屋和章、横山幸子、臼居直之、田多井智恵、望月裕子、山下泰永		

（１）概要

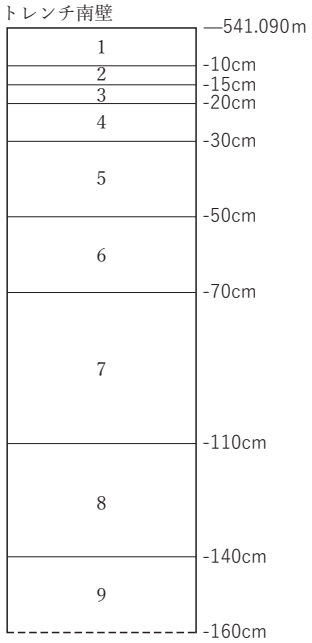
三枚橋遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する弥生時代～中世の集落跡である。この遺跡では、これまでに７次にわたる発掘調査を実施し、弥生時代・奈良時代を中心とした遺構・遺物を確認している（安曇野市教委2010・2020）。

今回は、宅地造成のうち浸透施設設置箇所にトレンチを設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、表土下位にシルトが良好に残存していた。このうち第５層は、摩耗した土器微細片（時代不明、採取不可）をごく少量含むが、遺構等はない。第６層以下は礫・砂礫で、埋蔵文化財は包含されていない。

このため、本件工事に際し本調査は不要と判断した。



第43図　三枚橋遺跡試掘トレンチ配置図



1,耕作土
2,10YR4/2灰黄褐色シルト
　しまり強、粘性中
　炭化物、1cm以下の円礫を少量含む
3,10YR4/3にぶい黄褐色シルト
　しまり強、粘性中
　酸化鉄を多く含む
　炭化物、1cm以下の円礫を含む
4,10YR4/2灰黄褐色シルト
　しまり強、粘性中
　上部に酸化鉄が濃集する
　2cm以下の円礫を含む
5,10YR4/4褐色粘土
　しまり強、粘性強
　3cm以下の円礫を微量含む
　炭化物、微細土器片がごく少量混入
6,10YR4/3にぶい黄褐色礫
　しまり弱、粘性弱
　最大径10cm、平均径1cmの円礫からなる
　基質は中粒砂で、基質支持
7,10YR4/4褐色細粒砂
　しまり弱、粘性中
　全体的に均質
8,10YR2/2黒褐色極細粒砂
　しまり弱、粘性中
　10cm以下の円礫を多量含む
9,礫
　しまり弱、粘性弱
　最大径20cm、平均径3cmの円礫からなる
　基質は砂で基質支持

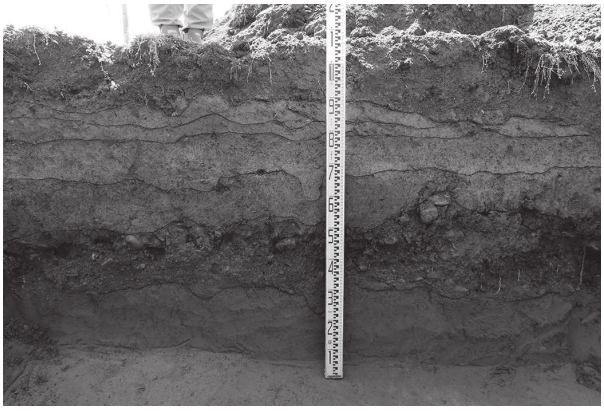
第44図　三枚橋遺跡試掘土層概念図

1　調査地近景（北から）

2　調査地近景（西から）

3　トレンチ完掘（北から）

4　トレンチ完掘（西から）



5　トレンチ南壁

6　埋戻し後（北から）

第３章　工事立会

１　追堀（おっぽり）遺跡（第１表●95）

第45図　追堀遺跡工事立会位置図

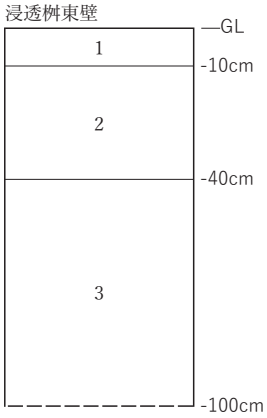
所在地	安曇野市穂高柏原1656番１	調査契機	宅地造成
調査期間	令和２年（2020）10月29日	調査担当者	横山幸子

（１）概要

追堀遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する平安時代の集落跡である。この遺跡では、平成29年（2017）度に第１次発掘調査を実施しているほか、複数回の試掘・工事立会で当該期の遺物の出土を確認している。

本件工事での工事立会は、敷地中央付近の浸透桝設置に際し実施した。浸透桝設置では、深度約100cm の掘削を実施したところ、耕作土の下位にシルト、礫が堆積していた。このうち第３層とした礫層から、須恵器破片が数点出土した。浸透桝設置箇所以外に、敷地外周の擁壁設置箇所でも遺構・遺物の検出を試みたが、遺物は出土していない。

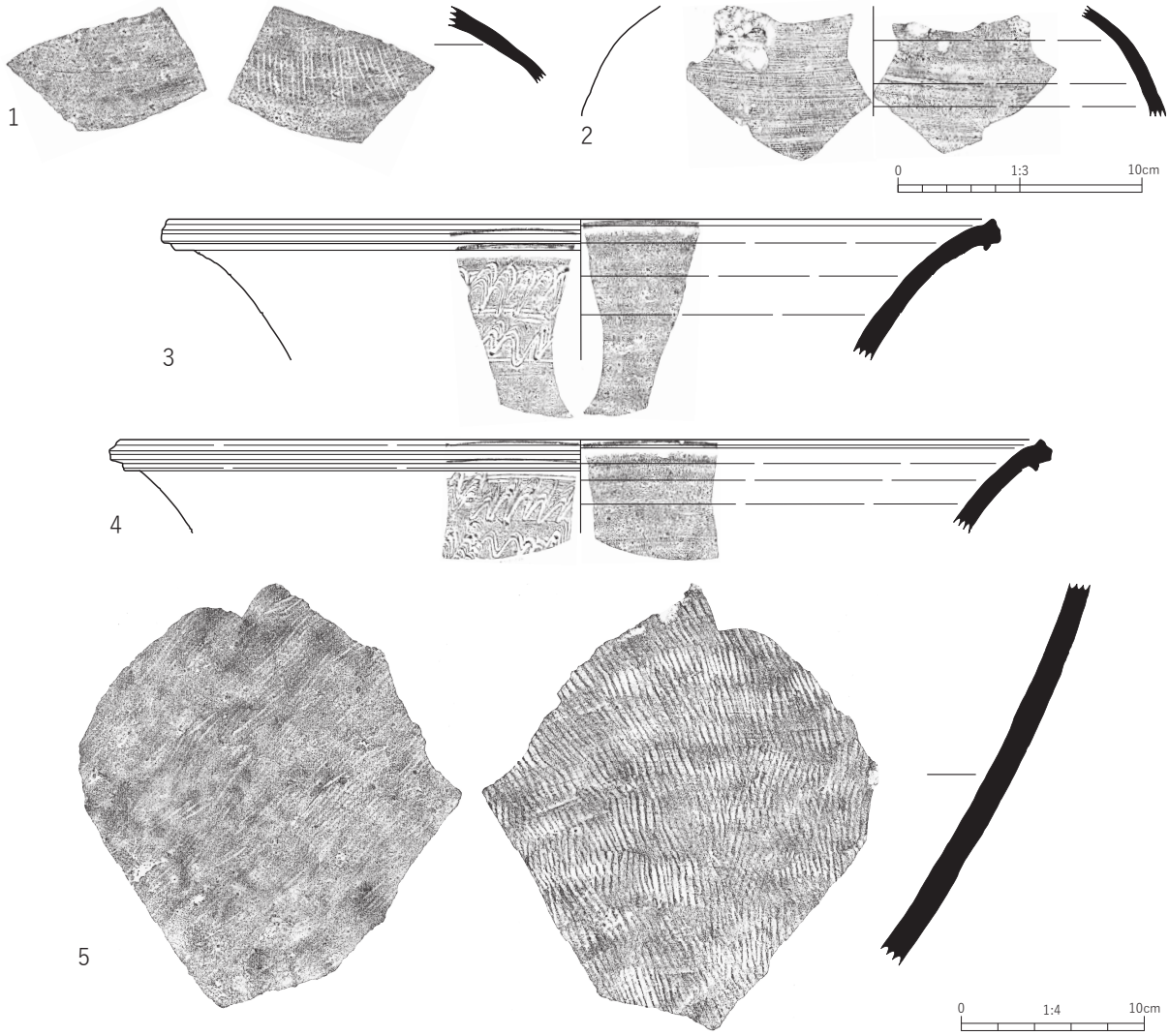
上記の結果から、本件施工地周辺には埋蔵文化財が良好に残存している可能性が高いため、今後の土木工事では注意が必要である。



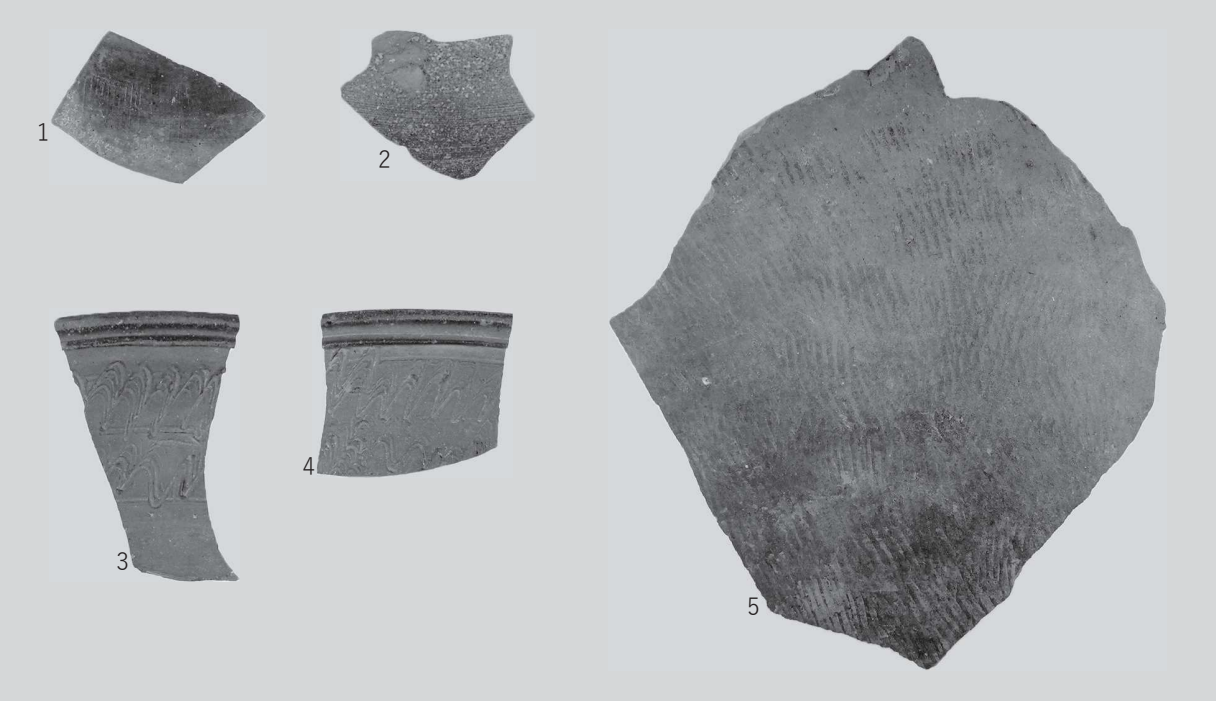
1,耕作土
2,10YR4/3にぶい黄褐色シルト
　しまり強、粘性中
　上部に酸化鉄が濃集するが、その他は均質
3,10YR4/3にぶい黄褐色礫
　しまり弱、粘性弱
　基質は第2層と同じで、基質支持
　最大径20㎝、平均径2cm程度の亜円礫からなる
　炭化物、遺物を含む
　第3層の排出土から須恵器破片を採集

第46図　追堀遺跡工事立会土層概念図

（２）遺物



第47図　追堀遺跡工事立会出土土器



第48図　追堀遺跡工事立会出土土器写真

第５表　追堀遺跡工事立会出土土器観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径（cm）		底径（cm）		器高（cm）		技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	不明	第３層	須恵器	長頸壺Ｂ	体部上半	不明	—	不明	—	3.1	残	ロクロナデ＋短沈線	ロクロナデ	不明	胎土が緻密で白みがかる
2	不明	排土	須恵器	壺	体部上半	不明	—	不明	—	4.5	残	カキメ	ロクロナデ	不明	外面に白色斑点が多い
3	不明	排土	須恵器	甕	口縁部～頸部	45.0	復	不明	—	7.7	残	ロクロナデ＋波状文	ロクロナデ	不明	No.4と同一個体か
4	不明	排土	須恵器	甕	口縁部～頸部	50.2	復	不明	—	5.1	残	ロクロナデ＋波状文	ロクロナデ	不明	No.3と同一個体か
5	不明	第３層	須恵器	甕	体部下半	不明	—	不明	—	20.8	残	タタキ	当具痕＋ナデ	不明	

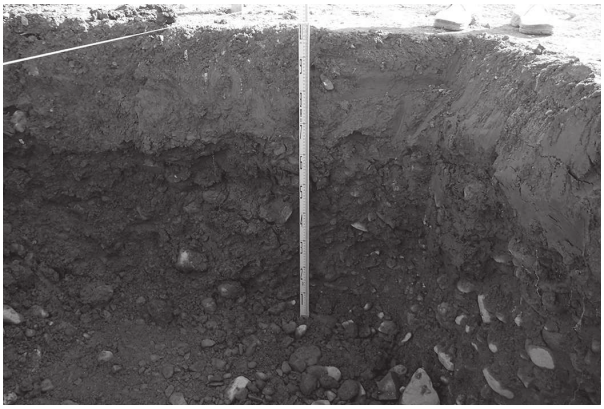
工事立会で出土した土器５点を資料化した。５点とも須恵器である。１は、体部上半と下半の境界で強く屈折し、低い体部にラッパ状に開く口頸部を付する器形となる長頸壺Ｂの体部上半破片である。器厚は４～５mmと薄く、胎土は緻密でやや白みがかる。２は、壺の体部上半である。３・４は、甕の口縁部で、これら２点は同一個体の可能性が高い。頸部外面には横走沈線間に櫛描波状文が２段にわたって施される。５は、甕の体部下半の破片である。

１の長頸壺Ｂは、松本平では古代２～４期に出土し、中央自動車道関係での出土資料は全て美濃須衛産と考えられている（小平1990）。このため、今回の工事立会出土須恵器群もこの時期に帰属する可能性が高い。

1　施工地近景（南東から）

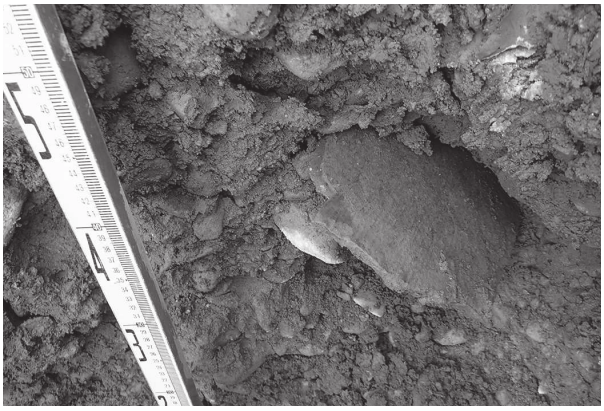
2　北辺擁壁施工状況（西から）

3　浸透桝施工状況（南から）



4　浸透桝掘削東壁

5　遺物出土状況



6　遺物出土状況

2　明科遺跡群本町遺跡（第１表●130）

第49図　本町遺跡工事立会位置図

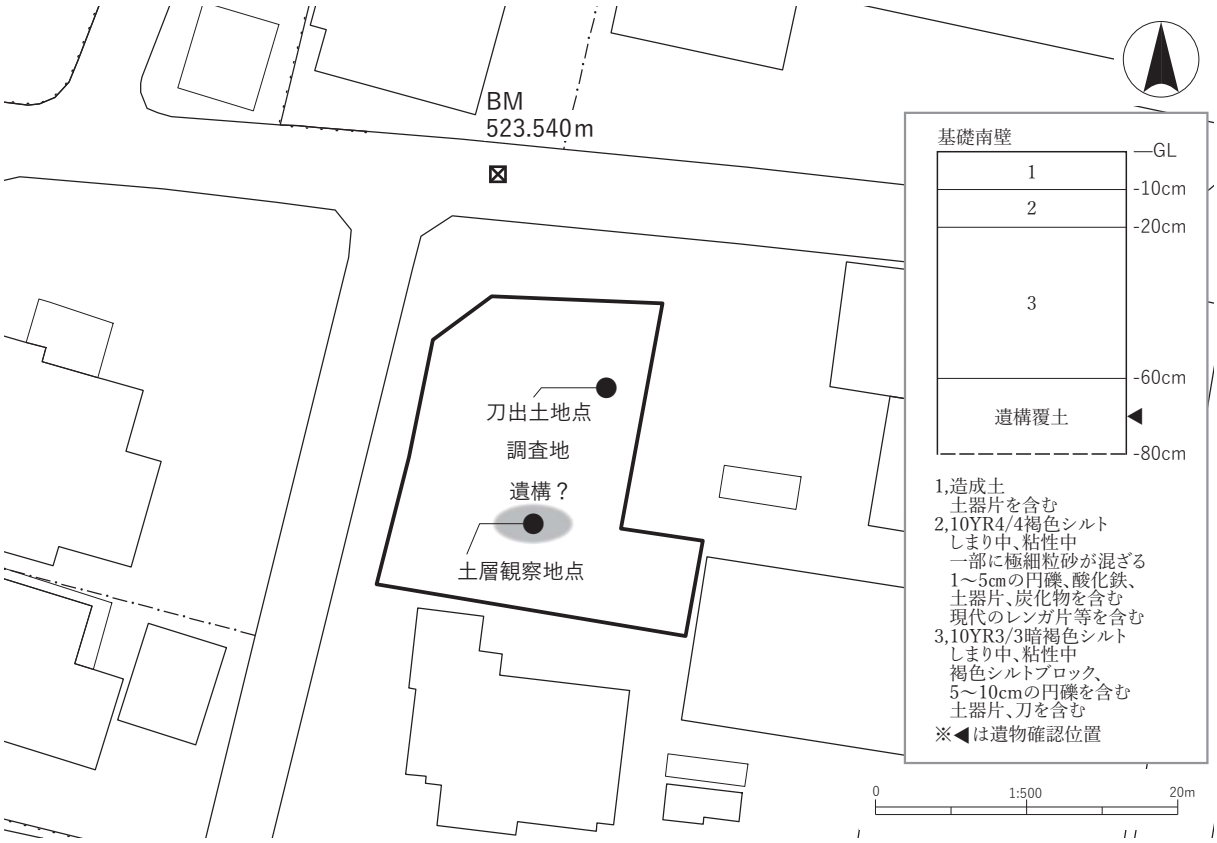
所在地	安曇野市明科中川手3929番１	調査契機	個人住宅
調査期間	令和３年（2021）１月７日～令和３年（2021）２月４日	調査担当者	土屋和章、横山幸子

（１）概要

本町遺跡は、犀川右岸の段丘上に所在する弥生～平安時代の集落跡である。

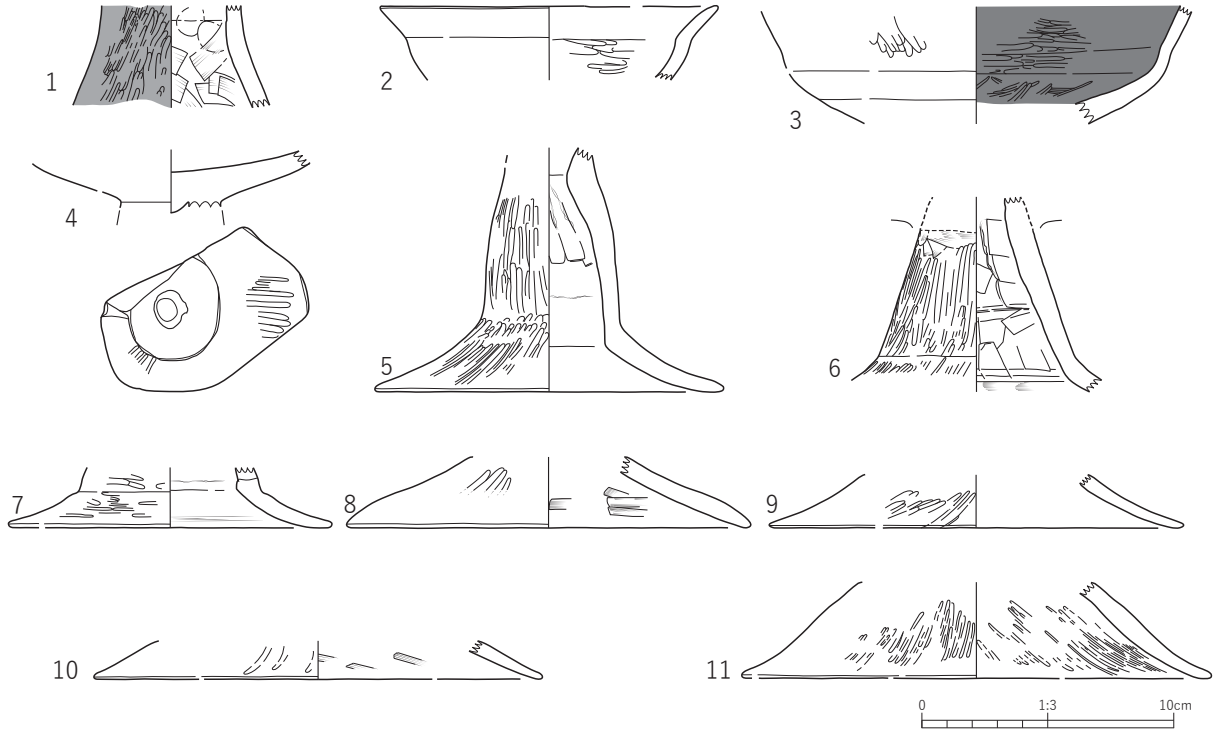
本件工事立会は、個人住宅建設の基礎掘削に際して実施した。住宅基礎の南東隅付近で、第３層の下位から古墳時代の土器片が多数出土した。この土層は、土器以外に炭化物等を包含するため遺構覆土と考えられるが、工事での掘削深度より深く掘り下げての調査はしていない。また、住宅基礎東辺の第３層から、年代不明の刀が出土した。令和２年（2020）６月18日に市道改良に先立ち隣接地で実施した試掘（本書第２章３）の結果では、第１～３層は、土器小破片の他に近代のレンガ等が多く混入する造成土であることが判明しており、本件施工地全体に広がっている。

上記の結果から、本件施工地では第１～３層が全体的に存在するが、部分的に古墳時代の遺構覆土の可能性が高い土壌も堆積しており、今後の土木工事では注意が必要である。

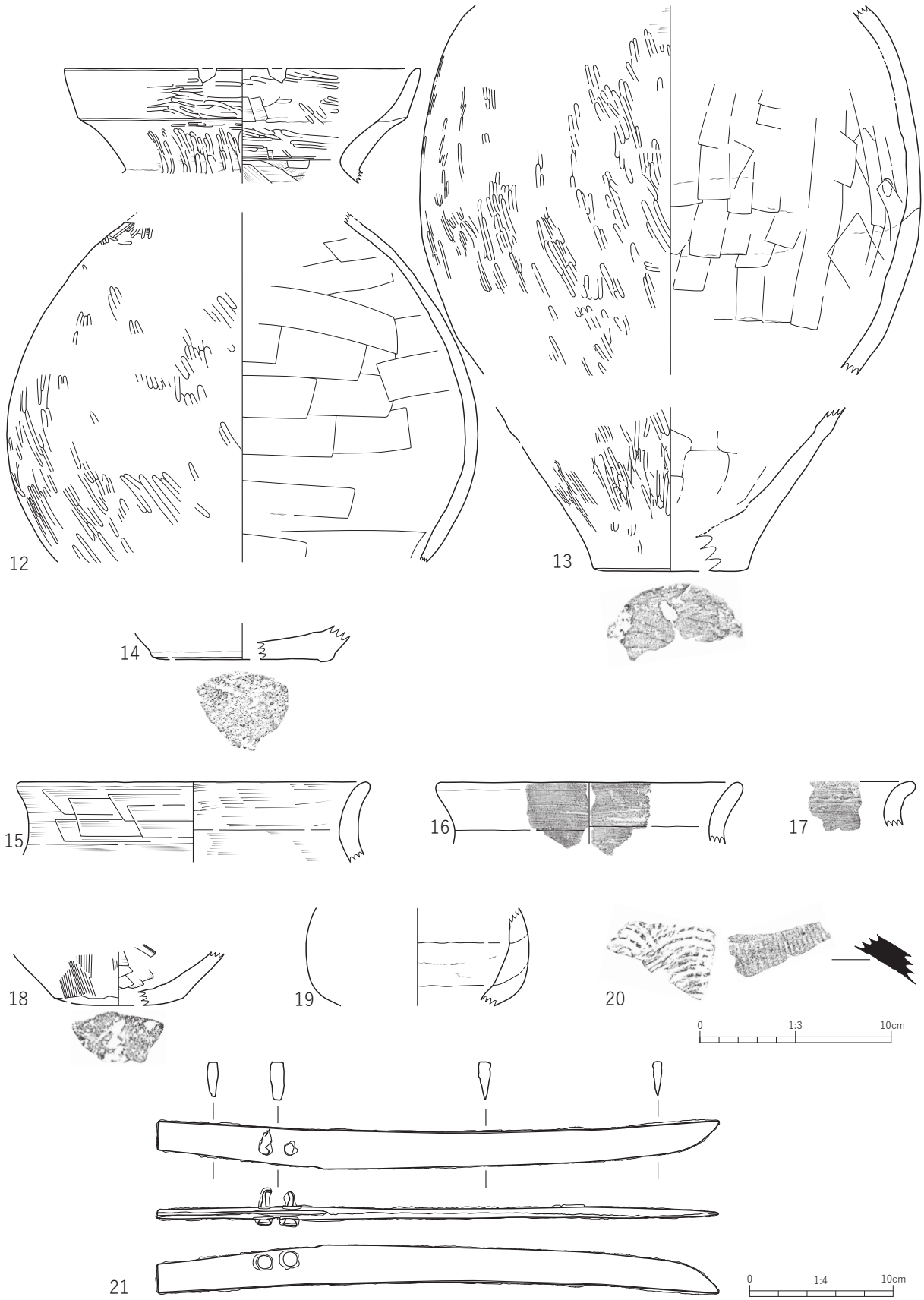


第50図　本町遺跡工事立会概要図

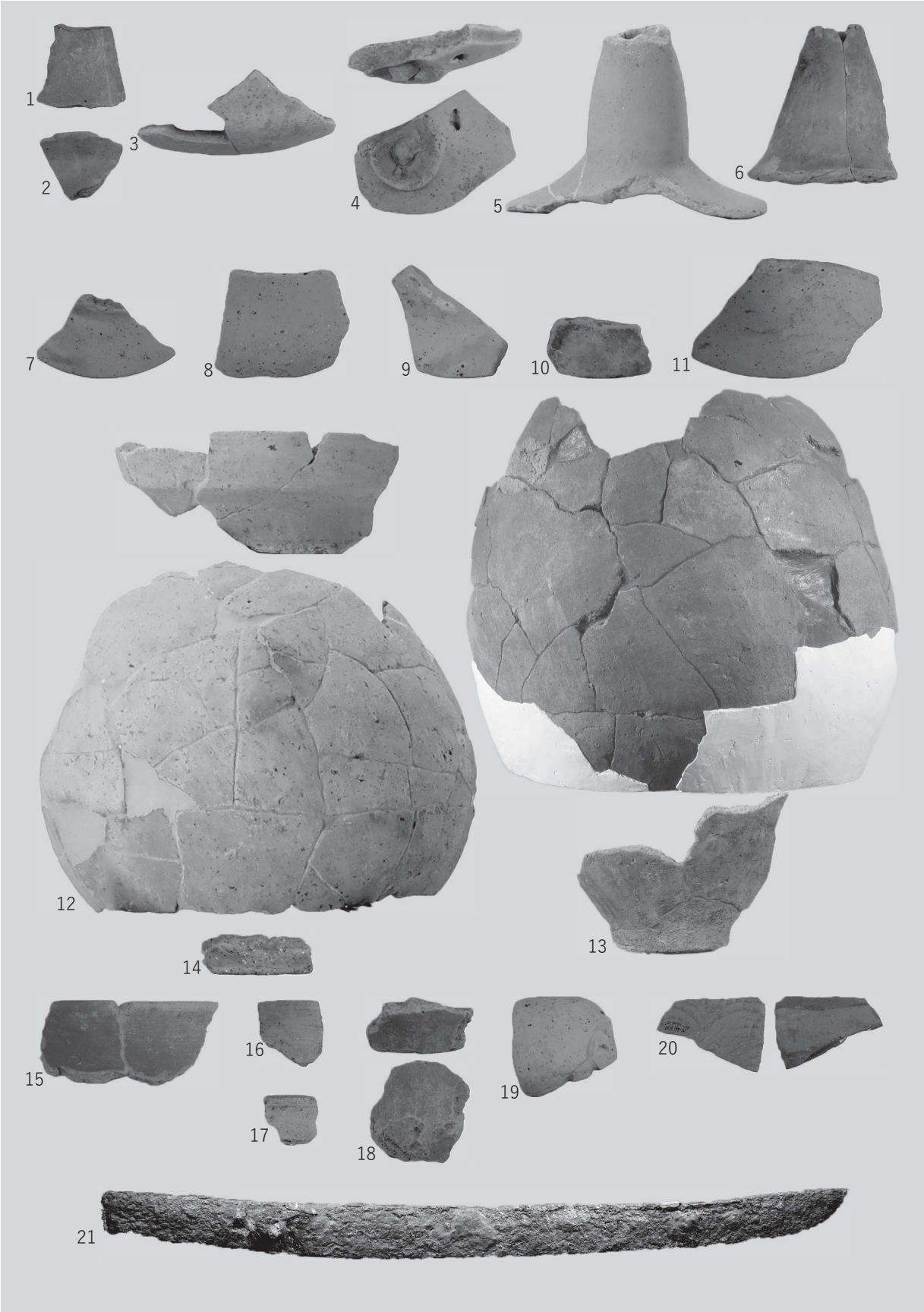
（２）遺物



第51図　本町遺跡工事立会出土遺物１



第52図　本町遺跡工事立会出土遺物２



第53図　本町遺跡工事立会出土遺物写真

第６表　本町遺跡工事立会出土遺物観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径（cm）		底径（cm）		器高（cm）		技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	排土	不明	弥生土器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	4.1	残	ミガキ＋赤彩	オサエ＋工具ナデ	—	
2	排土	不明	土師器	坏	口縁部～体部上半	13.4	復	不明	—	2.9	残	ナデ＋ミガキ	ヨコミガキ	不明	
3	排土	不明	黒色土器	坏	体部上半	不明	—	不明	—	4.7	残	ミガキ	ミガキ＋黒色処理	不明	非ロクロ坏 内面放射状ミガキ
4	遺構	不明	土師器	高坏	体部下半	不明	—	不明	—	2.5	残	ミガキ	ミガキ	不明	内面粗れ
5	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	9.7	残	ミガキ	絞＋ナデ	—	脚部裾径13.8㎝（実測） 輪積痕残る
6	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	7.7	残	ミガキ	絞＋ナデ	不明	
7	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	2.4	残	ミガキ	ハケメ	—	脚部裾径12.8㎝（復元）
8	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	2.8	残	ミガキ	ナデ	—	脚部裾径16.0㎝（復元）
9	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	2.1	残	ミガキ	ナデ	—	脚部裾径16.4㎝（復元）
10	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	1.5	残	ミガキ	ハケメ	—	脚部裾径17.8㎝（復元）
11	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	3.8	残	ミガキ	ミガキ	—	脚部裾径18.6㎝（復元）
12	遺構	不明	土師器	壺	口縁部～体部下半	18.6	復	不明	—	24.3	残	ナデ＋ミガキ	ハケメ＋ナデ＋ミガキ	不明	
13	遺構	不明	土師器	壺	体部上半～底部	不明	—	8.0	復	27.9	残	ミガキ	ナデ	ミガキ	
14	遺構	不明	土師器	壺	体部下半～底部	不明	—	9.4	復	1.9	残	不明	不明	不明	
15	排土	不明	土師器	甕	口縁部～頚部	18.4	復	不明	—	4.2	残	横ナデ	横ナデ	不明	
16	遺構	不明	土師器	甕	口縁部～頚部	16.0	復	不明	—	3.2	残	横ナデ	横ナデ	不明	
17	排土	不明	土師器	甕	口縁	不明	—	不明	—	2.6	残	横ナデ	横ナデ	不明	
18	排土	不明	土師器	甕	体部下半～底部	不明	—	6.8	復	2.8	残	ハケメ	ナデ	ナデ	
19	排土	不明	土師器	鉢	体部下半	不明	—	8.0	復	5.1	残	ナデ	ナデ	ナデ	
20	排土	不明	須恵器	甕	体部上半	不明	—	不明	—	2.6	残	タタキ＋横ナデ	当具痕	不明	頚部付近

No.	遺構	層位	器種	材質	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	備考
21	東壁カクラン	—	短刀	鉄	39.2	2.8	0.9	333.5	目釘厚2.6㎝

工事立会で出土した遺物21点を資料化した。出土遺物は、弥生時代後期・古墳時代中～後期の土器、近世以降の太刀を加工した短刀のほか、近代の陶磁器小片が出土した。このうち古墳時代中期にあたる５世紀中頃～後半に帰属する壺と高坏等の土器がまとまって検出されたことから（４～14）、当該期の遺構の一部が残されていた可能性がある。

１は、弥生時代後期後半の小型高坏の脚部である。外面にはミガキと赤彩が施され、器厚が0.7cm と薄い精緻な作りである。同時期の土器としては、赤彩された壺の胴部破片が検出された。

２・３は、古墳時代中・後期に属する埦形の坏である。２は、口縁端部がやや外反し、頸部が緩やかに屈曲して底部接地面が小さい埦形状の坏である。内外面に精緻なミガキと、口縁端部外面にはナデが施され、器厚は0.5cm と薄い作りである。坏胴部が膨らまない形状であることから、古墳中期の一括遺物と同時期とみられる。３は、口縁端部を欠損するが器形の約３分の１が残存する。口縁部が内弯気味に開き、屈曲部から胴部がやや膨らみ、埦状に浅く底部にいたる形状である。内面は横ミガキとともに入念な黒色処理が施されている。胴部に比べ口縁部が長い坏形状で、黒色処理が緻密であることから古墳時代後期後半の時期に帰属する。

４～11は、高坏の一部であり、４が坏底部、５・６が脚上部から裾部、７～11が裾部から端部である。口縁部及び坏上半部を確認できる資料はないが、８点ともに類似する形状と判断した。坏部の形状は、坏底部が水平となり、屈曲して口縁部が外傾して開き、断面台形状の器形が想定される。脚部は中空で、上部は中央が張り気味の筒形円柱形となり、裾部が屈曲して開く形態の５と、脚部が「ハ」字に直線的に開き裾部が緩く屈曲する形態の６の２種類がある。７～10の裾部は５の形状、11の裾部は６の形状に復元される。４の坏底部には中空脚に坏部を上面から接合した粘土と粘土突起が残され、５の脚部には輪積み痕、また５・６の内面には絞り痕と縦・横位のナデ調整が残されている。７～９の裾部器面は一部摩滅もあったが、外面には縦方向の緻密なミガキが施され、10・11には内面に放射状のミガキが残るなど精緻な作りである。

12～14は壺で、12・13ともに接合部位がないため、同一個体であるが部位別に図示した。12は、口縁部約３分の１が残存し、口縁径20cm 以下の中型の二重口縁壺である。口縁部は、外部有段面が明瞭で、内面は稜をもたず緩やかに外傾する形態をとり、頸部上部に口縁粘土帯を付加して接合している。胴部は、下半に最大径をもつ卵球形となる。外面調整は、口縁部横方向、頸部縦方向、胴部縦・斜め方向のミガキが施され、内面は口縁・頸部ともにハケ目調整の後、ミガキ・ナデが施され、胴部はハケ調整が残っている。胴部の器厚が0.5cm 以下と薄く、精選された胎土で丁寧な作りである。13は口縁部を欠損するが底部・胴部とも約３分の１が残存する。底径8.0cm で、胴部の残存高が27cm 以上あることから胴部最大径を中位にもつ球形の大形壺と推定される。外面調整は、縦方向の粗いミガキ、内面はハケナデが施されて、底面もミガキが残っている。14は摩滅が著しく調整が不明であるが、底部６分の１が残存する、底径9.4cm の大形壺と推定される。13・14の胎土は１mm 大の砂礫を多く含む胎土で、ミガキ調整も粗雑であることから、12の二重口縁壺と異なる短口縁の広口壺であろうと思われる。

15～18は甕で、15～17は口縁部、18は底部の破片である。全体形状を確認できるものはないが、頸部が屈曲する球胴形態と思われる。15～17の口縁部の内外面調整は横ナデが施され、端部の形状は丸く仕上げられている。口径が20cm 以下であることから中型の甕である。18は、ハケ調整が施され底部縁辺まで及び、底部はやや弯曲する不安定な形状であり、種子の圧痕が観察されている。甕の胎土は、いずれも１～２mm 大の砂礫粒を含んでいる。

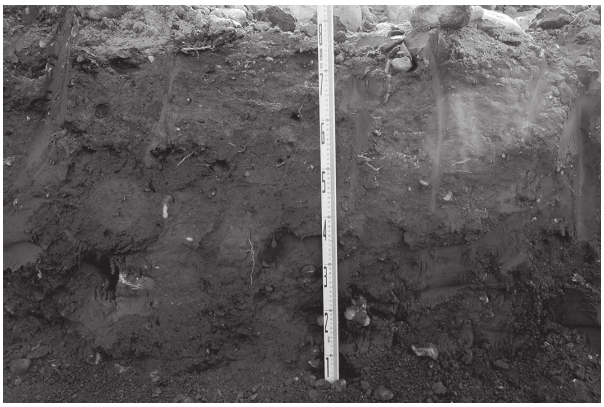
19は、胴下半部が約６分の１残存する鉢もしくは小型壺の一部である。胴部に丸味をもち底部が緩や

かに弯曲する器形であり、器厚は１cm 前後で輪積み痕が観察される。胎土は12の壺と類似し、比較的精選された粘土である。

20は、須恵器甕の胴部上半の破片である。外面は平行タタキ後に横方向のナデが確認でき、内面には当て具痕が明瞭に残されている。この他に須恵器を数片検出したが、いずれも甕で古墳時代後期以降の所産である。

21は、推定長が80cm に及ぶ太刀で、切先から39.2cm を折損した後に転用した短刀である。棟区、刃区とも確認されず、茎尻となる端部から7.6cm と9.6cm の刃部中央に目釘が残る。目釘穴の間隔は2.0cm である。全長39.2cm の短刀として、切先から27.0cm を刃部、残りの12.2cm を茎として使用したものと推定できる。目釘は丸釘であり、頭が径約1.0cm、長さ約3.0cm で、先端が丸く欠損している。茎には適当な木質柄を装着していたことが予想される。この状況から本遺物は、近代に太刀を短刀に造り替えて転用し、破棄したものと判断した。

今回の工事立会では、西隣する龍門淵遺跡からこれまでに出土している弥生時代後期～古墳時代前期の赤彩壺、小型高坏、櫛描文の甕と古墳中～後期の坏、高坏等と同時期の土器を検出した（明科町史編纂会編1984）。龍門淵遺跡では土器の他に鋸歯文様が刻まれた紡錘車形石製品などが検出され、祭祀関連遺構としての評価がなされている。今回の工事立会で出土した土器は５世紀代の高坏を主体とする土器組成であり、龍門淵遺跡とのかかわりが注目される。また安曇野市内では遺構・遺物検出の稀少な時期でもある。



1　住宅基礎掘削南壁

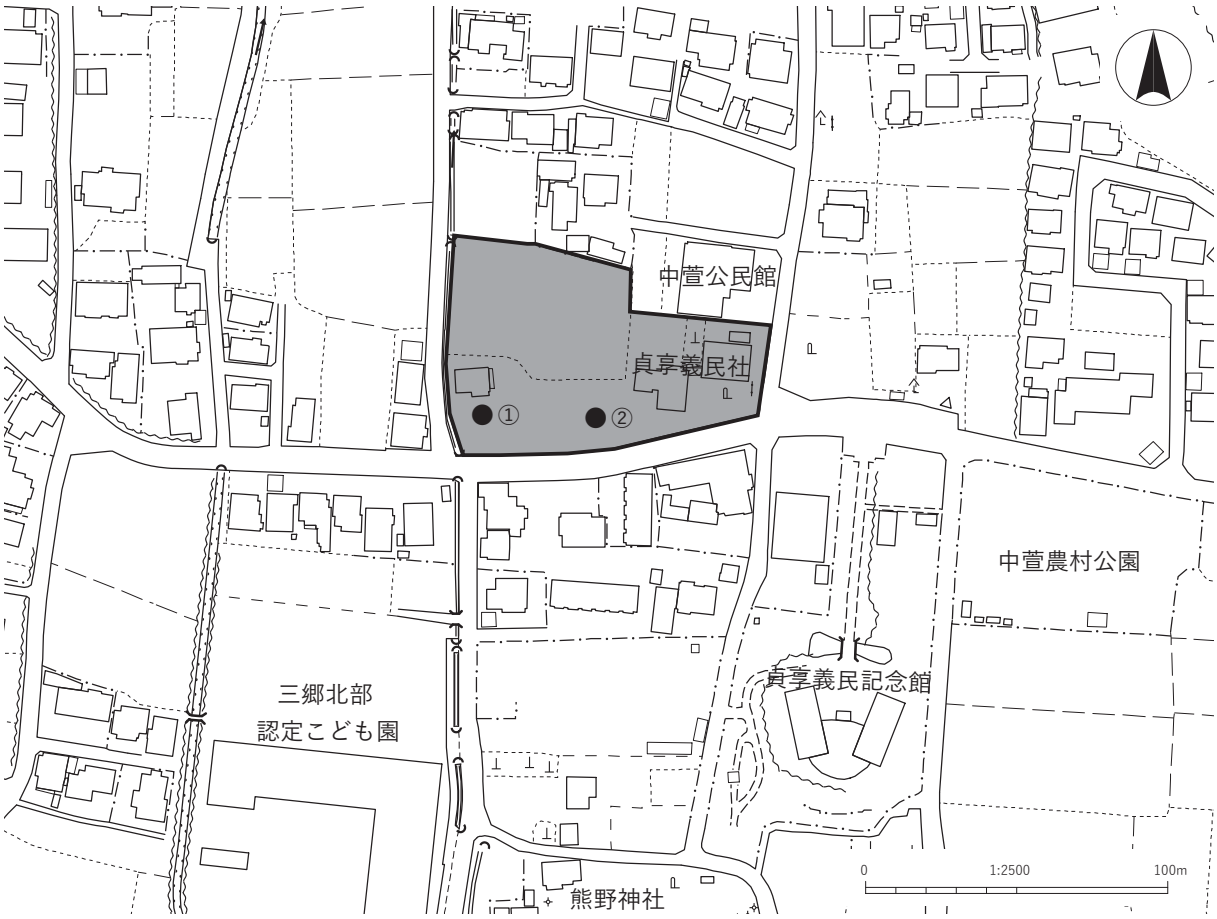
2　遺物出土状況（住宅基礎掘削東壁）

3　地下室掘削遠景（西から）

4　地下室掘削近景（西から）

第４章　史跡の現状変更等

１　長野県史跡　多田加助宅跡（ただかすけたくあと）



第54図　多田加助宅跡調査位置図

所在地	安曇野市三郷明盛3334番２	調査面積	①５㎡／②５㎡
調査期間	①令和２年（2020）６月23日 ②令和３年（2021）３月15日～３月19日	調査契機	①上水道管敷設 ②切株撤去
調査参加者	中谷高志、土屋和章、横山幸子、臼居直之、田多井智恵、望月裕子、宮下智美、寺島俊郎		

（１）概要

多田加助宅跡は、昭和35年（1960）２月11日に長野県史跡に指定された。多田加助は貞享騒動の中心人物であり、この史跡は多田加助の居宅が存在したとされる場所である。

令和２年度は、この史跡内で、①上水道管敷設、②切株撤去の２件の現状変更が行われ、これらに際し安曇野市教育委員会が土層観察・記録作成を実施した。

（２）上水道管敷設にかかる調査（第56図）

上水道管敷設に際し、工事立会を実施した。この調査位置等は、第54図に①で示した。①では、住宅の上水道管敷設のため延長10.9m、幅0.5m、深度0.8m の掘削を実施した。掘削には建設用重機を使用し、掘削範囲外に影響を与えないように配慮した。掘削範囲では、２か所の撹乱のほか、近現代の住宅に付属した外便所の基礎を確認した。また、掘削範囲南端付近では、掘削底面に砂の堆積を確認した。この地点は、江戸時代の絵図では堀が描かれており、今回確認した砂は堀の堆積物である可能性が高い。

（３）切株撤去にかかる調査（第57～58図）

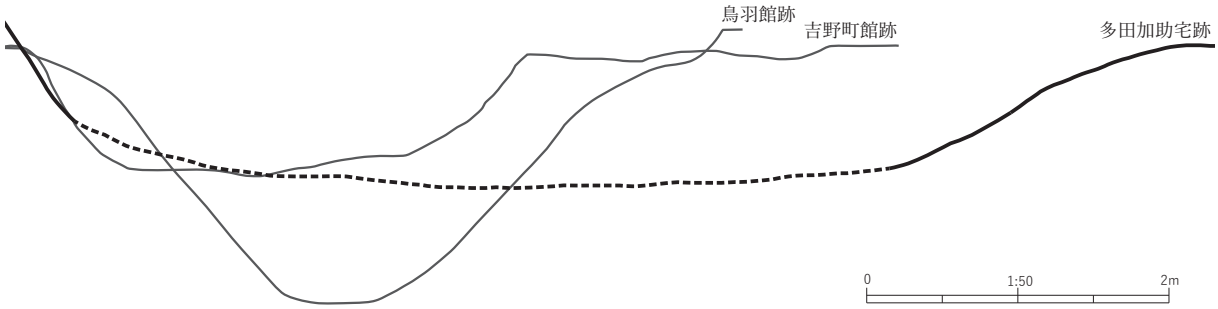
土堤※上のアカマツが枯損し倒伏したため、切り株を撤去し埋戻した。この調査位置等は、第54図に②で示した。倒伏したアカマツの樹幹は令和２年（2020）10月に撤去したが、切り株は残置し令和３年（2021）３月９日に安曇野市教育委員会職員立会いのもと建設用重機を使用して撤去した。撤去した箇所は即日埋戻しをせず、３月15～19日に記録作成をした後、人力で埋戻した。

記録作成のための調査では、約５㎡のトレンチを設定して土層の確認をした。この結果、堀西側の土堤裾には木造構造物が存在することがわかった。この構造物は、銅線と共伴するため設置されたのは近代以降と判断できる。

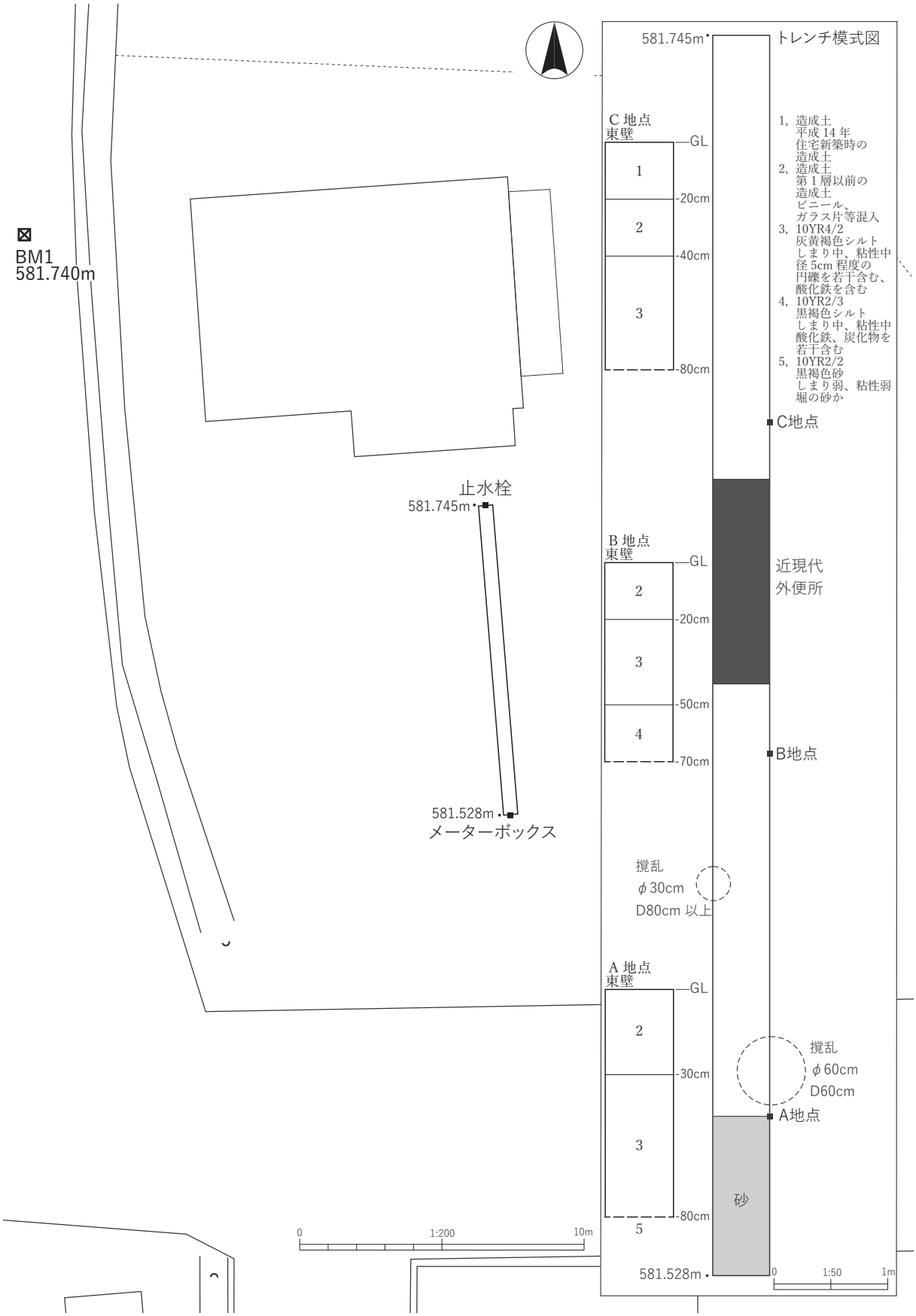
また土堤の土層には、第１段階：地山・基底部構築（第11～18層）、第２段階：本体構築（第６～10層）、第３段階：本体の崩落・植生の影響（第３～５層）、第４段階：木造構造物設置（第１～２層）、の４段階の変遷が認められた。第17層からは土師器または軟質須恵器の坏の小破片が出土したため、この層の形成は平安時代以降と推定できる。第11層下位では、ピットを確認したが、出土遺物が無く構築時期は不明である。また、第３・４段階の層には近現代以降の人工物が包含される。

現存する堀の規模について、安曇野市内において発掘調査で実測されている吉野町館跡及び鳥羽館跡の堀と比較するため、エレベーション実測を実施し、結果を第55図に示した（豊科町教委1992・1994）。

註
※　元治元年（1864）～慶応２年（1866）作成とされる絵図には、調査地と考えられる土の高まりを「土堤」と表記しているため、この報告でも「土堤」を採用する（三郷村誌編纂会編1980、三郷村誌編纂委編2006）。



第55図　堀の規模の比較



第56図　①上水道管敷設にかかる調査概要図

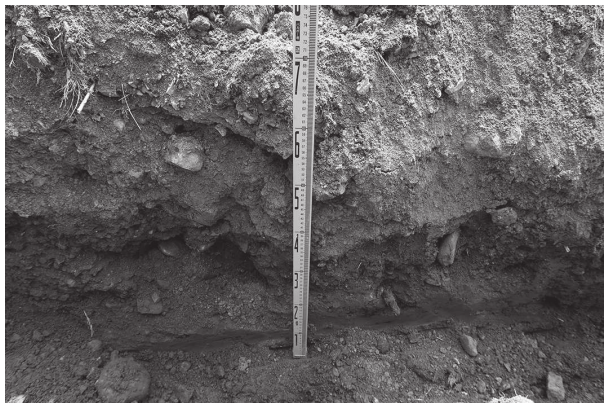
1　①施工状況（北から）

2　①施工状況（南から）

3　①Ａ地点東壁

4　①Ｂ地点東壁

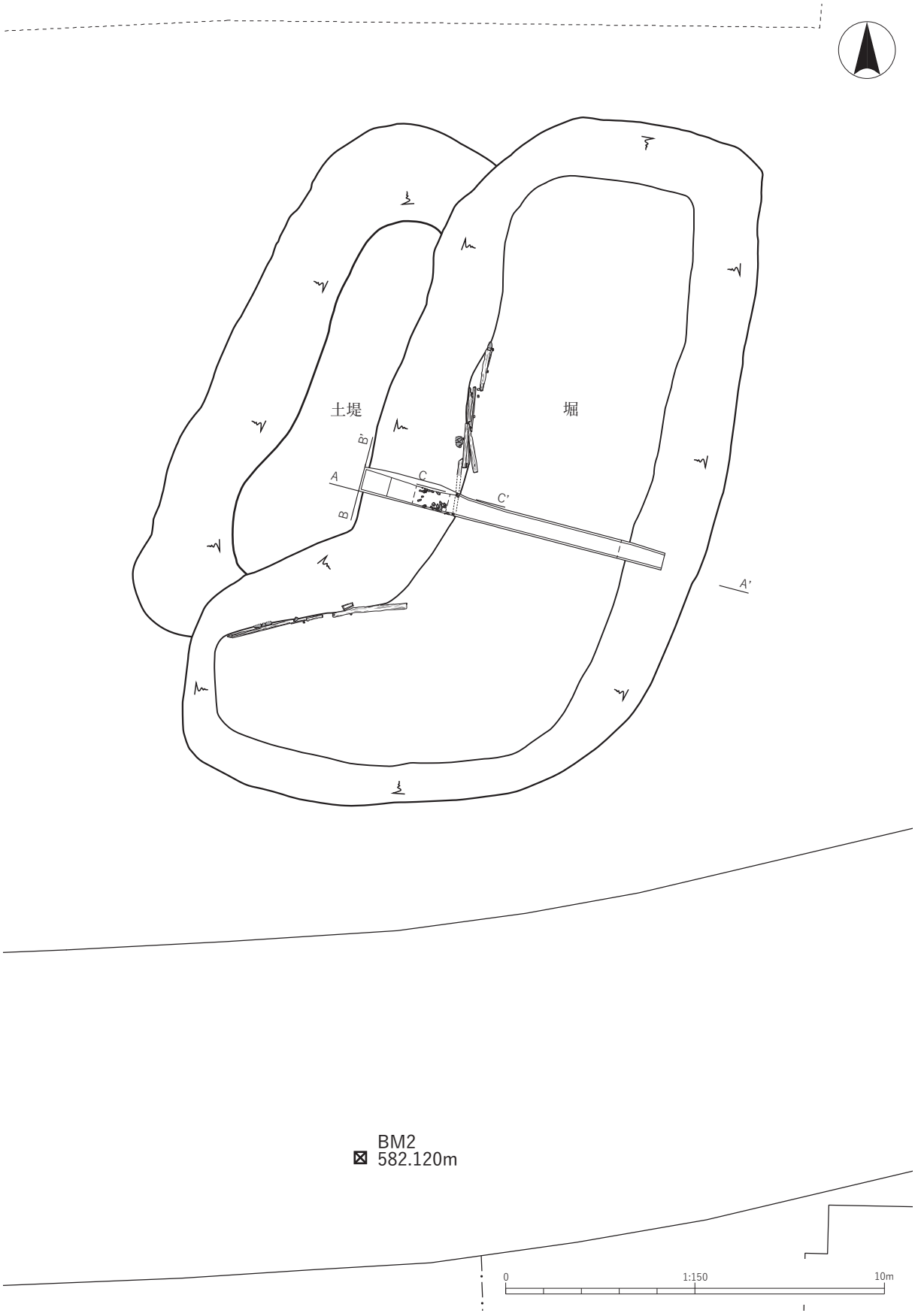
5　①Ｂ・Ｃ地点間便槽



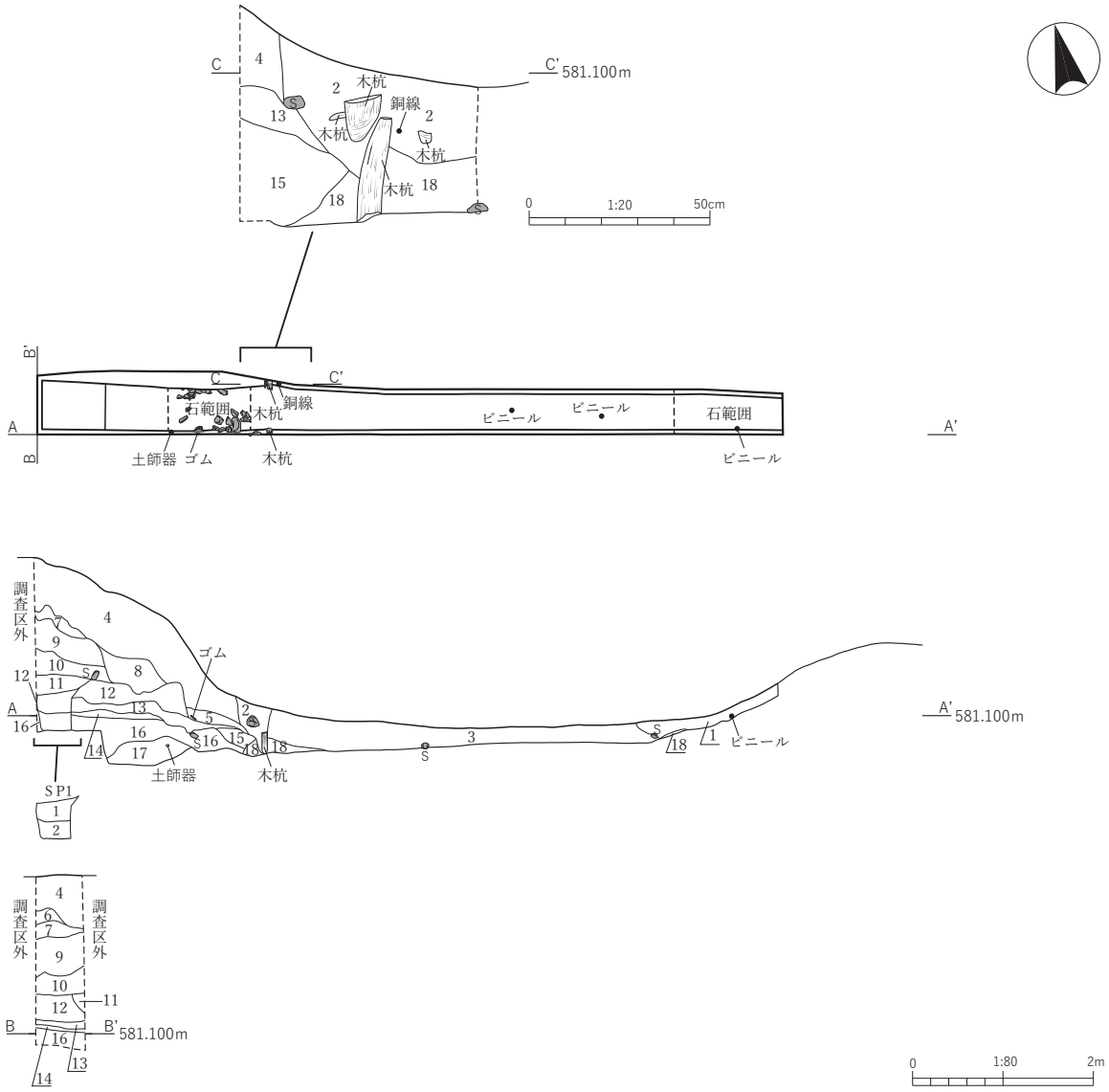
6　①Ｃ地点東壁

7　①埋戻し後（北から）

8　①埋戻し後（南から）



第57図　②切株撤去にかかる調査平面図



1,10YR3/3 暗褐色粘土、しまり弱、粘性強
　3 ～ 5cm の円礫を多く含む、ビニール片を含む
2,10YR3/3 暗褐極細粒砂、しまり弱、粘性弱
　10cm 程度の円礫を含む、ビニール紐、銅線を含む
　下部に杭、板あり、杭設置時の堀への堆積土
3,10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂、しまり弱、粘性弱
　10cm 以下の円礫、ビニール片を含む
4,10YR3/4 暗褐色細粒砂、しまり弱、粘性弱
　5cm 程度の円礫を少量含む
　表土のためマツ、ササ等の植物根多い
5,10YR3/1 黒褐色シルト、しまり中、粘性中
　3cm 以下の円礫、板ゴム片を含む
6,10YR3/3 暗褐色極細粒砂、しまり弱、粘性弱
　2mm 程度の円礫を含む、植物根多い、第 8 層に似る
7,10YR3/2 黒褐色シルト、しまり弱、粘性中
　3cm 程度の円礫を少量含む、植物根多い、酸化鉄含む
8,10YR3/3 暗褐色シルト、しまり弱、粘性中
　1cm 程度の円礫を少量含む、植物根多い、第 6 層に似る
9,10YR4/3 にぶい黄褐色シルト、しまり弱、粘性中
　1cm 程度の円礫を含む
　1mm 以下の褐色粒、炭化物を含む
10,10YR4/4 褐色シルト、しまり中、粘性強
　2cm 程度の円礫と 10cm の円礫 1 点を含む
　炭化物、1mm 以下の褐色粒を含む
11,10YR4/2 灰黄褐色シルト、しまり弱、粘性強
　3cm 程度の円礫を含む
12,10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂、しまり中、粘性弱
　1cm 以下の円礫を少量含む、植物根多い
13,10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂、しまり中、粘性弱
　炭化物、酸化鉄を微量含む、植物根多い
14,10YR4/4 褐色シルト、しまり中、粘性中
　第 16 層の粒子を含む、炭化物・微細土器片を含む
15,10YR4/2 灰黄褐色シルト、しまり中、粘性中
　1cm 以下の円礫を含む
　酸化鉄を多く含み、1cm 程度の粒状のものも存在
16,10YR3/4 暗褐色極細粒砂、しまり中、粘性弱
　炭化物、微細土器片を含む、10cm 程度の円礫を 1 点含む
17,10YR4/4 褐色シルト、しまり中、粘性中
　3cm 程度の円礫を少量含む、土器片を含む
18,10YR2/2 黒褐色粘土、しまり中、粘性中
　1cm 程度の黄褐色粘土粒を含む、炭化物を微量含む

ＳＰ1
1,10YR4/3 にぶい黄褐色シルト、しまり中、粘性中
　3cm 程度の円礫を含む
　1mm 以下の炭化物、褐色粒子を含む
2,10YR4/2 灰黄褐色粘土、しまり弱、粘性強
　第 16 層の 5cm 以下のブロックを含む
　炭化物、1mm 以下の褐色粒子を含む

第58図　切株撤去にかかる調査セクション図

1　②調査前遠景（東から）

2　②調査地近景（北から）

3　②トレンチ南壁

4　②トレンチ南壁（杭部分）

5　②トレンチ北壁

6　②土堤裾木造構造物

7　②埋戻し後（東から）

8　②出土土器

引用・参考文献（五十音順）

明科町史編纂会編　1984 『明科町史』上巻　明科町史刊行会

明科町教育委員会　2000 『潮神明宮前遺跡―明科町総合福祉センター建設に伴う緊急発掘調査報告書―』明科町の埋蔵文化財第８集　明科町教育委員会

明科町教育委員会　2005 『潮神明宮前遺跡Ⅱ―町道拡幅改良工事に伴う緊急発掘調査報告書―』明科町の埋蔵文化財第13集　明科町教育委員会

安曇野市教育委員会　2010 『平成20年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書―八ツ口遺跡・三枚橋遺跡―』安曇野市の埋蔵文化財第３集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2017 『明科遺跡群明科廃寺４―個人住宅建設に伴う第４次発掘調査報告書―』安曇野市の埋蔵文化財第12集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2018 『平成28年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書』安曇野市の埋蔵文化財第15集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2019 『潮遺跡群潮神明宮前遺跡３―安曇野市消防団第７分団第１部詰所新築工事に伴う第３次発掘調査報告書―』安曇野市の埋蔵文化財第18集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2020 『三枚橋遺跡３―店舗建設に伴う第３次発掘調査報告書―』安曇野市の埋蔵文化財第21集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2021 『明科遺跡群明科廃寺第５次発掘調査の概要』 安曇野市教育委員会

小平和夫　1990 「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書４―松本市内その１―総論編』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書４　長野県埋蔵文化財センター　pp.97-158

豊科町教育委員会　1992 『吉野町館跡遺跡―県営ほ場整備事業豊科南部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―』 豊科町教育委員会

豊科町教育委員会　1994 『鳥羽館跡遺跡―県営ほ場整備事業豊科南部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―』 豊科町教育委員会

三郷村誌編纂会編　1980 『三郷村誌Ⅰ』 三郷村誌編纂会

三郷村誌編纂委員会編　2006 『三郷村誌Ⅱ』第二巻・歴史編上　三郷村誌刊行会

調査報告書抄録

ふりがな	れいわ２ねんどあづみのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	令和２年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	安曇野市の埋蔵文化財
シリーズ番号	第24集
編著者名	土屋和章、臼居直之、中谷高志
編集機関	安曇野市教育委員会
所在地	〒399-8281　長野県安曇野市豊科6000番地　　TEL 0263-71-2000
発行年月日	西暦2022年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
あかしないせきぐん 明科遺跡群 あがたまちいせき 県　町遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしななかがわて 明科中川手3739番３	20220	5 -410	36° 21’ 17”	137° 55’ 46”	20200408 ～ 20200408	12	道路
とどりきまち 等々力町 ほばうえほばしたいせき 巾上巾下遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたか 穂高4284番１外１筆	20220	2 -35	36° 20’ 29”	137° 53’ 22”	20200605 ～ 20200605	17	駐車場 整備
あかしないせきぐんほんまちいせき 明科遺跡群本町遺跡 ・あかしないせきぐんりゅうもんぶちいせき 明科遺跡群 龍 門淵遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしななかがわて 明科中川手3929番４ 外１筆	20220	5 -414 5 -412	36° 21’ 22”	137° 55’ 37”	20200618 ～ 20200618	11	道路
あかしないせきぐん 明科遺跡群 さかえちょういせき 栄　町 遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしななかがわて 明科中川手3727番１	20220	5 -411	36° 21’ 18”	137° 55’ 50”	20200715 ～ 20200715	5	道路
あかしないせきぐん 明科遺跡群 あかしなはいじ 明科廃寺	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしななかがわて 明科中川手3531番５ 外３筆	20220	5 -409	36° 21’ 12”	137° 55’ 43”	20201125 ～ 20201214	10	道路、 個人住宅
あかしないせきぐん 明科遺跡群 あがたまちいせき 県　町遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしななかがわて 明科中川手3749番２	20220	5 -410	36° 21’ 15”	137° 55’ 47”	20210106 ～ 20210106	14	道路
みなみまつばらいせき 南　松原遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 みさとおぐら 三郷小倉6412番１	20220	3 -10	36° 14’ 56”	137° 50’ 48”	20210204 ～ 20210204	6	工場
うしおいせきぐんうしおしんめいぐうまえいせき 潮　遺跡群 潮 神明宮前遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしなひがしかわて 明科 東 川手528番６ 外１筆	20220	5 -501	36° 21’ 34”	137° 55’ 50”	20210210 ～ 20210210	5	太陽光 発電施設
うしおいせきぐんうしおしんめいぐうまえいせき 潮　遺跡群 潮 神明宮前遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしなひがしかわて 明科 東 川手263番１	20220	5 -501	36° 21’ 33”	137° 55’ 48”	20210322 ～ 20210322	1	農業用 倉庫
やつくちいせき 八ツ口遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたかかしわばら 穂高 柏 原960番１ の一部	20220	2 -56	36° 19’ 41”	137° 53’ 26”	20210323 ～ 20210323	46	個人住宅
さんまいばしいせき 三枚橋遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたかかしわばら 穂高 柏 原962番５ 外２筆	20220	2 -47	36° 19’ 43”	137° 53’ 27”	20210329 ～ 20210329	10	宅地造成

多田加助宅跡（ただかすけたくあと）	長野県安曇野市（ながのけんあづみのし）三郷明盛3334番2（みさとめいせい）	20220	—	36°16’29”	137°53’44”	20200623～20200623	5	上水道管敷設
多田加助宅跡（ただかすけたくあと）	長野県安曇野市（ながのけんあづみのし）三郷明盛3334番2（みさとめいせい）	20220	—	36°16’29”	137°53’44”	20210315～20210319	5	切株撤去

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
明科遺跡群 県町遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では 埋蔵文化財が存在せず。
等々力町 巾上巾下遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では 埋蔵文化財が存在せず。
明科遺跡群本町遺跡 ・明科遺跡群龍門淵遺跡	集落跡 祭祀跡	弥生時代 古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	土師器小破片	造成土と地表下40cm付近の撹乱を受けた層から土器片が出土。
明科遺跡群 栄町遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	なし	地表下70cm付近から土師器小破片1点が出土。
明科遺跡群 明科廃寺	社寺跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	ピット1	なし	地表下80cm付近からピットを検出。
明科遺跡群 県町遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では 埋蔵文化財が存在せず。
南松原遺跡	集落跡	縄文時代	なし	なし	調査範囲・深度では 埋蔵文化財が存在せず。
潮遺跡群 潮神明宮前遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	土坑1	土師器、黒色土器A、陶器	古墳時代～中世の遺物がごく少量出土。
潮遺跡群 潮神明宮前遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	黒色土器A、須恵器	須恵器甕D等が出土。
八ツ口遺跡	集落跡	奈良時代 平安時代 中世	なし	土師器、黒色土器A、軟質須恵器、鉄鏃	平安時代の遺物が出土したが、遺構はない。
三枚橋遺跡	集落跡	弥生時代 ～ 中世	なし	なし	摩耗した微細土器片を含む土層あり。
多田加助宅跡	—	—	堀の一部	なし	長野県史跡 南端で堀の一部を検出。
多田加助宅跡	—	—	土堤	土師器	長野県史跡 土堤断面の記録作成。土師器小片1点が出土。

要約	令和２年度に長野県安曇野市内で実施した埋蔵文化財保護措置及びこれに伴う試掘・工事立会の結果を掲載した。発掘調査等の総数は全157件で、全件にあたる157件を安曇野市教育委員会が主体となって実施した。なお、この内訳は発掘調査２件、試掘11件、工事立会88件、慎重工事56件である。また、これ以外に、長野県史跡多田加助宅跡の現状変更等にかかる調査を、２回実施した。 試掘調査の成果は、11件を掲載した。明科遺跡群明科廃寺では、地表下80cmから、寺院に関係する可能性の高いピットを検出した。また、明科遺跡群本町遺跡・明科遺跡群龍門淵遺跡、潮遺跡群潮神明宮前遺跡、八ツ口遺跡では、遺物が出土したが遺構は検出できなかった。 この他、遺物が出土した工事立会の成果を２件掲載した。追堀遺跡では、宅地造成に際し浸透桝設置箇所から須恵器破片が出土した。また、明科遺跡群本町遺跡では、個人住宅建設に際し古墳時代の土器、時期不明の短刀が出土した。 また、長野県史跡多田加助宅跡の現状変更等にかかる調査結果も掲載した。この史跡では、令和２年度に２件の現状変更等があり、いずれも土壌の掘削を伴うものであったため、記録作成を実施した。上水道管敷設にかかる調査では、調査地南端で堀の可能性のある砂層を検出した。切株撤去にかかる調査では、土堤の掘削断面を図化した。

安曇野市の埋蔵文化財第24集
令和２年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書

発行　令和４年（2022）３月31日
安曇野市教育委員会
〒399-8281　長野県安曇野市豊科6000番地
電話0263-71-2000
編集　安曇野市教育委員会
印刷　電算印刷株式会社